地質学雑誌　第116巻　第8号（通巻1379号）付録　[redacted]　平成22年8月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会
第117年学術大会プログラム

会期　2010年9月18日（土）～20日（月・祝）
会場　富山大学五福キャンパスほか

日本地質学会 News

Vol.13 No.8 August 2010

おかげさまで創立20周年になりました
ご愛顧に多謝
これからもお役立て下さい

平成22年4月より

◎ 地質図・地球科学文献コピー代行料金大幅値下げ

- 基本料金（1文献）　：735円 → 683円
- コピー料金（モノクロ）：1枚95円 → 1頁（A4版以下）48円
- カラーコピー　：1枚630円 → 1頁（A4以下）315円
  → 地質図・シート（A3以下）1枚630円

□ 枚数建てから頁数建てに改訂しました．奇数ページの場合特にお安くなります．

◎ 注文プリント取り次ぎ手数料改定

1枚目420円2枚目以降1枚に付き210円 → すべて1枚に付き315円

□ 手続き簡素化・多くの1枚のみご注文の方々に値下げとなります．

◎ 地球化学標準試料の委託販売はじめました

独）産総研地質調査総合センター作成の化学分析用標準試料

詳しくは下記当社ホームページをご覧下さい

http://www008.upp.so-net.ne.jp/gsis/gsis-J.htm

∝ ∝

■ 地質調査総合センター* 発行地質図類の販売

- 5万分の1地質図幅・20万分の1地質図幅・50万分の1地質図幅など
- 100万分の1地質図・200万分の1地質編集図など
- 数値地質図（CD－ROM）・活構造図・活断層ストリップマップ・火山地質図・地球化学図・水理地質図・地熱資源図・鉱物資源図・炭田図・油田ガス田図・特殊地質図・海洋地質図・重力図・空中磁気図・東アジア災害図など
- 在庫切れ地質図の注文プリント取り次ぎ・古書の販売いたします　ご相談ください

■ 地質図・地球科学文献コピー代行

■ 地球科学論文・文献の翻訳・英文添削

■ 地学データのデジタル化・計算機入力

■ 地球科学文献調査・検索

■ その他 地学情報に関連する業務

＊独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター（旧地質調査所）

地学情報サービス　株式会社　GSIS

代表取締役社長　垣 見 俊 弘

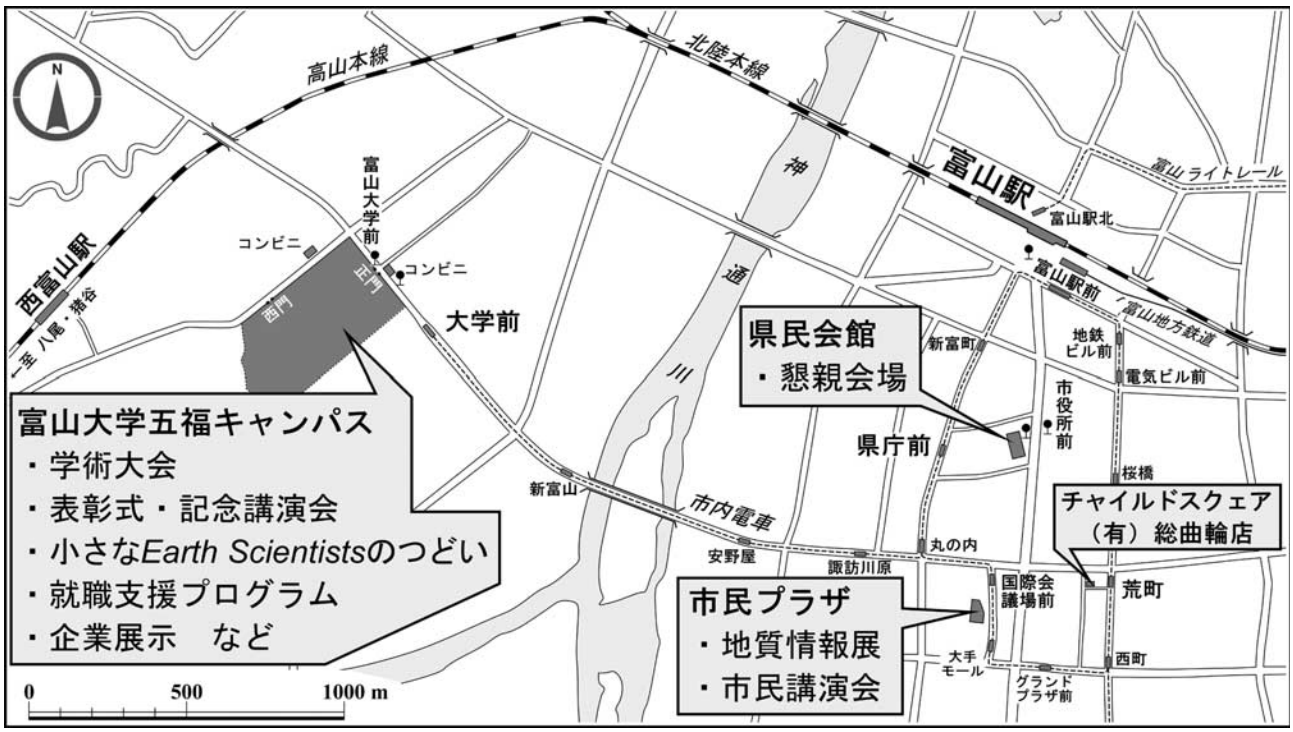
〒305-0045　つくば市梅園2丁目32-6
Fax. 029-856-0568
Tel. 029-856-0561
E-mail:gsis@kb3.so-net.ne.jp

Geoscience Information Services Co.,Ltd.　Home page:http://www008.upp.so-net.ne.jp/gsis/gsis-J.htm

日本地質学会第117年学術大会プログラム

会　期　2010年9月18日（土)～20日（月・祝）
会　場　富山大学五福キャンパス ほか

後援　NHK富山放送局・チューリップテレビ・北日本放送・富山テレビ放送・北日本新聞社・富山新聞社・富山県・富山県教育委員会・富山市・富山市教育委員会・富山大学



会場への交通機関のご案内

○　**一般発表，シンポジウム，特別講演会，表彰式・記念講演会，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会ほか：**
富山大学五福キャンパス共通教育棟（富山市五福 3190）

○　**地質情報展2010とやま「海・山ありて富める大地」：**
富山市民プラザ 2Ｆ アートギャラリー・アトリウム，3Ｆ AVスタジオ（富山市大手町6-14）

○　**市民講演会「北陸の大地をゆるがす地震と恐竜」：**
富山市民プラザ 4Ｆ アンサンブルホール（富山市大手町6-14）

富山大学五福キャンパスへの行き方は以下の通りです.

＜JR高山本線利用の場合＞

・西富山駅より徒歩20分

＜富山地方鉄道路線バス利用の場合＞

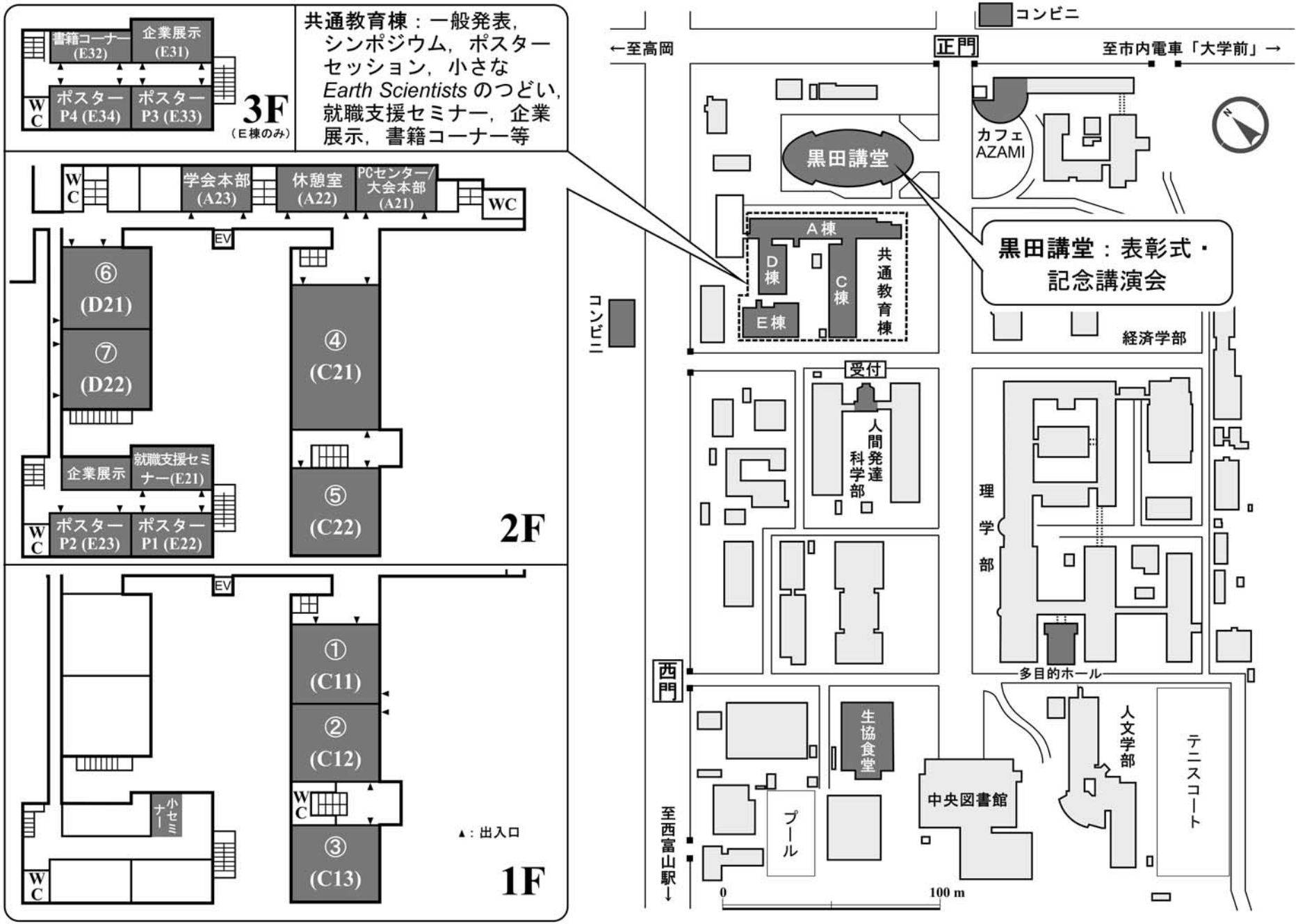
・JR富山駅南（正面）口交通広場 富山地方鉄道路線バス 3 番乗場【富山大学方面】発の全てのバス（路線番号 10，11，12，14，15，16，19）にて「富山大学前」下車（約20分，230円）.

＜富山地方鉄道市内電車利用の場合＞

・JR富山駅南（正面）口交通広場 市内電車乗場「富山駅前」より，富山地方鉄道市内電車 2 系統【大学前】行きにて，終点「大学前」下車（約20分，200円）．進行方向へ徒歩 5 分.

※富山大学五福キャンパスは駐車スペースが少ないため，乗用車でのご来訪は極力ご遠慮ください.

会場内構内の図


共通教育棟：一般発表，シンポジウム，ポスターセッション，小さな *Earth Scientists* のつどい，就職支援セミナー，企業展示，書籍コーナー等
3F
（E棟のみ）
書籍コーナー (E32)
企業展示 (E31)
ポスター P4 (E34)
ポスター P3 (E33)
WC
2F
学会本部 (A23)
休憩室 (A22)
PCセンター/大会本部 (A21)
⑥ (D21)
⑦ (D22)
④ (C21)
⑤ (C22)
企業展示
就職支援セミナー(E21)
ポスター P2 (E23)
ポスター P1 (E22)
EV
1F
① (C11)
② (C12)
③ (C13)
小セミナー
▲：出入口
コンビニ
←至高岡
正門
至市内電車「大学前」→
カフェ AZAMI
黒田講堂
黒田講堂：表彰式・記念講演会
A棟
D棟
C棟
E棟
共通教育棟
経済学部
受付
人間発達科学部
理学部
多目的ホール
西門
生協食堂
プール
中央図書館
人文学部
テニスコート
至西富山駅→
0
100 m

来賓挨拶・各賞表彰式・記念講演

9月18日（土）15：20〜17：35　会場：富山大学五福キャンパス黒田講堂ホール

15：20-15：40　来賓ご挨拶
Prof. Ochir Gerel（モンゴル地質学会国際間系・高等教育担当理事，IUGS副会長）
西頭徳三氏（富山大学学長）
15：40-16：50　新名誉会員，50年会員顕彰式，各賞授与式
16：50-17：05　日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ　後藤和久氏「巨礫を測り続けて5000個　〜見えてきた琉球列島の津波履歴〜」
17：05-17：35　日本地質学会国際賞受賞スピーチ　劉　忠光氏（Dr. Juhn G. Liou）「Subduction-Zone Metamorphism: From Zeolite- through Blueschist- and Eclogite-Facies to Ultrahigh-Pressure Recrystallization」

懇　親　会

9月18日（土）18：30〜20：00

会場　富山県民会館 8F レストラン「キャッスル」（富山市新総曲輪4-18　電話076-432-3111）

原則として予約制です．予約申し込みはFAX・郵送の場合は8月31日，オンラインの場合は9月3日に締め切ります．余裕があれば当日参加も可能です．会場受付で確認してください．その場合の会費は，正会員・非会員（一般）6,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員（会員の家族および非会員院生・学生含）は3,000円です．

当日の受付について

事前参加登録につきましては，FAX・郵送によるお申し込みを8月31日，オンラインによるお申込みを9月3日に締め切ります．各締切日までの多数のご登録をお待ちしております．

事前登録者には締切後，参加証（名札）と各種クーポンを発送します．大会開催1週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．**締切時点で入金確認が取れない場合は，参加証（名札）は送付されませんが，未入金の旨記載されたクーポンが送付されます**ので，当日会場にて入金のご確認をさせて頂きます．入金とクーポン発送が入れ違いの場合は，振込み時の控え等を会場にお持ち下さい．確認がスムーズに行えますよう，ご協力をお願い致します．また，別途領収書が必要な方は会場受付でその旨お申し出下さい．当日のお支払いは，現金のみの取扱いとなります．クレジットカードはご利用いただけません．

■事前参加登録者：『各種クーポン』をご持参の方

事前登録者用受付にて，**『各種クーポン』に記載されている項目ごとに受付して下さい．**
受付にてネームカードホルダーをお渡ししますので『参加証（名札）』を入れ，大会期間中は身に付けてください．

1．参加登録（全員）→ネームカードホルダーもしくは名札の配布．要旨付きの場合は，要旨の配布
2．講演要旨追加購入（予約購入者のみ）→要旨の配布
3．見学旅行（参加者のみ）→名簿確認と参加最終確認
4．見学旅行案内書（予約購入者のみ）→案内書の配布
5．懇親会（**未入金者用クーポンの方のみ**）→入金確認と正規クーポンへの交換
　注：正規クーポンをお持ちの方は，直接懇親会会場でクーポンを提示して下さい．総合受付での確認作業は不要です．

■事前登録をしていない方

1．当日参加者として参加登録をする．**備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日用受付へ．**
2．当日参加登録費（講演要旨集付きです．要旨集が不要の場合でも割引はありません）
　正会員：9,500円
　院生割引会費適用正会員：6,500円
　名誉会員・50年会員・学生割引適用正会員・非会員学部学生：無料（講演要旨は付きません）
　非会員（一般・院生）：15,000円
3．講演要旨当日販売
　会　員：4,000円
　非会員：5,500円
4．見学旅行案内書当日販売（ただし，残部がある場合に限る）
　正会員・非会員（一般）：2,800円
5．懇親会の当日参加費（ただし，人数に余裕がある場合に限る）
　正会員・非会員（一般）：6,000円
　名誉会員・50年会員・院生および学生割引適用正会員（家族および非会員院生・学生含）：3,000円

見学旅行および案内書について

見学旅行参加・案内書事前予約申込みはFAX・郵送によるお申し込みを８月31日，オンラインによるお申込みを９月３日に締め切ります．大会ホームページに参加者への連絡などを随時掲載しています．〈http://www.geosociety.jp〉

見学旅行案内書は，PDF版を116巻12号（2010年12月号）に添付して会員に配布する予定です．また，地質学雑誌の一部となっていますので，発行から３ヶ月目には J-STAGE<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja> にて公開をいたします．さらに，冊子も並行して発行し，１部2,800円で販売いたします．事前予約は９月３日締め切りですが，残部がある場合に限り，学会会期中に受付で販売いたします．

企業等団体展示／書籍販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います．会場は，富山大学五福キャンパス共通教育棟E棟２階ホール等を予定しています．８月２日現在，

メイジテクノ株式会社，
ライカマイクロシステムズ株式会社，
新学術領域研究
「超深度掘削が拓く海溝型巨大地震の新しい描像」，
東北大学グローバルCOEプログラム
「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」，
NPO法人ジオプロジェクト新潟，
株式会社クレアリア，
独立行政法人海洋研究開発機構，
独立行政法人海洋研究開発機構高知コア研究所

から申し込みがありました．

また，共通教育棟E棟３階E32番教室では書籍・物品の展示販売コーナーを設けます．７月８日現在，

株式会社愛智出版，
株式会社テラハウス，
株式会社古今書院，
財団法人東京大学出版会，
地学団体研究会，
日本地球化学会，
株式会社ニュートリノ

からお申込みがありました．

※申込期限延長，追加募集等がある場合もありますので，随時大会ホームページをご覧ください．

富山大会に関連したプレス発表について

富山大会での講演や行事について，９月上旬にプレス発表を行う予定です．

登録締切：８月10日（火）
プレス発表（投げ込み）：９月上旬
現地説明会（解禁日）：９月上旬

緊急展示の申し込みについて

学会活動の一端を広く社会に紹介するとともに，ホットなテーマについて議論する場を提供するために，災害報告や社会的に影響のある新技術紹介などの「緊急展示コーナー」を設けます．**ポスター展示を希望する方は，９月３日（金）までに以下の内容で下記の実行委員会にご連絡ください**．

1）発表要旨PDF（ニュース誌４月号参照）　2）緊急展示の必要性　3）発表代表者と連絡先　4）希望枚数（１枚：幅90×180cm）　5）展示に関わる要望（２～５の様式は自由）

実行委員会は行事委員会と協議し，可否の判断を致します．希望にはできるだけ応えるようにしますが，展示方法等については実行委員会の指示に従ってください．

申込先：<main@geosociety.jp>
担　当：大藤　茂（富山大会実行委員会）・上野将之（行事委員会）

大会期間中のお食事について

富山大学周辺に，飲食店等はさほど多くありません．お弁当予約販売，学内施設，学外コンビニエンスストア等をご利用下さい．

○**お弁当予約販売**：1個 800円，お茶付き
申込締切　オンライン：９月３日（金）18:00，
FAX（郵送）：８月31日（火）必着

○**生協食堂および正門横カフェAZAMI**：会期中の９月18日（土）～20日（月・祝）は営業しています．

○**コンビニエンスストア**：会場から徒歩３分程の距離に，コンビニエンスストアが２軒あります．

事務局主催　シニア昼食会のお誘い

富山大会にご参加いただくシニア会員の方々と事務局職員の昼食会を計画しました．今年は地元の藤井昭二名誉会員にもいろいろお世話をいただきました．

年会の合間のひと時，軽い昼食と近況談義（昔語りでもよいですよ！）などできれば，楽しいかと思います．ここでのシニアの定義は特にありません．我こそはシニア，私もシニア，シニアではない方も，どなたでもお気軽にお集まりいただきたいと思います．

日時は，以下のように決めますが，その他はご参加いただく方々の状況をみて，適宜にと思っています．

日　時　　**2010年９月19日（日）**12～14時
食事処　　未定
会　費　　未定（低額）
申し込み　９月18日（土）（会期の初日）まで受け付けます（担当　橋辺）．
地質学会事務局（電話　03-5823-1150）
※会期中は会場内の事務局の部屋
A棟２階（A23）

発　表　者　へ

一般講演の発表者は，一部トピックセッションおよびシンポジウムでの招待講演を除いて本学会の会員に限ります（共同発表の場合は筆頭者に適用）．また，やむを得ない事情により，あらかじめ連記された共同発表者内で筆頭者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会本部へ，会期中は年会本部事務局へ）に連絡して下さい．この場合も，シンポジウム以外の場合は「会員に限り１人１題」の発表制限は守るものとします．代理人による代読，発表会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は一切認めませんのでご注意下さい．とくに口頭発表者の方には発表時間の厳守をお願いいたします．発表に際しては座長の指示に従い，会場の運営がスムーズに行われるようご協力下さい．

●口頭発表

・１題15分（討論時間を含む）．ただし，シンポジウムは除く
・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS: Windows XP，Vistaおよび７対応，Microsoft Office PowerPoint 2003-2007対応）を用意します．なお，35mmスライドプロジェクターの使用はできません．

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】

口頭発表で使用するファイルのインストールは，PCセンター（試写室）【共通教育棟２階A21番教室】にて事前に作業を行ってください．インストールは各セッション・各シンポジウム開始30分前までに共通教育棟２階A21番教室PCセンター（試写室）で受け付けます．なお，大会初日９月18日午前に発表される方についても，朝８：30までPCセンターにて受けます．混雑が予想されますので講演直前にならないよう，十分な時間的余裕を持って確実に行ってください（午前中のセッションであれば前日に，午後のセッションであれば午前中にインストールを完了してください）．ファイルは，PCセンターにおいて正常に作動することを事前に確認してください．特に，会場に設置するものと異なるバージョンで作成されたパワーポイントファイルは，レイアウトが崩れる事例が報告されていますのでご注意願います．なお，ファイル名には，発表番号と筆頭演者ご氏名をご使用ください．（例：S-1富山太郎，O-12神通次郎）

【ご自分のパソコンを使用して講演をされる方】

本年は会場の液晶プロジェクターにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピン）を用意します．Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方，パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方はご自分でパソコンをご用意ください．各会場のプロジェクターの解像度設定はXGA（1024×768）です．ご講演前にご自身での出力調整をお済ませの上接続してください．Macパソコンをお使いになる方は，必ずD-SUB15ピンへのアダプターをご持参ください．パソコンの接続については，発表者自身が責任を持って実施下さい．

●ポスターセッション

・掲示する際のチェスピンは準備いたします．テープのご利用はできませんので，ご了承ください．
・**展示時間は，９:00－17:00です．**展示準備は早めにお願いします．**撤収は，18:00までにお願いします．**
・**コアタイムは，18日（土）が12:00－13:00，19日（日）と20日（月・祝）が13:00－14:00です．**この時間は必ずポスターに立ち会い，その他の時間は各自の都合によって随時行って下さい．
・ボード面積は90 cm×210 cm（ヨコ×タテ）です．
・発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい．
・コンピューターやビデオを使用される場合，機器の準備は各自で行ってください．電源は確保できませんので，予備バッテリーをご準備下さい．
・ポスター発表に対し，下記の要領にて優秀ポスター賞 が授与されます．奮ってご準備下さい．

優秀ポスター賞について

本大会でも優秀ポスターに対して「優秀ポスター賞」を授与します．この賞は全ポスター発表の中から，選考委員会の審査に基づき，日本地質学会長から大会開催中に授与されるものです．

●本賞は，毎日３～５件の発表講演に対して授与されます．
　・学会長から受賞者に直接賞状が授与されます（表彰と写真撮影）．
　・受賞ポスターは，その栄誉をたたえ，大会期間中，別途設けられるボードに掲示されます．
　・大会終了後，News誌（年会報告記事）に氏名，課題名，受賞事由等が公表されます．
●審査は選考委員会によって行われ，学会長がこれを承認します．
　・選考委員会は，大会期間中毎日召集され，行事委員会委員５名，大会事務局代表１名および各賞選考委員会委員２名の合計８名から構成されます．なお，選考委員氏名リストは学会終了後のNews誌11月号 にて公表されます．
●審査基準の項目
　（発表様式）
　　・美しいポスターか
　　・レイアウトはわかりやすいか
　　・斬新であるかどうか
　（内容）
　　・発表内容の妥当性はあるか
　　・発表内容にオリジナリティがあるか
●受賞発表の時間と方法
　・発表は16:00以降に行います．表彰は決定後直ちにポスター会場で行います（18日の受賞のみ表彰式・記念講演会終了後，会場にて行う予定）．
　・ポスター会場：受賞ポスターに「花」をつけます．
　・口頭セッション会場：各日の最終講演後に審査結果を公表します．

昨年岡山大会での受賞ポスター

全 体 日 程 表

発表方法	会場番号	収容人数	9月18日（土）					9月19日（日）					9月20日（月・祝）				
			AM		12:00-13:00	PM	15:20-17:35	18:30-20:00	AM	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM	夜間 18:00-20:00	AM	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM	夜間 17:30-19:00
			9:00-12:00			13:00-15:00			9:00-12:00			14:00-17:30		9:00-12:00			14:00-17:30	
口頭	④ (C21)	392	21. 岩鉱一般	19. 深成岩・火山岩	ポスターコアタイム	19. 深成岩・火山岩	表彰式・記念講演（黒田講堂ホール）	懇親会（富山県民会館）	(5) 藤田シンポ	岩石	ポスターコアタイム	20. 変成岩	南極	(6) 勘米良シンポ		ポスターコアタイム	20. 変成岩	地質学史
			9:00-10:45	10:45-12:00		13:00-15:00			9:00-12:00			14:00-17:15		9:00-12:00			14:00-17:15	
			O218-224	O181-185		O186-193			S34-42			O194-205		S43-50			O206-217	
	⑤ (C22)	262	2. 平野地質			12. 堆積相・堆積過程			(3) ガスハイドレート	堆積		10. 砕屑物	炭酸塩	(1) 富山深海長谷	海洋		9. 海洋地質	
			9:30-11:45			13:00-15:00			9:00-12:00			14:30-14:45	14:45-17:15	9:00-12:00			14:00-16:30	
			O13-21			O110-117			S15-24			O99	O100-109	S1-7			O89-98	
	③ (C13)	212	14. 破壊と変形			14. 破壊と変形			(4) 南海トラフ	構造地質定例		15. 付加体	16. テクトニクス	(2) 海底地盤変動			16. テクトニクス	構造地質若手
			9:00-11:30			13:15-15:00			9:00-12:00			14:00-15:15	15:30-17:30	9:00-12:00			14:00-16:45	
			O123-131			O132-138			S25-33			O139-143	O144-151	S8-14			O152-161	
	⑥ (D21)	156	6. アジア大陸			5. ジュラ系十			(7) 島弧地殻メルト	火山		18. 噴火と火山	若手の集い	(8) 21世紀モホール	古生物		17. 古生物	学生ヒマラヤ
			9:30-12:00			13:00-15:00			9:00-12:00			14:00-15:30		9:00-12:00			14:00-17:30	
			O54-63			O46-53			S51-56			O175-180		S57-65			O162-174	
	① (C11)	194	25. 地学教育			26. 第四紀地質				地質雑編集		8. 層序対比	7. 地域地質		地域地質・層序		7. 地域地質	ジオパーク
			9:30-12:00			13:00-15:00						14:00-15:15	15:15-17:30				14:00-16:45	
			O245-252			O253-260						O84-88	O64-72				O73-83	
	② (C12)	194	13. 石油・石炭地質			24. 応用地質			4. 河口～内湾域	応用地質		23. 環境地質	環境地質		Island Arc 編集		1. 地球史イベント	
			10:30-11:45			13:00-15:00			9:00-11:45			14:00-17:00					14:00-17:00	
			O118-122			O237-244			O35-45			O225-236					O1-12	
	⑦ (D22)	156										3. 地学巡検	考古学					
												14:00-17:30						
												O22-34						

ポスター	2. 平野地質　5. ジュラ系十　6. アジア大陸　12. 堆積相・堆積過程 19. 深成岩・火山岩　21. 岩鉱一般　24. 応用地質　25. 地学教育　26. 第四紀地質	(3) ガスハイドレート　1. 地球史イベント　3. 地学巡検　10. 砕屑物 11. 炭酸塩　14. 破壊と変形　15. 付加体　18. 噴火と火山 22. 情報地質　23. 環境地質	(8) 21世紀モホール　7. 地域地質　8. 層序対比　9. 海洋地質 16. テクトニクス　17. 古生物　20. 変成岩
その他	地質情報展（9:30-16:30 富山市民プラザ） 市民講演会（14:00-15:40 富山市民プラザ）	地質情報展（9:30-16:00 富山市民プラザ） 小さなEarth Scientistのつどい（9:00-15:30 ポスター会場） 就職支援プログラム（14:00-17:00 共通教育棟E棟） 実行委員会主催特別講演会（堀越 叡追悼）（14:00-17:00 理学部多目的ホール） ※夜間小集会： 超深度海溝掘削 （大会本部）	

■　セッション・世話人一覧　■

■シンポジウム：8件

1）富山深海長谷とその周辺部の堆積作用と後背テクトニクス・気候：Sedimentological features and tectono-climatic background of the Toyama deep-sea channel and vicinities
中嶋　健（産総研）・高野　修*（JAPEX技研；osamu.takano@japex.co.jp）・金子光好（ジャパンエナジー石油開発）

2）海底地盤変動学シンポジウム「魁！海底地盤変動塾」：Symposium of current researches on submarine landslides and related topics
川村喜一郎*（深田研；kichiro@fgi.or.jp）・金松敏也（JAMSTEC）・坂口有人（JAMSTEC）・山本由弦（JAMSTEC）

3）ガスハイドレートの起源と環境・資源へのインパクトはどこまで明らかになったか？　研究動向と新展開：Who knows the origin and consequences of marine gas hydrates? Present and future of gas hydrate science
東京地学協会共催
松本　良*（東京大；ryo@eps.s.u-tokyo.ac.jp）・角和善隆（東京大）・町山栄章（JAMSTEC）・棚橋　学（産総研）

4）南海トラフ沈み込み帯研究の最新成果：Update of Nankai Trough subduction zone researches
橋本善孝*（高知大；hassy@cc.kochi-u.ac.jp）・氏家恒太郎（JAMSTEC）

5）故藤田和夫追悼シンポジウム，アジアの山地形成論：日本列島からヒマラヤまで：Memorial Symposium of Late Professor Kazuo Huzita— Morphogenesis of mountain ranges in Asia: from Japanese island arcs to Himalayas
酒井治孝*（京都大；hsakai@kueps.kyoto-u.ac.jp）・竹村恵二（京都大）・竹内　章（富山大）

6）故勘米良亀齢追悼シンポジウム，造山帯を読み解く：Memorial Symposium of Late Professor Kametoshi Kanmera - Anatomy of Orogenic Belt
西　弘嗣*（東北大総合学術博；hnishi@m.tains.tohoku.ac.jp）・磯崎行雄（東京大）・酒井治孝（京都大）

7）島弧地殻で発生するメルト-流体の挙動 -地震学，高圧実験，岩石からの制約 -：Melt-Fluid behavior in arc crust - constraints from seismology, high pressure experiment and petrology-
岡本和明*（埼玉大；kokamoto@mail.saitama-u.ac.jp）・渡辺了（富山大）・寺林　優（香川大）

8）21世紀モホール：マントル掘削計画現状と今後：21st Century Mohole : the present status and the future plan for the Mantle drilling
阿部なつ江*（JAMSTEC；abenatsu@jamstec.go.jp）・海野進・（金沢大）・倉本真一（JAMSTEC）

■トピックセッション（6件）

1．地球史とイベント大事件5：宇宙・生命進化・環境変動の謎に迫る
清川昌一*（九州大；kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・山口耕生（東邦大）・小宮　剛（東工大）・尾上哲治（鹿児島大）

2．平野地質：堆積と構造
卜部厚志*（新潟大；urabe@gs.niigata-u.ac.jp）・宮地良典（産総研）

3．地学巡検・地学名所とガイドブック
吉田　勝*（ゴンドワナ地質環境研；gondwana@gaia.eonet.ne.jp）・中井　均（都留文科大）・天野一男（茨城大）

4．河口～内湾域における歴史時代の汎世界的な環境変動と人為的環境変化
野村律夫（島根大）・秋元和實（熊本大）・瀬戸浩二*（島根大；seto@soc.shimane-u.ac.jp）

5．ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス）
松岡　篤*（新潟大；matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・堀　利栄（愛媛大）・小松俊文（熊本大）・近藤康生（高知大）・石田直人（新潟大）・柿崎喜宏（金沢大）

6．アジア大陸の地質（英語推奨）
大藤　茂*（富山大；shige@sci.u-toyama.ac.jp）

■定番セッション（20件）

7．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）
吉川敏之*（産総研；t-yoshikawa@aist.go.jp）・岡田　誠（茨城大）・斎藤　眞（産総研）

8．地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）
里口保文*（琵琶湖博物館；satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠（茨城大）

9．海洋地質（海洋地質部会）
荒井晃作*（産総研；ko-arai@aist.go.jp）・徳山英一（東大大気海洋研）・芦　寿一郎（東大大気海洋研）・小原泰彦（海上保安庁）

10．砕屑物組成・組織と続成作用（堆積地質部会）
太田　亨*（早稲田大；tohta@toki.waseda.jp）・野田　篤*（産総研）

11．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）
山田　努*（東北大；t-yamada@m.tains.tohoku.ac.jp）・佐々木圭一（金沢学院）

12．堆積相・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）
小松原純子*（産総研；j.komatsubara@aist.go.jp）・片岡香子（新潟大）・成瀬　元（千葉大）

13．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）
大久保　進（石油資源開発）・金子信行*（産総研；nobu-kaneko@aist.go.jp）

14．岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）
西川　治*（秋田大；nisikawa@lfp03.mine.akita-u.ac.jp）・大坪　誠（産総研）

15．付加体（構造地質部会）
坂口有人*（JAMSTEC；arito@jamstec.go.jp）・内野隆之（産総研）

16．テクトニクス（構造地質部会）
佐藤活志*（京都大；k_sato@kueps.kyoto-u.ac.jp）・藤内智士（産総研）

17．古生物（古生物部会）
北村晃寿*（静岡大；seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤　斎（名古屋大）

18．噴火と火山発達史（火山部会）
竹下欣宏*（信州大；takey@shinshu-u.ac.jp），長谷川健（茨城大）

19．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会共催）
荻津　達*（産総研；itaru-ogitsu@aist.go.jp），亀井敦志（島根大）

20．変成岩とテクトニクス（岩石部会）
奥平敬元*（大阪市大；oku@sci.osaka-cu.ac.jp），外田智千（極地研）

21．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）
壷井基裕*（関西学院大；tsuboimot@kwansei.ac.jp），中野伸彦（九州大）

22．情報地質（情報地質部会）ポスターセッションのみ，口頭講演なし
能美洋介*（岡山理科大；y_noumi@big.ous.ac.jp）・坂本正徳（国学院大）

23．環境地質（環境地質部会）
難波謙二（福島大）・風岡　修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉環境財団；tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）

24．応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）
上野将司*（応用地質㈱；ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）・小嶋智（岐阜大）

25．地学教育・地学史（地学教育部会・地学教育委員会共催）
矢島道子*（東京医科歯科大；pxi02020@nifty.com）

26．第四紀地質（第四紀地質部会）
吉川周作*（大阪市大；yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・内山　高（山梨環境研）

■9月18日（土）午前

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
	（定番）地学教育・地学史	（定番）石油・石炭地質学と有機地球化学	（定番）岩石・鉱物の破壊と変形	（定番）岩石・鉱物・鉱床学一般
	座長：矢島道子（245-249），天野一男（250-252）	座長：金子信行（118-120），加藤　進（121-122）	座長：西川　治（123-131）	座長：壷井基裕（218-221），隅田祥光（222-224）
9：00			9：00 O-123 国内初の隕石クレーター（御池山クレーター）の発見．坂本正夫・アーノルド グチック・西戸裕嗣・蟾川清隆・奥村　輔・豊田　新・志知龍一 9：15 O-124 御池山クレーターから見出された衝撃変成石英について．西戸裕嗣・坂本正夫・アーノルド グチック・蟾川清隆・奥村　輔・豊田　新 9：30 O-125 中央構造線の応力履歴．重松紀生・藤本光一郎・田中伸明 9：45 O-126 MTLを貫く飯高赤桶コアの断層の変質鉱物と応力履歴の対比．藤本光一郎・田中伸明・重松紀生 10：00 O-127 ウルトラマイロナイトとFo・Enの流動特性．田阪美樹・平賀岳彦・道林克禎 10：15 休憩 10：30 O-128 滑りメカニズムを決定づける地球化学的シグナル．本多　剛・石川剛志・廣野哲朗・向吉秀樹 10：45 O-129 石英の非晶質化の機械的エネルギー量．滝沢茂・清水雅浩・小澤佳奈 11：00 O-130 低温・低差応力における石英の圧力溶解．宮川和也・楊　天石・川邊岩夫 11：15 O-131 人工カルサイトの双晶応力計．坂口有人・阪口秀・西浦泰介・柳澤和道・久田　真・皆川　浩・寺田賢二郎・京谷孝史	9：00 O-218 捕獲岩のSr，Nd同位体組成．山元正継・近藤梓・深井勇年・鈴木真悟 9：15 O-219 夜久野オフィオライトのジルコンのSHRIMP U-Pb年代．木村光佑・早坂康隆・隅田祥光 9：30 O-220 虫川コンプレックス中の変斑れい岩のSHRIMP年代．隅田祥光・竹内誠・木村光佑・早坂康隆 9：45 O-221 地殻下部物質の超高圧力条件下における鉱物共生．川嵜智佑・小山内康人 10：00 O-222 顕微赤外・ラマンを用いた接触変成帯の石灰岩の変成温度推定．木村雅早・壷井基裕 10：15 O-223 北八ヶ岳横岳と蓼科山の岩石化学的研究．大場孝信・井出有香 10：30 O-224 レオロジカルな挙動を示す洞窟鉱物．鮎沢　潤・齋藤　豪・平田　悠
	9：30 O-245 ナウマンの叙勲．金　光男 9：45 O-246 神保小虎、石川貞治、横山壮次郎による北海道地質調査・鉱物調査．松田義章 10：00 休憩 10：15 O-247 ジオパークへの地方大学の役割．天野一男 10：30 O-248 宮崎大学におけるキャンパス内露頭教材整備．山北　聡・中山　迅・岩本俊孝・八ッ橋寛子・宇田津徹朗 10：45 O-249 伊良尾火山の火山礫・火山灰層の一部保存が決まるまでの経緯．永尾隆志・堀川義之 11：00 休憩 11：15 O-250 高校地学教科書における火成岩分類法の問題点．高橋正樹 11：30 O-251 高校での地学課題研究におけるガイドブックの活用．小泉治彦 11：45 O-252 高等学校における自然科学研究のありかた．川勝和哉	10：30 O-118 南城R1の坑井層序．加藤　進・本多孝安・大見謝恒慈路 10：45 O-119 PF7下部の細分と基準面（Marker A0）の提唱．三輪美智子・古田土俊夫 11：00 O-120 古第三紀石炭の熱分解起源コールベッドメタンの資源ポテンシャル．齋藤裕之・鈴木德行・高橋幸士 11：15 O-121 関東温泉天然ガス．金子信行・猪狩俊一郎・前川竜男・佐脇貴幸・代田　寧・小田原　啓・早稲田周 11：30 O-122 始新世の超湿潤気候．鈴木德行・菊地　徹		（定番）深成岩・火山岩とマグマプロセス 座長：亀井淳志（181-185） 10：45 O-181 白鷹火山の爆発的噴火期の珪長質マグマの生成機構．廣谷志穂・伴　雅雄・石塚　治 11：00 O-182 黒部川花崗岩体のマフィック包有岩におけるマグマの累進的酸化．山口佳昭・原山智 11：15 O-183 島根県松江市和久羅山デイサイトの地球化学的特徴．佐藤大介・松本一郎・柴田知之 11：30 O-184 日高火成活動帯の同位体年代と造構論．前田仁一郎・銭谷竜一・倉本能行・板谷徹丸・加々美寛雄 11：45 O-185 下川オフィオライトの岩石学的研究．加藤聡美・宮下純夫・西松弘喜

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月18日（土）午前

会場	⑤（C22）	⑥（D21）
	（トピック）平野地質：堆積と構造	（トピック）アジア大陸の地質
	座長：部厚志（13-18），宮地良典（19-21）	座長：東田和弘（54-58），大藤　茂（59-63）
9：30	9：30 O-13 北海道石狩市親船，沖積層ボーリングコアGS-HIS-1 の解析．川上源太郎・船引彩子・磯前陽介・中島礼・木村克己・嵯峨山積・仁科健二・廣瀬亘・大津　直 9：45 O-14 石狩低地の最上部更新統～完新統の珪藻分析．嵯峨山積・川上源太郎・仁科健二・大津直・廣瀬亘・小松原純子・木村克己 10：00 O-15 ボーリング情報から推定される石狩低地下の完新世地殻変動．大津　直・廣瀬　亘・川上源太郎・木村克己 10：15 O-16 北海道東部釧路湿原D2コアの堆積学的検討．高清水康博・阿部祐一 10：30 O-17 新潟平野沿岸海域における堆積環境変遷．天野敦子・井上卓彦・池原　研 10：45 O-18 海陸シームレスな沖積層地質構造の解明．宮地良典・卜部厚志・井上卓彦・天野敦子・楮原京子・船引彩子・木村克己 11：00 O-19 新潟県・高田平野の沖積層における火山性二次堆積作用．卜部厚志・岡村 萌・片岡香子 11：15 O-20 ボーリングと^{14}C年代に基づいた荒川低地の沖積層形成過程．小松原純子・中島　礼・木村克己・石原与四郎・福岡詩織・内田昌男 11：30 O-21 碧海層と挙母層のN値の比較．牧野内　猛・武邑圭司・大島　武・杉浦　武	9：30 O-54（招待） Granitoid magmatism in Mongolia. Gerel Ochir 9：45 O-55 Granitic rocks from the western part of Mongolia. M. Owada, Y. Osanai, N. Nakano, A. Yoshimoto, S. Jargalan, C. Boldbaatar and M. Satish-Kumar 10：00 O-56 Pre-Middle Jurassic bed with 277-Ma granite dropstones in the Harhorin area, north-central Mongolia. S. Otoh, T. Fujimoto, M. Shimojo, K. Tsukada, C. Minjin, G. Sersmaa, N. Manchuk, Y. Kon, T.D. Yokoyama and T. Hirata 10：15 O-57 Redefinition of the Carboniferous formations in the Ulaanbaatar area, Mongolia.　T. Suzuki, M. Takeuchi, K. Tsukada, N. Matsuzawa, G. Sersmaa and N. Manchuk 10：30 O-58 Reconstruction of terrestrial paleoenvironmental changes during the intervals of Oceanic Anoxic Events（OAEs）from the Jurassic-Cretaceous lacustrine deposits in SE Mongolia. H. Ando, H. Hasegawa, T. Hasegawa, T. Ohta, M. Yamamoto, N. Hasebe, G. Li and N. Ichinnorov 10：45 O-59 Structure of the eastern Khangai-Khentei belt, Mongolia. K. Tsukada, S. Otoh, T. Kurihara, B. Dorjsuren, C. Minjin, G. Sersmaa and N. Manchuk 11：00 O-60 Great Hiatus in the Cambrian Hitachi metamorphic terrane comparable to the North China Craton. M. Tagiri, D.J. Dunkley, T. Adachi and Y. Hiroi 11：15 O-61（招待） Volcanic Stratigraphy & Petrochemistry of Chatree Gold Mine. P. Charusiri, T. Nakchaiya, W. Lunwongsa, D. Ishiyama, T. Mizuta and A. Poldee 11：30 O-62 Biostratigraphic and tectonic significance of Devonian radiolarians in northern Thailand. T. Kurihara and H. Hara 11：45 O-63 Multiple collision system and related metamorphism during Asian continental growth. Y. Osanai, N. Nakano, M. Owada, M. Satish-Kumar, T. Kawakami, T. Miyamoto, K. Yonemura and A. Yoshimoto

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月18日（土）午後

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
	（定番）第四紀地質	（定番）応用地質およびノンテクトニック	（定番）岩石・鉱物の破壊と変形	（定番）深成岩・火山岩とマグマプロセス
	座長：片岡香子（253-256），西川　治（257-260）	座長：須藤　宏（237-240），小嶋　智（241-244）	座長：大坪　誠（132-134），武藤　潤（135-138）	座長：伴　雅雄（186-189），荻津　達（190-193）
13：00	13：00 **O-253** 北海道，渡島半島に分布する赤色土 -新潟県下の生成時代と分布状況からみた-．仲川隆夫 13：15 **O-254** 田代湿原ボーリングコア中のテフラ．柴　正敏・小林宏行・箕浦幸治・小山田菜々枝・西　圭祐 13：30 **O-255** 男鹿トラバーチンの年代と湯本断層に沿う温泉活動の変遷．西川　治 13：45 **O-256** 南八ヶ岳山麓のボーリングコアの地質とK-Ar年代．内山　高・浅野陽一・輿水達司 14：00 **O-257** 和歌山県友ヶ島における完新統の花粉化石群集．此松昌彦・平　絢子・七山　太 14：15 **O-258** 琉球石灰岩層中の不整合と空洞の発達．黒田登美雄・橋本晴行・古川博恭・大城嘉和 14：30 **O-259** 広域テフラ層の層相・層序対比から見た給源火山と堆積場の関係．片岡香子・長橋良隆 14：45 **O-260** Paleoceanography of the Mauritanian margin. K.M.R Matsuzaki, F. Eynaud, B. Malaizé, A. Tissserand.	13：00 **O-237** ロシア，アルタイ山脈で発生した地すべり．小嶋　智 13：15 **O-238** 地すべり群と天然ダム．畠山幸司・星野安治 13：30 **O-239** 宮崎県鰐塚山地に分布する斜面・段丘堆積物のテフラ編年．西山賢一・長岡信治・高谷精二・鈴木恵三・北村真一 13：45 **O-240** 堆砂のFP法XRF分析．加藤孝幸・飯田友章・植田和幸・水野直哉・小俣雅志 14：00 **O-241** 地すべりの地形・地質特性について．山城屋誠一・小嶋　智・永田秀尚・大谷具幸 14：15 **O-242** 岩盤すべりとトップリング．永田秀尚 14：30 **O-243** 斜面のトップリング発生から崩壊への挙動．須藤宏・上野将司 14：45 **O-244** 恵山の火山性ノンテクトニック断層．田近　淳・石丸　聡	13：15 **O-132** 高温高圧変形実験による含水石英岩のレオロジー解明．清水以知子・渡邉悠太・道林克禎 13：30 **O-133** 断層帯における炭素鉱物の結晶構造変化とその力学的重要性．大橋聖和・廣瀬丈洋・嶋本利彦 13：45 **O-134** 地殻岩石の電磁波スキンデプスとフラクタル特性．武藤　潤・高原一峰・長濱裕幸 14：00 **O-135** 高次空間における地震波の幾何学．長濱裕幸・谷島尚宏 14：15 **O-136** 二次元破壊パターンの代数的構造．山崎和仁・楠城一嘉 14：30 **O-137** コヒスタン島弧ガブロノーライトの高温高圧下での弾性波速度測定．堤　大輔・石川正弘・有馬眞 14：45 **O-138** 粒界における界面応力誘起クラック生成と弾性波速度．渡部泰史・平賀岳彦・武井康子	13：00 **O-186** 宇奈月地域に産する深成岩類の岩石学的研究．滝沢顕吾・大和田正明・亀井淳志 13：15 **O-187** 仁科山地に見られるA-type火成岩．植木忠正・原山　智 13：30 **O-188** 剣尾花崗岩体におけるストロンチウム放射起源および安定同位体．壷井基裕・木村祐美子・若木重行・淺原良浩 13：45 **O-189** 西南日本，領家帯柳井地域に分布する古期花崗岩のマグマ過程．西塚　大・大和田正明・亀井淳志 14：00 **O-190** 外帯花崗岩の下にあるもの：熊野酸性岩から．中島　隆・下司信夫・及川輝樹 14：15 **O-191** オマーンオフィオライトにおける斜長花崗岩類の結晶分化過程．山崎秀策・宮下純夫 14：30 **O-192** ラセイル深成岩体の結晶作用．土谷信高・村上源太郎・足立佳子・宮下純夫 14：45 **O-193** 東南極セール・ロンダーネ山地の原生代変トーナル岩類．亀井淳志・手打晋二郎・大和田正明・柚原雅樹・志村俊昭・東田和弘・原　有希

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月18日（土）午後

会場	⑤（C22）	⑥（D21）
	（定番）堆積相・堆積過程	（トピック）ジュラ系十
	座長：高川智博（110-113），江川浩輔（114-117）	座長：柿崎喜宏（46-49），石田直人（50-53）
13：00	13：00 O-110 洪水時に河口では何が起こっているか？　山下翔大・中条武司・西田尚央 13：15 O-111 渦構造と渦山構造．中屋志郎 13：30 O-112 佐渡西方海域における富山深海長谷の流路変化．島野恭史・馬場　敬・佐藤大地 13：45 O-113 ニュージーランド南島カンタベリー沖の堆積シーケンス．保柳康一・村越直美・フルソープ クレイグ・ブラム ピーター・317次航海乗船研究者 14：00 O-114 四川盆地のT/J境界と下部ジュラ系．坂井卓・平野弘道・香西　武・石黒拓央・Li Gang 14：15 O-115 中国タリム盆地南西縁における新生代後期の乾燥化．吉田知紘・多田隆治・Zheng Hongbo・豊田新・長谷川精・磯崎裕子・杉浦なおみ 14：30 O-116 複合流リップル上の流れ場解析．高川智博・横川美和・関口智寛・東　良慶 14：45 O-117 GPR（地中レーダー）による実験堆積物３次元解析．岡崎浩子・中里裕臣・郭　栄珠・平塚賢二郎	13：00 O-46 大学の研究・教育・普及活動とジオパーク．松岡篤 13：15 O-47 糸魚川地域の水上谷層の岩相と礫岩中の放散虫．伊藤　剛・石田直人・茨木洋介・梅津　暢・酒井佑輔・中田健太郎・松本明日香・吉野恒平・松岡篤 13：30 O-48 八代地域の黒瀬川帯．石田直人 13：45 O-49 小山田層から得られた白亜紀のアンモナイト化石．田村　翼・松岡　篤・竹谷陽二郎・八巻安夫・荒　好・二上文彦 14：00 O-50 南中国のデボン紀後期における深海の環境変動．角和善隆 14：15 O-51 三畳系層状チャートにおける古海洋環境イベント．堀　利栄・小玉一人・池原　実・山北　聡・相田吉昭・竹村厚司・鎌田祥仁・鈴木紀毅・高橋聡・SporliK. Bernhard・Grant-Mackie Jack A. 14：30 O-52 メガモンスーン仮説：層状チャートの堆積リズムの成因．池田昌之・多田隆治・佐久間広展・烏田明典・野上孝也・山本信治 14：45 O-53 バウ石灰岩層の炭素同位層序とその古海洋学的な意義．柿崎喜宏・石川剛志・松岡　淳・長谷川卓・狩野彰宏

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月19日（日）午前

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
		（トピック）河口～内湾域　環境変動	（シンポ）南海トラフ沈み込み帯	（シンポ）故藤田和夫追悼　アジアの山地形成論
		座長：野村律夫（35-38），秋元和實（39-42），瀬戸浩二（43-45）	座長：金川久一（25-28）・氏家恒太郎（29-33）	座長：酒井治孝（34-38），竹村恵二（39-42）
9：00		9：00 O-35（招待） 樹木年輪による気候復元．米延仁志・大山幹成・星野安治 9：15 O-36 能取湖の環境変化．齊藤　誠・瀬戸浩二・高田裕行・香月興太・園田　武・川尻敏文・渡部貴聴 9：30 O-37 北海道道東海跡湖群の古生態変遷．香月興太・瀬戸浩二・齊藤　誠・園田　武 9：45 O-38 オホーツク海沿岸汽水湖群における近年の環境変遷．瀬戸浩二・高田裕行・斎藤　誠・香月興太・園田　武・川尻敏文・渡部貴聴 10：00 O-39 青森県小川原湖における完新世古環境変動の高精度復元．山田和芳・篠塚良嗣・吉田明弘・米延仁志・五反田克也・原口強・星野安治・稲垣哲也・奥野充・大山幹成・Tyler Jonathan・Turunen Saija・Saarinen Timo・林田　明・安田喜憲 10：15 O-40 気候変動に対する汽水生底生有孔虫群の応答．高田裕行・瀬戸浩二・田中里志・坂井三郎 10：30 O-41 尼崎西宮芦屋港内における過去約100年間の有孔虫群集変化．辻本　彰・上月雅代・吉川周作・山崎秀夫 10：45 O-42 人為的改変が進行した沿岸域における珪藻群集の動態．廣瀬孝太郎・瀬戸浩二 11：00 O-43 汽水域における過去半世紀の有孔虫群集の変化．野村律夫・中村光作・辻本　彰・河野重範・高田裕行 11：15 O-44 中世松江平野の古環境．渡辺正巳・瀬戸浩二・石川　崇・落合昭久 11：30 O-45 音響機器およびAUVによるナメクジウオ生息域の環境調査．秋元和實・竹内俊英・柴田耕治・島崎英行・逸見泰久	9：00 あいさつ．橋本善孝・氏家恒太郎 9：05 S-25（招待） 西南日本下の断裂したフィリピン海プレート．井出　哲・汐見勝彦・望月公廣・利根川貴志・木村学 9：25 S-26 New subduction．木村　学 9：40 S-27 沈み込み帯深部及び浅部におけるすべり過程のモデル化．芝崎文一郎・伊藤喜宏 10：00 S-28 巨大分岐断層の高速せん断摩擦特性と微細構造．氏家恒太郎・堤　昭人 10：15 S-29（招待） 南海掘削におけるコア－ログ－サイスミック統合解析．真田佳典・キョー　スーモー・木戸ゆかり 10：35 S-30 付加体のＰ波およびＳ波速度と堆積物組織　橋本善孝・マットクヌス・ハロルドトビン・原田章伸 10：50 S-31 南海トラフへ沈み込む四国海盆玄武岩と火山砕屑岩類．斎藤実篤・成瀬　元・小田啓邦・中嶋健・佐藤　暢・石塚　治・山口飛鳥・亀田　純・新正裕尚・久保雄介・アンダーウッド マイク・IODP第322次研究航海乗船研究者 11：05 S-32 中新世における四国海盆の半遠洋性泥堆積速度．成瀬　元・Pickering Kevin T.・Scudder Rachel・Kutterolf Steffen・Labanieh Shasa・Wu Huaichun・小田啓邦・Zhao Xixi・千代延　俊・Govil Pawan・中嶋　健・Underwood Michael B.・斎藤実篤・久保雄介・IODP Exp. 322 Shipboard Scientific Party 11：20 S-33 南海トラフ沈み込み帯と三浦・房総半島の付加体・被覆層システム．山本由弦・斎藤実篤・金松敏也・北村有迅・千代延　俊・亀田　純 11：35 総合討論	9：00 はじめに．世話人 9：05 S-34 西南日本の山地と盆地形成．竹村恵二 9：22 S-35 新潟－神戸歪集中帯のネオテクトニクス．竹内章 9：39 S-36 北アルプスの上昇テクトニクス．原山　智 9：56 S-37（招待） 山地と盆地形成のモデリング．楠本成寿 10：13 S-38 地殻構造探査探査から見た近畿地方三角帯の水平短縮と長波長変形．佐藤比呂志・石山達也・加藤直子・阿部　進 10：40 S-39 東南アジアの活構造と地震テクトニクス．堤　浩之 10：57 S-40 チベット高原の上昇と活断層・地震テクトニクスについて．林　愛明 S-41（取消） 11：14 S-42（招待） ヒマラヤ・チベットの地物観測と数値モデル．高田陽一郎 総合討論

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月19日（日）午前

会場	⑤（C22）	⑥（D21）
	（シンポ）ガスハイドレート	（シンポ）島弧地殻で発生するメルト
	座長：佐藤幹夫（15-19），町山栄章（20-24）	座長：岡本和明（51-52），寺林　優（53-55），小林記之（56）
9：00	9：00 S-15 上越沖のガスハイドレート．松本　良 9：20 S-16（招待） 上越沖ガスハイドレート胚胎域のポックマークとハイドレート．弘松峰男・松本　良 9：40 S-17（招待） AUVによるガスハイドレート観察．浦　　環・中谷武志・松本　良およびYK10-08乗船研究者 10：00 S-18（招待） 日本周辺のメタンハイドレート分布状況と佐渡南西沖賦存層解釈．佐伯龍男・島田忠明・古川稔子・林　雅雄 10：20 S-19 上越海盆西部メタンハイドレート分布域の熱流量稠密観測．川田佳史・簗瀬裕澎・町山栄章・木下正高・弘松峰男・松本　良 10：40 S-20 上越沖ガスハイドレートの間隙水地球化学．戸丸仁 11：00 S-21（招待） メタンのシンク/ソースとしての微生物活動の役割．柳川勝紀・砂村倫成 11：15 S-22 日本海最上部第四系の珪藻化石層序と黒色粒子の多産出．秋葉文雄・谷村好洋・松本　良 11：30 S-23（招待） 有機物組成とメタン湧水．フェルナンド・フレリ・松本　良・須貝俊彦 11：45 S-24 計量魚群探知機によるメタンプルームの観測とメタンフラックス．青山千春	9：00 シンポジウム趣旨説明 9：05 S-51（招待） 東日本下の太平洋スラブ内の上面地震帯と地震波速度構造の特徴．北佐枝子・岡田知己・中島淳一・松澤　暢・長谷川　昭・辻　優介 9：30 S-52（招待） 蛇紋岩化したマントルの地震学的イメージ．渡辺了 10：00 総合討論Ⅰ（沈み込み帯深部流体） 10：10 休憩 10：20 S-53（招待） 地震波トモグラフィから見た内陸地震と地殻流体の関り．岡田知己 10：50 S-54（招待） 肥後変成帯における高度変成岩類の部分溶融とメルト生成．小林記之・加藤睦実・柴田知之・小畑正明 11：10 S-55（招待） メルトからの流体分離による地震．岡本和明・土屋智彦 11：30 S-56（招待） 低圧型変成帯に残された地震発生場の化石．寺林優・山本啓司 11：45 総合討論Ⅱ（地殻流体と内陸地震）

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月19日（日）午後

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
	（定番）地域間層序対比と年代層序 座長：岡田　誠（84-85），里口保文（86-88）	**（定番）環境地質** 座長：川辺孝幸（225-228），田村嘉之（229-232），吉田　剛（233-236）	**（定番）付加体** 座長：山口飛鳥（139-140），内野隆之（141-143）	**（定番）変成岩とテクトニクス** 座長：宮本知治（194-197），河上哲生（198-201），片山郁夫（202-205）
14：00	14：00 O-84 テフラ対比からみた古琵琶湖層群高島層の年代．里口保文・服部　昇・石田志朗・平尾藤雄・三矢信昭・佐藤ふみ 14：15 O-85 飛騨高山盆地に分布する大規模火砕流堆積物と広域テフラ．田村糸子・山崎晴雄・水野清秀 14：30 O-86 南房総千倉層群の酸素同位体層序．岡田　誠・所佳実・松田　瞳・内田剛行 14：45 O-87 蝦夷層群における千年規模の解像度で求めた炭素同位体比変動．冨永嘉人・長谷川　卓・利光誠一 15：00 O-88 中国雲南省王家湾セクションにおける下部カンブリア系の詳細層序．日達宇彦・磯崎行雄・可児智美	14：00 O-225 前進する海岸での砂丘上に見られた液状化－流動化現象．風岡　修・佐藤光男・吉田　剛・古野邦雄・楠田　隆・香川　淳・酒井　豊・原雄・香村一夫・佐藤賢司・楡井　久 14：15 O-226 地盤沈下観測井による上ガス連続観測．香川淳・古野邦雄・吉田　剛・山本真理 14：30 O-227 北総台地における常総粘土層の深度分布に関する研究．加藤晶子・風岡　修・楠田　隆・酒井　豊 14：45 O-228 観測井孔内地下水の深度方向の温度分布．古野邦雄・香川　淳・吉田　剛・風岡　修・楠田　隆・加藤晶子・酒井　豊・山本真理 15：00 O-229 富士山の地下水と富士五湖の水の起源．輿水達司・戸村健児・尾形正岐・小林　浩・内山　高・石原　諭 15：15 O-230 市民・博物館・大学の連携による淀川水系の水質環境調査．中条武司・中口　譲・益田晴恵・里口保文・淀川水系調査グループ「プロジェクトY」水質班・琵琶湖博物館「水はしかけ」 15：30 O-231 河川改修と地下水流動変化．楠田　隆・吉田剛・古野邦雄・香川　淳・風岡　修・加藤晶子・酒井　豊・山本真理 15：45 O-232 レアメタル元素および有害元素の地球化学的挙動に関する基礎研究．梶原雅博・小川泰正・土屋範芳 16：00 O-233 岐阜県神岡鉱山からの重金属流出．坂巻幸雄・小林武彦・石川孝織 16：15 O-234 土壌汚染対策法指定調査機関による汚染調査の問題事例．酒井　豊・楠田　隆・風岡　修・古野邦雄・香川　淳・吉田　剛・加藤晶子・山本真理 16：30 O-235 地質調査のあるべき方向．上砂正一 16：45 O-236 神栖市旧日本軍毒ガス弾原料のDegradation Products．楡井　久・檜山知代・池田秀史・高畠英世	14：00 O-139 蒲原山地の付加体構造と足尾帯テクトニクス．内野隆之 14：15 O-140 紀伊半島四万十付加体新期屈曲構造．中屋志津男・紀州四万十帯団体研究グループ 14：30 O-141 四万十付加体の多様性．鈴木博之・紀州四万十帯団体研究グループ 14：45 O-142 沈み込む玄武岩の変質履歴．山口飛鳥・亀田純・北村有迅・斎藤実篤・木村　学・Underwood Mike・久保雄介・IODP第322次航海乗船研究者一同 15：00 O-143 付加体を構成する泥質物質の高速摩擦特性．堤昭人・氏家恒太郎	14：00 O-194 セールロンダーネ山地の炭酸塩岩の炭素、酸素同位体組成．土屋範芳・サティシュ クマール・河上哲生・石川正弘 14：15 O-195 東南極セール・ロンダーネ山地に産するAl_2SiO_5鉱物．河上哲生・石川正弘・サティシュ クマール・土屋範芳・吉田健太 14：30 O-196 南極セール・ロンダーネ山地、小指尾根のhogbomite ．志村俊昭・赤井純治・亀井淳志・東田和弘・大和田正明・柚原雅樹 14：45 O-197 超高温グラニュライト中のナノ花崗岩類．廣井美邦・柳　綾彦・加藤睦実・小林記之・ブレームバーナード・外田智千・本吉洋一・白石和行 15：00 O-198 中国雲南省怒江地域に分布する特徴的な変成岩類．米村和紘・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・馬場壮太郎 15：15 O-199 飛騨・隠岐の泥質岩の地球化学．加納　隆・山中智子・鐵原　渉 15：30 休憩 15：45 O-200 Zircon re-equilibration by fluids during metamorphism．Dunkley Daniel Joseph・Hiroi Yoshikuni・Suzuki Kazuhiro・Tani Kenichiro・Harlov Daniel 16：00 O-201 The Jurassic accretion of the Heilongjiang Complex, NE China．Li Weimin・Takasu Akira・Liu Yongjiang・Zhao Yingli 16：15 O-202 Sm-Nd and K-Ar ages of HP rocks fin the Neldy F., Makbal．Togonbaeva Asel Altymyshovna・Takasu Akira・ Kamei Atsushi・ Shibata Tomoyuki・Tagiri Michio・Bakirov Azamat Almazbekovich・Bakirov Apas Bakirovich・Sakiev Kadyrbek Satybaldynovich 16：30 O-203 長崎変成岩類形成とマントルコーナー流．宮崎一博・有馬和宏・池田　剛 16：45 O-204 変成帯の上昇過程の違い．板谷徹丸・ヌン N.D. 17：00 O-205 三波川変成岩中に共存する異なる累帯構造のざくろ石．榎並正樹
	（定番）地域地質・地域層序 座長：吉川敏之（64-66），佐野弘好（67-69），中江　訓（70-72） 15：15 O-64 Deadman Bay terraneのトリアス紀海山崩壊堆積物．山縣　毅 15：30 O-65 中央ネパール，ジョムソン・マナン地域の下部三畳系の広域対比．吉田孝紀・大友和夫・川村寿郎・鈴木茂之・Dhital Megh Raji 15：45 O-66 新第三系対州層群の堆積環境．二宮　崇・谷口翔・下山正一・宮田雄一郎・ダンクレイダニエル・松田博貴・山中寿朗・青木隆弘・西田民雄・市原季彦 16：00 O-67 御荷鉾緑色岩類の地質構造．村田明広・前川寛和 16：15 O-68 秩父南帯のジュラ紀-白亜紀前期付加コンプレックスと被覆層．石田啓祐・香西　武・ヒルシュ フランシス 16：30 O-69 下部白亜系稲倉層の層序と堆積環境、岡山県南西部．橘　　徹・鈴木茂之 16：45 O-70 紀伊半島西部，中央構造線断層破砕帯から産出した花粉・胞子化石．松本孝之・政岡邦夫・興津昌宏 17：00 O-71 美濃帯ジュラ紀メランジュに産する珪質石灰岩の岩相と年代．高野敦史・佐野弘好・小嶋　智・尾上哲治 17：15 O-72 舟伏山地域のペルム紀・三畳紀境界珪質岩．佐野弘好・桑原希世子・八尾　昭・上松佐知子		**（定番）テクトニクス** 座長：加藤直子（144-147），藤内智士（148-151） 15：30 O-144 地震に関連した地下水変動観測結果．大槻憲四郎・鹿島雄介・南須原美恵・中村隆志・山内常生 15：45 O-145 基盤岩中の断層破砕帯における元素の移動による活動性評価の試み．大谷具幸・沓名亮輔・小嶋智・大橋聖和・各務和彦 16：00 O-146 地中レーダ・地層分布不連続解析による伏在活断層評価．宮田隆夫・柳澤達彦 16：15 O-147 綾瀬川断層におけるS波反射法地震探査及び地中レーダー探査．木村治夫・堀川晴央・末廣匡基・秋永康彦・安藤亮輔 16：30 O-148 2008年岩手・宮城内陸地震の地質構造規制．越谷信・佐藤比呂志・加藤直子・綿引芙美子・蔵下英司・阿部　進・白石和也・東中基倫 16：45 O-149 深部反射法地震探査による佐渡海盆西部-佐渡地域の地殻構造．加藤直子・佐藤比呂志・石山達也・蔵下英司・越谷　信・吉田武義・豊島剛志・石川正弘・戸田　茂・斎藤秀雄・阿部　進・小平秀一・高橋成実・佐藤　壮 17：00 O-150 2009年相模トラフ横断地殻構造探査．佐藤比呂志・岩崎貴哉・阿部　進・石山達也・平田　直 17：15 O-151 中部日本深部地殻構造．伊藤谷生ほか34名	

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月19日（日）午後

会場	⑤（C22）	⑥（D21）	⑦（D22）
	（定番）砕屑物組成・組織と続成作用	**（定番）噴火と火山発達史**	**（トピック）地学巡検・地学名所とガイドブック**
	座長：太田　亨（99）	座長：近藤　梓（175-177），長岡信治（178-180）	座長：天野一男・斉藤眞（22-27），中井均・久田健一郎（28-34），総合討論：吉田勝・天野一男・中井均
14：00		14：00 O-175 九重火山．長岡信治・奥野　充	14：00 O-22（招待） ジオパークにおけるガイドブック・ガイドマップの重要性．渡辺真人
		14：15 O-176 桜島火山の地質．小林哲夫	14：15 O-23（招待） 地質百選．矢島道子
	14：30 O-99 黒瀬川帯デボン系～ジュラ系砕屑岩層の後背地．宮本隆実・桑水流淳二・早坂康隆	14：30 O-177 Geochemical Variation in Papandayan Area. Abdurrachman Mirzam・Yamamoto Masatsugu	14：30 O-24 北九州周辺地域におけるジオパークの可能性．岡本真琴
	（定番）炭酸塩岩の起源と地球環境	14：45 O-178 北海道の火山活動の時空変遷．　中川光弘・小杉安由美・長谷川　健・石井英一・石塚吉浩	14：45 O-25 北海道の地質とジオサイト．新井田清信
	座長：町山栄章（100-102），山田　努（103-106），佐々木圭一（107-109）	15：00 O-179 碇ヶ関カルデラの層序とK-Ar年代．近藤　梓・山元正継・大場　司・安井光大・緒方武幸	15：00 O-26 千葉県におけるジオパーク活動．会田信行・古関東深海盆ジオパーク推進協議会
	14：45 O-100 湖南省北西部のDoushantuo層について．古山精史朗・狩野彰宏	15：15 O-180 オマーンオフィオライトのオフリッジ巨大溶岩．海野　進	15：15 O-27 地域地質情報を用いた商品開発 - 布製品の試作 - ．斎藤　眞・森尻理恵・眞坂淑恵・坂寄裕代・國本節子・巌谷敏光
	15：00 O-101 北中国山東省の中部カンブリア系で認められる微生物岩．江﨑洋一・劉　建波・足立奈津子・小谷綾香		15：30 O-28（招待） 地学オリンピックの新しい試み－グランプリ地球にわくわく－．久田健一郎・瀧上　豊
	15：15 O-102 南部中国の*Carbonoschwagerina*．上野勝美・早川直樹・中澤努・王玥・王向東		15：45 O-29（招待） 地団研埼玉支部の地ハイ．小幡喜一
	15：30 O-103 秋吉石灰岩石炭系の腕足類密集層．比嘉啓一郎・枕山哲男		16：00 O-30 エネルギー環境教育のための都市型ジオツアー．太田泰弘・金子二康・古賀久美子・野井英明
	15：45 O-104 秋吉帯海洋島石灰岩にみられるGzhelian-Asselianの礁生物群集．中澤　努・上野勝美・藤川将之・川幡穂高		16：15 O-31 ジオトレイルの環境教育への応用．野井英明・太田泰弘・梅﨑恵司
	16：00 O-105 喜界島最高位段丘の氷期サンゴ礁．佐々木圭一・稲垣美幸・大村明雄		16：30 O-32 Twitterを用いた新しいジオツアーの試み．齊藤千帆・小峯慎司・伊藤太久・天野一男
	16：15 O-106 琉球弧宮古曽根西縁に分布する石灰岩とその意義．町山栄章・荒井晃作・松田博貴・井龍康文・千代延俊・佐々木圭一・ハンブレ マーク		16：45 O-33 地域の理解につなげる地質図の活用．松原典孝・先山　徹・天野一男・茨城大学地質情報活用プロジェクト
	16：30 O-107 初期淡水性続成作用に伴う炭酸塩鉱物の時間変化．松田博貴・佐藤和也		17：00 O-34 自然観察会「活断層を歩く」の企画と観察地図の作成．川端清司・中条武司
	16：45 O-108 鹿児島県安楽温泉のトラバーチン．奥村知世・高島千鶴・狩野彰宏		17：15 総合討論
	17：00 O-109 石筍の同位体組成とその形成環境との関係．山田努・富塚昌宏・松田博貴・吉村和久・菊地敏雄		

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月20日（月・祝）午前

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
			（シンポ）魁！海底地盤変動塾	（シンポ）故勘米良亀齢追悼：造山帯を読み解く
			座長：山本由弦（8-10），山田泰広（11-13），川村喜一郎（14）	座長：西　弘嗣（44-46），酒井治孝（47-50）
9：00			9：00 **S-8** シンポジウムに魁けて．川村喜一郎 9：10 **S-9（招待）** 海溝陸側斜面のスラストベルト発達．小川勇二郎 9：35 **S-10** 南海トラフのジルコン・フィッショントラック．Ryo Anma , Hideki Iwano, Toru Danhara, Toru Yamashita 9：50 **S-11（招待）** 高メタンフラックス陸棚斜面での海底地すべり．森田澄人・中嶋　健・花村泰明 10：10 **S-12（招待）** AUVうらしまによる焼津沖海底地すべり．馬場俊孝・柏瀬憲彦・百留忠洋・松本浩幸・金田義行・佐野　守 10：30 **S-13（招待）** 海底地すべりと津波．阿部郁男 10：55 **S-14（招待）** 海成粘性土の工学的特性．田中洋行 11：20 討論とコメント．芦寿一郎・金松敏也・小川勇二郎・山田泰広	**S-43（取消）** 9：05 **S-44（招待）** スラスト帯形成のモデル実験．山田泰広 9：15 **S-45（招待）** 三波川帯は四万十帯．青木一勝・磯崎行雄・丸山茂徳・大藤　茂 9：30 **S-46（招待）** 島弧沈み込みと構造性浸食．山本伸次・丸山茂徳 9：45 **S-47（招待）** 太平洋型造山運動．丸山茂徳 10：15 **S-48（招待）** チャートの起源．西　弘嗣 10：35 **S-49（招待）** 石灰岩とフズリナ．磯崎行雄 10：55 **S-50（招待）** 西南日本の基本構造．斎藤　眞・宮崎一博・利光誠一

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月20日（月・祝）午前

会場	⑤（C22）	⑥（D21）
	（シンポ）富山深海長谷	（シンポ）21世紀モホール：マントル掘削計画
	座長：高野　修（1-3），中嶋　健・高野　修・金子光好（4-7）	座長：足立佳子（57-61），斉藤　哲（62-65）
9：00	9：00 趣旨・概要説明 9：05　S-1 富山深海長谷の地形と堆積作用．中嶋　健・金子光好・徳山英一・平　朝彦 9：30　S-2（招待） 上越埋没海底谷群の三次元サイスミック地形学的解釈．古川稔子・高野　修・佐伯龍男 9：50　S-3 気候に規制された富山深海長谷のタービダイト．中嶋　健・片山　肇・板木拓也 10：10　S-4 北信越地質構造発達史．竹内　章 10：40　S-5 新潟～信越堆積盆の堆積テクトニクス史と深海堆積システム．高野　修・中嶋　健 11：05　S-6（招待） 富山トラフにおける地質構造および堆積形態．金子光好・花村泰明・中西　敏・門沢伸昭 11：35　S-7 富山深海長谷の発達史．中嶋　健・金子光好・高野　修	9：00 趣旨説明． 9：05　S-57（招待） モホールに向けて　-掘削候補地の選定-．島　伸和・富士原敏也・阿部なつ江・小平秀一・巽好幸・海野　進・荒井章司 9：20　S-58（招待） マントル掘削に向けた地震学的研究．小平秀一 9：35　S-59 オマーンオフィオライト構成岩石の地震波速度．斉藤　哲・石川正弘・柴田　聡・秋月龍之介・有馬　眞・巽　好幸・荒井章司 9：50　S-60（招待） マントル掘削に必要な大水深・大深度掘削技術開発の現状紹介．山尾正起 10：05　S-61 海洋地殻-モホ遷移帯の空間変化．宮下純夫・足立佳子・宍戸拓磨・橋本瑛久 10：20　S-62 オフリッジ火山とモホ遷移帯．海野　進・下司信夫・岸本清行・石塚　治・笠谷貴史・熊谷英憲・浅田美穂・後藤忠徳・宮下純夫・富永雅子 10：35　S-63（招待） マントル中に存在する有機物．三村耕一 10：50　S-64 クロミタイト：海洋マントル掘削の新たなターゲット？荒井章司 11：10　S-65（招待） 最上部マントル希ガス不均質．熊谷英憲・荒井章司・Kurz Mark D.・Dick Henry J.B. 11：25 ポスター発表概要 11：40 総合討論

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月20日（月・祝）午後

会場	①（C11）	②（C12）	③（C13）	④（C21）
	（定番）地域地質・地域層序	（トピック）地球史とイベント大事件5	（定番）テクトニクス	（定番）変成岩とテクトニクス
	座長：斎藤　眞（73-76），吉田孝紀（77-80），濱田崇臣（81-83）	座長：　小宮剛（1-4），山口耕生（5-8），　清川昌一（9-12）	佐藤活志（152-156），大坪　誠（157-161）	座長：岡本敦（206-209），河野義生（210-213），桑谷立（214-217）
14：00	14：00 O-73 岐阜県大垣市赤坂石灰岩中部ペルム系のSr同位体詳細化学層序．小福田大輔・磯崎行雄・可児智美 14：15 O-74 呉羽山断層の高分解能反射法地震探査．稲崎富士・相澤隆生・伊東俊一郎 14：30 O-75 長野県の新しい地質図．富樫　均・新版長野県地質図作成委員会 14：45 O-76 新潟県中越地域の新第三系-第四系のNW-SE走向横断断層．豊島剛志・神保かほり・平松　翠・栗田裕司 15：00 O-77 八ツ場ダム周辺域における地質と断層系．中村庄八 15：15 O-78 下総層群多古チャネル埋積層の花粉組成．中里裕臣・佐藤弘幸 15：30 O-79 葛生地域石灰岩にみる中期ペルム紀の炭酸塩生産生物相．川村寿郎・上野　喬・奥村よほ子 15：45 O-80 坂本沢層産前期ペルム紀腕足類．新谷友彦・田沢純一 16：00 O-81 姫神山安山岩の層序とK-Ar年代．鈴木真悟・山元正継・大場　司・近藤　梓 16：15 O-82 天塩平野における段丘の変動傾向．酒井利彰・井岡聖一郎・石島洋二 16：30 O-83 野外調査データのデジタル取得の試み．吉川敏之	14：00 O-1 上部トリアス系チャートから発見したスフェルール．佐藤峰南・尾上哲治・中村智樹 14：15 O-2 トリアス紀中期の彗星起源宇宙塵．尾上哲治・中村智樹・原之園岳志・安田知佳 14：30 O-3 南中国における初期カンブリア紀のジルコンU-Pb年代．岡田吉弘・澤木佑介・小宮剛・高畑直人・平田岳史・佐野有司・丸山茂徳 14：45 O-4 南中国エディアカラ紀の有機と無機炭素同位体比から示す炭素循環．田畑美幸・菊本亮平・澤木佑介・石川智子・上野雄一郎・小宮剛・西澤学・吉田尚弘・丸山茂徳 15：00 O-5 鉄同位体比層序．澤木佑介・田畑美幸・西澤学・小宮剛・丸山茂徳・平田岳史 15：15 O-6 エディアカラ紀における有機窒素同位体比変動．菊本亮平・西澤学・田畑美幸・澤木佑介・高井研・丸山茂徳・小宮剛 15：30 O-7 南中国のE/C境界層から得られた脂肪族炭化水素．山田健太郎・上野雄一郎・山田桂大・小宮剛・吉田尚弘・丸山茂徳 15：45 O-8 原生代前期のグリーンストーン帯に残された海底堆積層序．清川昌一・伊藤孝・坂本亮・池原実・山口耕生 16：00 O-9 DXCL掘削報告4：32億年前の黒色頁岩中の黄鉄鉱層について．坂本亮・清川昌一・伊藤孝・池原実・奈良岡浩・山口耕生・菅沼悠介 16：15 O-10 太古代の堆積岩に含まれるパイライトの局所鉄同位体分析．吉屋一美・西澤学・上野雄一郎・小宮剛・丸山茂徳・吉田尚弘・平田岳史 16：30 O-11 三段階動物進化モデル．小宮　剛 16：45 O-12 25～27億年前の生態系と環境の多様性．山口耕生・Andy Czaja・Clark Johnson・Brian Beard・Jen　Eigenbrode・Kate Freeman	14：00 O-152 月のテクトニクス．　山路　敦・小林敬生・押上祥子・熊本篤志・山口　靖・小野高幸 14：15 O-153 月の詳細地形から推定されたグラーベンの地下構造モデル．上岡周平・山路敦・佐藤活志・春山純一・大竹真紀子・松永恒雄 14：30 O-154 Sr同位体層序年代から求めた北大東島の隆起速度．井龍康文・高柳栄子・石川剛志・Budd A. David 14：45 O-155 秋吉帯・超丹波帯の砕屑性ジルコンと夜久野岩類のジルコンの比較．早坂康隆・宮本隆實・木村光佑・隅田祥光 15：00 O-156 ジルコン年代学による西南日本ジュラ紀～白亜紀整然層の後背地．勝部亜矢・早坂康隆 15：15 休憩 15：30 O-157 ユーラシア東縁，北上山地の回転運動と始新世古緯度．星　博幸・早川佳奈 15：45 O-158 宮崎層群下部の小断層スリップデータを用いた古応力逆解析．藤内智士・佐藤活志・山路敦 16：00 O-159 クラック方位分布への柔軟な確率モデルの当てはめと古応力推定．佐藤活志・山路敦・藤内智士 16：15 O-160 日本海拡大のプレートダイナミクス．新妻信明 16：30 O-161 中新世下仁田構造帯の形成．高橋雅紀	14：00 O-206 高圧変泥質岩中の安定なNa相鉱物．纐纈佑衣・榎並正樹 14：15 O-207 MRFモデルを用いたP-T経路の精密決定．桑谷立・永田賢二・岡田真人・鳥海光弘 14：30 O-208 鉱物と局所平衡にある粒間流体中の非線形拡散．西山忠男 14：45 O-209 せん断クラックと交代作用．鳥海光弘・福山繭子 15：00 O-210 角閃石のパラクリスタラインマイクロブーディンの発見．増田俊明・尾吹萌・桑谷立・大森康智・木村希生・岡本敦・鳥海光弘 15：15 O-211 大町海山蛇紋岩の変成作用．植田勇人・平内健一・新井田清信・臼杵直・メシェーデ マーティン・YK08-05研究者一同 15：30 休憩 15：45 O-212 蛇紋岩化反応に伴う溶液組成の時間変化．岡本敦・小笠原由一・土屋範芳 16：00 O-213 シュードタキライト中に発達する「斜方輝石フリンジ」．上田匡将・小畑正明・小澤一仁 16：15 O-214 Knippaかんらん岩捕獲岩の異方性．佐津川貴子・道林克禎・RayeUrmidola・AnthonyElizabeth・PulliamJay・SternRobert 16：30 O-215 トンガ海溝におけるマントル最上部由来の岩石の構造岩石学的研究．新海優里・道林克禎・石井輝秋 16：45 O-216 高圧下における部分溶融したかんらん岩の弾性波速度測定．河野義生・井上　徹・入舩徹男・肥後祐司 17：00 O-217 脆性領域での非地震性クリープ速度の天然変形岩からの見積もり．竹下　徹・森　政藏

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月20日（月・祝）午後

会場	⑤（C22）	⑥（D21）
	（定番）海洋地質	（定番）古生物
	座長：池原　実（89-93），野田　篤（94-98）	座長：奈良正和（162-167），須藤　斎（168-174）
14：00	14：00 O-89 IODP第322次研究航海基盤岩の岩石学．佐藤暢・斎藤実篤・久保雄介・UNDERWOOD MIKE・IODP Expedition 322 Shipboard Scientific PartyIODP Expedition 322 Shipboard Scientific Party 14：15 O-90 母島海山と小笠原海台のIODP掘削提案．石渡明・井龍康文 14：30 O-91 伊豆・小笠原弧前弧域，母島海山から採取されたMORB様玄武岩．岡村　聡・八束　翔・坂本泉・金　容義・東　豊土・池田保夫 14：45 O-92 IODP Exp.320/321 赤道太平洋年代トランセクトの概要．山崎俊嗣・Acton Gary・Channell James・Evans Hellen・Ohneiser Christian・Richte rCarl・山本裕二・Delany Margaret・Gussone Nikolaus・Hathorne Ed・木元克典・沢田研・山本真也・IODP Expedition 320/321 Shipboard Science Party 15：00 O-93 25°S OCC断層岩類の変形微小組織．曽田祐介・澤口　隆・根尾夏紀・森下知晃・中村謙太郎・熊谷英憲・YK05-16乗船研究者一同 15：15 O-94 中新世末期～鮮新世における北部小笠原トラフ内での火成活動．向山建二郎 15：30 O-95 地震動による海底の擾乱と堆積．芦寿一郎・池原研・坂口有人・川村喜一郎・村山雅史・山野誠・中村恭之 15：45 O-96 鉄沈殿環境．永田知研・清川昌一・坂本亮・竹原真美・池原実・小栗一将・後藤秀作・伊藤　孝・山口耕生 16：00 O-97 後期鮮新世の北半球氷床発達に伴う海水準変動と堆積環境の変化．池原　実・北　重太・近藤康生・岩井雅夫 16：15 O-98 北海道北西方沖日本海の地質構造．荒井晃作	14：00 O-162 北谷層産恐竜足印化石．田中郁子・東洋一・加藤道雄・藤田将人 14：15 O-163 大阪府高槻市の下部更新統より産出した大型イシガメ科．平山　廉・樽野博幸・薗田哲平・角谷大輔 14：30 O-164 岐阜県可児市の瑞浪層群から産出した哺乳類の足跡化石群．鹿野勘次・藤岡比呂志 14：45 O-165 日本列島におけるナウマンゾウの移動．近藤洋一 15：00 O-166 *Cremnoceramus*属（イノセラムス科）の産出とその意義．高橋昭紀・本田豊也 15：15 O-167 始新世/漸新世境界に起きた海生珪藻キートケロス属の多様化．須藤　斎 15：30 休憩 15：45 O-168 中新世古地理・古生物地理．松原尚志 16：00 O-169 台湾の鮮新～更新統の貝形虫化石．鈴木俊之・石田桂・保柳康一 16：15 O-170 6,300年前に起きた突然の海洋気候変動．北村晃寿・山本なぎさ・石村豊穂・入野智久・角皆潤・小林小夏・玉置周子 16：30 O-171 現生腕足動物の殻の炭素・酸素同位体組成の個体差．高柳栄子・浅海竜司・大竹二雄・阿部理・北川浩之・井龍康文 16：45 O-172 顕微微赤外分光法による化石・現生原核生物ドメイン識別の試み．伊規須素子・高井　研・上野雄一郎・下嶋美恵・中嶋　悟・太田啓之・丸山茂徳・磯崎行雄 17：00 O-173 個体発生変異の形態測定学：アンモノイドの例．生形貴男 17：15 O-174 現世生痕学と古生痕学．奈良正和

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■MEMO■

■9月18日（土）コアタイム　12：00-13：00　共通教育E棟2F・3F　ポスター会場

（トピック）平野地質：堆積と構造

P-3
厚岸湾沿岸地域の完新世バリアシステムの復元．重野聖之・須藤雄介・安藤寿男・七山太・古川竜太・熊崎農夫博・嵯峨山　積

P-4
新潟平野地域のボーリングデータベースと沖積層モデル．船引彩子・木村克己・宮地良典・卜部厚志・鴨井幸彦

P-5
開析谷充填シーケンスにおける堆積体．石原与四郎・福岡詩織・小松原純子・木村克己

P-6
関東平野中央部の地下層序と地質構造モデル．水野清秀・松島紘子・納谷友規・木村克己・八戸昭一・本郷美佐緒

（トピック）ジュラ系十

P-13
愛媛県城川地域中津川の鳥巣式石灰岩のモノプレウラ科厚歯二枚貝．佐野晋一・柿崎喜宏・狩野彰宏・スケルトン ピーター　W.

P-14
遠洋深海チャートの二次的変質過程の検討と酸化還元の評価．佐藤友彦・磯崎行雄・小豆川勝見・松尾基之

（トピック）アジア大陸の地質

P-15
Geochemical signature and P-T conditions of layered gneiss complex in the Mongolian Altai Mountains.　N. Nakano, Y. Osanai, T. Adachi, M. Owada, M. Satish-Kumar, S. Jargalan, C. Boldbaatar and A. Yoshimoto

P-16
Altai calc-silicate rocks.　M. Satish-Kumar, Y. Osanai, A. Suzuki, N. Nakano, M. Owada, S. Jargalan, C. Boldbaatar, and A. Yoshimoto

P-17
EPMA dating of metamorphic rocks in the western part of Mongolia.　T. Adachi, Y. Osanai, N. Nakano, M. Owada, M. Satish-Kumar, S. Jargalan, C. Boldbaatar, K. Yonemura, and A. Yoshimoto

P-18
Protolith age of the Sanbagawa metamorphic rocks.　M. Shimojo, S. Otoh, Y. Kon, T.D. Yokoyama, T. Hirata, and S. Yanai

P-19
Remanent magnetization components of red cherts from the Chichibu Terrane　K. Uno, S. Hamami, and T. Onoues

P-20
Geotectonic belongings of Paleozoic and Mesozoic sedimentary rocks distributed in eastern Thailand.　M. Kato, Y. Kamata, K. Ueno, A. Miyahigashi, T. Charoentitirat, and A. Sardsud

P-21
Opening process of the Paleo-Tethys, based on geochemistry of a Devonian siliceous sequence in Northern Thailand.　H. Hara, K. Kurihara, J. Kuroda, and Y. Adachi

P-22
Conformable lithological relationship between Upper Permian radiolarian chert and basaltic sandstone layers in Northern Thailand.　Y. Kamata,A. Maezawa, K. Ueno, H. Hara, K. Wakita, K. Hisada, A. Sardsud, T. Charoentitirat, and P. Charusiri

P-23
Depositional System and Paleoclimate in the Phu Kradung and Phra Wihan formations of the Mesozoic Khorat Group, NE Thailand.　Y. Horiuchi, P. Charusiri, and K. Hisada

P-24
Evidence of sea-level change at Chumphon, Thailand.　S. Phantuwongraj, M. Choowong, and P. Silapanth

P-25
Reevaluation of the Thoen fault activity, Thailand.　W. Wiwegwin, Y. Sugiyama, K. Hisada, and P. Charusiri

（定番）堆積相・堆積過程

P-70
砂岩泥岩分布の簡易推定法．江川浩輔・李　孝鐘・李　容鎰

P-71
流下反砂堆に関する実験的研究．山村浩人・高橋憂紀・横川美和

P-72
メガトレンチ壁面で観察された巨大津波堆積物の側方層相 変化．七山　太・古川竜太・重野聖之・石川　智・渡辺和明・吉川秀樹・猪熊樹人

P-73
後期鮮新世における福島県太平洋岸の海進様式．畑中　彩・保柳康一・竹内佑佳・柳沢幸夫

P-74
岩手県西和賀町周辺奥羽脊梁山脈に分布する中新世水中火山岩類．細井　淳・天野一男

P-75
外浜における貝殻遺骸群集のタフォノミー相．市原季彦・下山正一

P-76
ウェーブリップル形態を用いた古水深・古波浪条件推定法の検証．山口直文・関口秀雄

P-77
Enhanced AMSおよびX線CT法による砂岩の粒子配列と孔隙分布測定．森　裕紀・橋詰博樹・吉田貴裕・和田侑士・横川美和・岡部博・成瀬　元・二村　圭・細川雄一朗・林田明・遠藤徳孝・上杉健太朗・土山　明・中野司

P-78
自然河床における礫のエントレインメント．廣木義久

P-79
レーザー粒度分析の問題．片山　肇

P-80
ファブリックマップによるベッドフォーム粒子配列の多様性の検討．二村　圭・成瀬　元

P-81
タービダイト砂層の粒子オリエンテーション．宮田雄一郎・馬場奨次

P-82
タービダイト性泥岩の粘土ファブリック．佐藤まろみ・加瀬善洋・西田尚央・伊藤慎・池原研

P-83
タービダイト粒度分布に基づく混濁流の古水理条件の逆解析．新井和乃・成瀬元・長谷川裕樹・伊藤　慎

P-84
ハイドレート分解を示唆する脱水構造と脱ガス構造．佐々木政和・宮田雄一郎

P-85
海底斜面での急速な堆積物重力流の高濃度化．丸山美智子・酒井哲弥

P-86
年縞堆積物に記録された古蒜山原湖の環境変化．佐々木泰典・弓真由子・石原与四郎・斎藤めぐみ・成瀬　元

P-87
堆積物重力流による侵食形態の定量化．弓真由子・佐々木泰典・石原与四郎

P-88
堆積物重力流によって削剥された半遠洋性泥岩層の層厚分布．瀧井喜和子・阿部宏子・石原与四郎

P-89
古河川の水文学的特徴の復元．柴田健一郎・伊藤　慎

P-90
ステップ状の海水準上昇に対する河川システムの応答．田辺　晋・石原与四郎

P-91
カトマンズ盆地，更新統の平野堆積物中のスランプ堆積物．酒井哲弥・ガジュレル アナンタ・田端英雄・ウプレティ ビシャール

P-92
木津川の高水敷グランドに形成された砂床ベッドホーム群の配列．坂本隆彦・谷口圭輔・増田冨士雄

P-93
木津川の最近43年間の３次元河床変動．藤原暁・坂本隆彦・増田富士雄

P-94
千曲川高水敷堆積物の特徴．紺谷吉弘・千曲川の河床変動と水害に関する調査研究自主調査団

P-95
天塩川の河口州および蛇行州の地中レーダー探査．北沢俊幸・常盤哲也

P-96
粒度・有機物組成からみた愛知県三河湾汐川干潟の堆積作用．加藤有紗・加藤万由子・関めぐみ・天藤寛子・石原由賀・保柳康一

P-97
砂質干潟におけるfluid mud堆積物の時空分布様式．西田尚央・伊藤　慎

P-98
上部更新統木下層河口水路相基底部の穿孔痕礫．平社定夫

P-99
デルタフォーセットに記録される河川サイクリックステップ．武藤鉄司・関口智寛・横川美和

（定番）深成岩・火山岩とマグマプロセス

P-135
メルト－マントル反応と未分化マントル再生：幌満かんらん岩の例．高澤栄一・吉田和弘

P-136
一の目潟火山のはんれい岩質捕獲岩から推定される基盤の地質体．藤林紀枝・亀聡実

P-137
東赤石かんらん岩体の集積岩の起源マグマ．服部達也・水上知行・荒井章司・田村明弘

P-138
斜長石かんらん岩捕獲岩の研究．野口　渉・水上知行

P-139
ジルコンのCLを用いた花崗岩質マグマにおける生成過程の解明．土屋裕太・能美洋介・鹿山雅裕・西戸裕嗣

P-140
日高変成帯のIタイプトーナル岩マグマの起源．小島　萌・志村俊昭

※それぞれに（S）・（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月18日（土）コアタイム　12：00-13：00　共通教育E棟2F・3F　ポスター会場

P-141
遠野複合深成岩体の形成プロセス．御子柴真澄・蟹澤聰史
P-142
花崗岩中に包有される苦鉄質捕獲岩のジルコン年代分布とその意味．鈴木和恵・山本伸次・李毅兵・平田岳史・昆　慶明・加藤泰浩・藤永公一郎・高谷雄太郎・大森聡一・丸山茂徳
P-143
領家花崗岩中の暗色包有物．小泉奈緒子・隅田祥光・奥平敬元
P-144
ロシア極東, Ust'-Belayオフィオライトのかんらん岩．町　澄秋・石渡　明・森下知晃・早坂康隆・Ledneva Galina・Sokolov Sergei・Palandzhyan Suren・Bazylev Borys・田村明弘・荒井章司
P-145
東南極ナピア岩体，玄武岩質貫入岩の起源．加々島慎一・和田裕起
P-146
マラカンド超苦鉄質岩体．佐野　栄
P-147
北海道置戸西方の火山岩におけるマグマ混合の記載岩石学的研究．佐藤　典・周藤賢治
P-148
宮城県北部・岩手県南部の中期中新世の石越安山岩．佐藤　景・石渡　明
P-149
小笠原母島列島玄武岩マグマの地球化学的特徴および起源について．金山恭子・海野　進・石塚　治
P-150
沈み込み帯マグマの発生条件とその支配要因．荻津達・小澤一仁
P-151
未固結堆積物中への玄武岩質マグマ貫入時の化学組成変化．野原（今中）里華子・宮下純夫
P-152
全溶融ガラスを用いた全岩化学組成の測定．田村明弘・高丸涼・森下知晃・荒井章司

（定番）岩石・鉱物・鉱床一般

P-174
Wildcat断層近傍の砕屑性ジルコンのU-Pb年代．伊藤久敏・濱田崇臣・田中姿郎・上田圭一・佃　十宏・唐崎建二・大西セリア智恵美・後藤淳一・守屋俊文
P-175
三浦半島葉山帯中の蛇紋岩類の再検討．高橋直樹・荒井章司
P-176
滝谷花崗閃緑岩体中のMME形成プロセス．加茂圭祐・原山　智
P-177
LA-ICPMSを用いた各種地質試料分析法の立ち上げ．昆　慶明・村上浩康
P-178
ランダムフォレストによる統計学的鉱物同定法．新井宏嘉・大森聡一

（定番）応用地質およびノンテクトニック

P-199
横ずれ断層地震による崩壊．ハス バートル・武澤永純・内田太郎・丸山清輝・野呂智之・中村明
P-200
表面波探査における地表踏査の重要性．米島真由子・加藤孝幸・東海林博・布川昭一・渡邊哲夫・篠原　暁
P-201
地質データに基づく貞観津波の数値復元．菅原大助・今村文彦・松本秀明・後藤和久・箕浦幸治

（定番）地学教育・地学史

P-202
ミニチュア洪水氾濫堆積物と授業への活用．竹下欣宏
P-203
お好み焼き粉を用いた自噴式火山噴火モデル．村田　守

（定番）第四紀地質

P-204
コア中のテフラの特徴．井島行夫・藤原与志樹・岡村　聡・嵯峨山積・近藤　務・外崎徳二
P-205
北海道石狩低地帯北部地下の洞爺および未同定火山灰．藤原与志樹・井島行夫・岡村　聡・嵯峨山積・近藤　務
P-206
鹿沼土及びその上位層の有する重金属吸着能力の検討．宮田昌幸・齊藤真喜・北瀬（村上）晶子・香村一夫
P-207
野尻湖における音波探査記録と湖底ボーリング試料との対応．中村祐貴・井内美郎・近藤洋一
P-208
甲府盆地西縁，築山における中位段丘面のテフラ編年．杉戸信彦・古澤　明・澤　　祥・田力正好・谷口　薫・中村優太・渡辺満久・鈴木康弘・糸静線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
P-209
小笠層群下部層の堆積過程．大迫崇史・岡田陽介・柴　正博・横山謙二
P-210
琵琶湖湖底掘削試料中の生物源シリカ含有率からみた環境変遷．根上裕成・喜岡　新・中西俊貴・中村祐貴・井内美郎・岩本直哉・斎藤笑子
P-211
過去150kyrの東アジアモンスーン変動及び周期性．喜岡　新・根上裕成・中西俊貴・中村祐貴・井内美郎・岩本直哉
P-212
琵琶湖堆積物の生物源シリカ含有率から復元した古環境変遷．中西俊貴・井内美郎・岩本直哉・相澤育美・天野敦子
P-213
大阪平野の沖積層．小川和宏・増田富士雄
P-214
播磨灘沿岸域における最近の珪藻と貝形虫群集の変遷．吉岡薫・廣瀬孝太郎・入月俊明・後燈明あすみ・河野重範・岩井雅夫・野村律夫
P-215
周防灘北部笠戸湾における最近の貝形虫群集と環境の変化．入月俊明・伊藤久代・河野重範・吉岡　薫・佐古恵美・野村律夫
P-216
穿入蛇行跡の堆積物を用いた隆起速度調査手法の検討．安江健一・谷川晋一・二ノ宮淳・棚瀬充史
P-217
底質土壌中の球状炭化粒子と重金属から見た中国東部の工業活動．佐藤亮介・北瀬晶子・香村一夫・吉川周作・山崎秀夫

※それぞれに（S）・（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

（シンポ）ガスハイドレート

SP-1
IODP Site-C0009における炭化水素ポテンシャル評価．森田澄人

（トピック）地球史イベント

P-1
数値モデルを用いた海洋無酸素事変における表層環境の変動復元．尾崎和海・田近英一
P-2
メテオライトボア地域におけるダイアミクタイト層の起源．竹原真美・小牟礼麻依子・清川昌一・堀江憲治・横山一己

（トピック）地学巡検・地学名所ガイドブック

P-7
地質・地形模型作成と生涯学習．先山　徹
P-8
地質観光情報の開発と地域振興への活用の試み．畑中雄太・齊藤千帆・細井　淳・図子田香織
P-9
城ヶ島たんけんマップ．蟹江康光・蛯子貞二・川瀬淑子・柴田健一郎・鈴木進・服部陸男・布施憲太郎・山岸　穣
P-10
第2回日本地学オリンピックに参加して．浅野裕史
P-11
ヒマラヤの地質ガイドブックシリーズ．吉田勝・ウプレティ B.N.・ライ S.M.・バタライ T.N.・ウラーク P.D.・ガジュレル A.P.・ダハル R.K.・ダカル S.・コイララ M.P.
P-12
ヒマラヤジオエクスカーションで思ったこと．赤松　陽

（定番）砕屑物組成・組織と続成作用

P-66
京都西山地域の三畳系中部統島本層の重鉱物および砕屑性ザクロ石．菅森義晃・藤井裕城・別所孝範・篠田圭司
P-67
砂岩組成から推定されるルーフィングとアンルーフィング．別所孝範

（定番）炭酸塩岩の起源と地球環境

P-68
最終間氷期以降の炭酸塩岩における地表露出面の認定．南條貴志・松田博貴・佐々木圭一
P-69
造礁サンゴを用いた海面変動復元．本郷宙軌・茅根　創

（定番）岩石・鉱物の破壊と変形

P-100
レオメータを用いたインドネシア泥火山物質の流動特性．谷川　亘・多田井修
P-101
中部地殻条件下におけるカリ長石のレオロジー．福田惇一・奥平敬元・佐津川貴子・道林克禎
P-102
中央構造線を貫く飯高赤桶コアの脆性断層帯．田中伸明・藤本光一郎・重松紀生
P-103
マイロナイト中のカリ長石の変形過程と結晶学的定向配列．坂部達哉・石井和彦・金川久一
P-104
圧力下の熱伝導率測定．多田井修・林　為人・廣瀬丈洋・谷川　亘
P-105
塩基性シュードタキライトと中～深部地震．小畑正明・上田匡将

（定番）付加体

P-106
南海トラフ付加体浅部泥岩試料の摩擦挙動．金川久一・岩邊香苗・東　修平・中谷正生・望月裕峰
P-107
熊野海盆下部付加体IODP Hole C0009の古地磁気方位．金松敏也・小田啓邦・Zhao Xixi・林為人・Hayman Nicholas・木下正高・IODP Expedition 319 乗船研究者
P-108
潮岬海底谷に露出する南海トラフ付加体．安間了・小川勇二郎・川村喜一郎・モアグレッグ・佐々木智之
P-109
海底地すべり解剖．川村喜一郎
P-110
微生物変質作用の岩石学的および地球化学的研究．菅原久誠・榊原正幸・池原　実
P-111
変形構造と鉱物脈から推定される付加体の形成環境解析．小畑怜子・吉田英一・竹内　誠
P-112
四万十帯・室戸の鉱物脈中の流体包有物組成の空間変化．武者倫正・岡本　敦・土屋範芳

（定番）噴火と火山発達史

P-128
新白山火山熔岩を貫いたコアボーリング．関場清隆・石郷岡浩司・山崎正道
P-129
男体火山の噴火史．石崎泰男・小池一馬
P-130
十和田八戸イグニンブライトとその再堆積過程．鎌田耕太郎・成田　盛
P-131
沼沢火山BC3400年カルデラ形成噴火のマグマ供給系．増渕佳子・石崎泰男
P-132
火山角礫岩における地質と古地磁気．古川邦之・宇野康司・新村太郎・三好雅也・濱村強志・井口博夫
P-133
富士火山北東部の全岩化学組成．中野　俊・石塚吉浩・高田　亮・山元孝広
P-134
インドネシア，テンガーカルデラ火山の形成史の再検討．土志田　潔・高田　亮・Heriwaseso Anjar・Sinulingga Iman K.・Surmayadi Mamay

（定番）情報地質

P-179
国内外における3次元地質モデル構築システムの比較．野々垣　進・川畑大作
P-180
ルートマップデジタル化．西岡芳晴・伏島祐一郎・宝田晋治・巖谷敏光・井川敏恵・吉川敏之
P-181
地形・地質調査で専門家が利用する知識の分析・整理．道家涼介・安江健一・新里忠史・中安昭夫
P-182
地層名検索データベースの構築－その9．巖谷敏光・鹿野和彦・中野　俊・松浦浩久・中江訓・原　英俊・宮崎一博・長谷川　功・高橋浩・西岡芳晴・尾崎正紀
P-183
Googleマップを利用したシームレス地質図Webサイト．眞坂淑恵・西岡芳晴
P-184
ヨルダン南部の遺跡におけるダム遺構周辺の環境条件．桂田祐介
P-185
流砂系での人為的変遷および自然イベントに対する浅海地形変化．仁科健二・内田康人・檜垣直幸・濱田誠一
P-186
広島県の土砂災害発生における地質学的な特徴．吉冨健一・伊達裕樹・加納誠二・中井真司・竹内次郎
P-187
風化の定量化の試み．藤本孝幸・能美洋介・関達也
P-188
三瓶火山・松井資試料データベースの構築．福岡　孝・河野重範
P-189
足摺花崗岩のジルコン結晶形．能美洋介・武政恭平

（定番）環境地質

P-190
山形盆地の石造鳥居の損傷痕から復元した新潟地震の震度分布．川辺孝幸
P-191
駿河湾地震の被害分布の特徴．柴　正博・増田祐輝・柴博志・駿河湾地震被害調査グループ
P-192
活断層破砕帯試料のOSL測定．鴈澤好博・清水聡
P-193
千波湖における珪藻遺骸群集の分布．図子田香織・納谷友規・天野一男
P-194
那須塩原地下水水質と土壌におけるアンモニア酸化活性．田村壮礼・難波謙二
P-195
九十九里浜の前浜－後浜の地下水．吉田　剛・風岡　修・古野邦雄・香川　淳・楠田隆・加藤晶子・酒井　豊
P-196
長崎県壱岐周辺海域での海砂採取の課題．井内美郎
P-197
斐伊川水系の地球化学的影響評価．池田友里恵・斉藤　有・中野孝教・酒井哲弥
P-198
地球化学図．田中　剛・山本鋼志・南　雅代・三村耕一・浅原良浩・吉田英一・竹内誠

※それぞれに（S）・（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月20日（月・祝）コアタイム　13：00-14：00　共通教育E棟2F・3F　ポスター会場

（シンポ）21世紀モホール：マントル掘削計画

SP-2
モホールWS2010報告．阿部なつ江

SP-3
オマーンオフィオライトのマントル－地殻遷移帯の地震波速度．柴田　聡・斉藤　哲・石川正弘・荒井章司

SP-4
オマーンオフィオライトのシート状岩脈とはんれい岩の地震波速度．秋月龍之介・斉藤　哲・石川正弘

SP-5
海嶺セグメント位置による溶岩層の産状変化．草野有紀・林　舞香・宮下純夫・海野進

SP-6
メルトレンズと海嶺セグメント構造の関係．野川　裕・足立佳子・宮下純夫

SP-7
海洋地殻-マントル境界部の構造地質学的研究．宍戸拓磨・宮下純夫

SP-8
オマーンオフィオライト北部ウェールライト貫入岩体の広域的変化．足立佳子・宮下純夫・野川裕・三瓶　崇・戸松　敬・秋元　梓

SP-9
オマーンオフィオライトに分布するダナイトの岩石学的研究．末武杏奈

（定番）地域地質・地域層序

P-26
Wildcat断層周辺の地質．田中姿郎・濱田崇臣・伊藤久敏・上田圭一・佐々木俊法・佃十宏・大西 セリア 智恵美・唐崎建二・後藤淳一・守屋俊文

P-27
ドイチェンダオ石灰岩からの前期石炭紀有孔虫群集．宮東　照・上野勝美・Charoentitirat Thasinee・世良義明・鎌田祥仁・Sardsud Apsorn

P-28
琉球弧・石垣島の富崎層における 層序と放散虫年代．中江　訓

P-29
九州西部四万十帯－中村帯の地質構造．豊原富士夫・河津恭平・吉川拓也

P-30
高千穂町上村地域，ペルム系石灰岩の有孔虫群集変遷．星木勇作・上野勝美

P-31
下部白亜系八代層の新層序区分とその地質学的意義．高橋　努・田中均・早川祐貴

P-32
嘉瀬川ダムに分布する岩石の岩石学的特徴．石坂岳士・中島　修・後藤信孝・角縁　進・大和田正明

P-33
愛媛県滑川における久万層群．明神拓也・奈良正和

P-34
イライト結晶度から見た超丹波帯と丹波帯のテクトニクス．竹村静夫・西村年晴・渡邉愛未

P-35
上部白亜系日高川層群の放散虫化石群集．山本俊哉

P-36
四万十帯的矢コンプレックス．松田勇人・西口達也・太田　亨

P-37
若狭湾地域の花崗岩類及び火山岩類のK-Ar年代．亀高正男・松井和夫・山根博・東篤義・松場康二・梅田孝行・岸本弘樹・杉森辰次・桑島靖枝・魚住誠司・岩森暁如・金谷賢生

P-38
飛騨帯熊野川に産する両輝石グラニュライト．上塘　斎・大和田正明・加納　隆

P-39
５万分の１地質図幅「小滝」地域の地質．長森英明・竹内　誠・古川竜太・中澤　努・中野俊

P-40
東西日本境界に発達する大規模右横ズレプルアパート堆積盆の発見．馬場　敬

P-41
長野県，別所層，地質学的研究．斎宏行・石田桂・長谷川四朗・小坂共栄

P-42
南部フォッサマグナ神奈川県北西部の新第三紀火山岩類．河尻清和

P-43
神奈川県山北町丸山における活断層調査ボーリング．小田原啓・林　広樹

P-44
葉山隆起帯南方のボーリング孔で確認された葉山層群．濱田崇臣・田中姿郎・近藤浩文

P-45
深層掘削調査の概要と岩石物性試験結果（足尾・牛伏寺・新宮）．山田隆二・松田達生・小村健太朗・池田隆司

P-46
南房総千倉層群布良層上部における酸素同位体層序．所佳実・松田　瞳・内田剛行・岡田誠

P-47
関東山地東部，浦山地域～横瀬町の秩父累帯．加藤　潔

P-48
新第三系の堆積環境の復元（茨城県）．滝本春南・松原典孝・天野一男

P-49
20万分の１地質図幅「新潟」（改訂版）の地質．高橋　浩・柳沢幸夫・山元孝広・卜部厚志・内野隆之・工藤　崇・高木哲一・駒澤正夫

P-50
山形県大江町月布川流域の花崗岩類．大友幸子・横山一己・星野大

P-51
秋田県仁賀保衝上断層群の一部と見られる断層．藤本幸雄

P-52
男鹿半島新生界層序．鹿野和彦・大口健志・柳沢幸夫・粟田泰夫・小林紀彦・佐藤雄大・林信太郎・北里　洋・小笠原憲四郎

P-53
北海道日高衝突帯前縁褶曲帯海側延長の地質構造．辻野　匠・井上卓彦・荒井晃作

P-54
北海道中央部に分布する隈根尻層群・空知層群の古地磁気．伊藤康人・高嶋礼詩・美藤祐貴・井上貴至

（定番）地域間層序対比・年代層序

P-55
上総層群海底扇状地堆積物の帯磁率と物質供給．杉山直也・宮田雄一郎

P-56
和泉層群および牛滝川流紋岩溶岩のFT年代．清家一馬・檀原徹・岩野英樹・平野弘道

（定番）海洋地質

P-57
日高トラフにおける海底地すべり堆積物．野田篤・辻野　匠・上嶋正人

P-58
根府川周辺海域で観察された地すべり様地形．坂本　泉・根元謙次・滝野義幸・藤巻三樹雄・椎野紗和日・佐野弘弥・山本聡一・平田大二・山下浩之・小田原啓

P-59
泥火山噴出物の供給源の研究．村岡　論・芦寿一郎・金松敏也・坂口有人・稲垣史生

P-60
掘削コアと掘削同時検層データの統合による地層解析．桜井紀旭・芦寿一郎・斎藤実篤

P-61
遠州断層系の構造と形成過程について．小嶋孝徳・中村恭之・芦寿一郎

P-62
北部東シナ海の中期中新統横ずれ運動の痕跡．森田澄人・Han Hyun-Chul・Kang Moo-Hee・Hwang Jong-Sun

P-63
最終融氷期における日本海．大井剛志・長谷川四郎

P-64
マリアナトラフ背弧拡大軸17°Nの火山と溶岩流形態．上杉麻純・海野　進・浅田美穂・富士原敏也

P-65
IODP Exp.313: ニュージャージー陸棚堆積物の圧密過程．大塚宏徳・Jenny Inwood・Johanna Lofi・Christophe Basile・Christian Bjerrum・Henna Valppu・Gregory Mountain・Jean-Noel Proust・IODP Exp. 313乗船研究者

（定番）テクトニクス

P-113
マルチチャンネル音波探査結果による島原湾の地質構造の解明．早川　信・千葉貴彰・長岡信治・杉山雄一・岡村行信・坂本　泉・越後智雄・伊藤谷生・津村紀子・金田平太郎・宮内崇裕・荒井良祐・半場康弘・阿部信太郎・駒田希充・池田安隆・山北　聡・工藤　健

P-114
地中レーダによる断層の調査．キム ウソク・宮田隆夫・チャン タエウー

P-115
カリフォルニア州Wildcat断層の構造特性．上田圭一・田中姿郎・濱田崇臣・佐々木俊法・伊藤久敏・佃　十宏・大西セリア智恵美・唐崎建二・市川清士・後藤淳一・守屋俊文

P-116
根尾谷断層破砕帯における元素の移動と活動性評価．沓名亮輔・大谷具幸・小嶋　智・各務和彦

P-117
中越地域，片貝断層群と周辺地域の構造地質学的研究．草野　亙・小林健太

P-118
菊川断層の構造地質学的研究．高松　総・小林健太

P-119
中部地方の中新世岩脈の分布，産状，年代とテクトニクス．丹羽正和・黒澤英樹・棚瀬充史・水落幸広

P-120
関東山地東部越生地域の御荷鉾緑色岩と秩父帯チャートとの関係．柳　京介・高木秀雄

※それぞれに（S）・（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月20日（月・祝）コアタイム　13：00-14：00　共通教育E棟2F・3F　ポスター会場

（定番）古生物

P-121
中国甘粛省下部白亜系河口層群から発見された恐竜の尾の跡．藤田将人・李　隆濫・李　大慶・東洋一

P-122
ornithomimidの足部骨格の復元．松本幸英・石垣　忍

P-123
北海道南大夕張地域における炭素同位体比層序．本田豊也・平野弘道

P-124
南部秩父帯の緑色岩中の地殻内微生物化石．榊原正幸・菅原久誠

P-125
微化石を含む棲管状生痕化石．平澤聡・柏木健司

P-126
浮遊性有孔虫室房の3次元形態解析．伊藤光・佐々木理・岩下智洋・長濱裕幸・鹿納晴尚

P-127
関東平野中央部更新統における沿岸海生珪藻群集の時空分布．納谷友規・中澤努・水野清秀

（定番）変成岩とテクトニクス

P-153
中央CDMLに産する塩基性片麻岩類の鉱物組み合わせと全岩化学組成．馬場壮太郎・大和田正明・外田智千・足立達朗・中野伸彦・豊島剛志・小山内康人

P-154
東南極セールロンダーネ山地に産するコランダムと石英．外田智千・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・豊島剛志・馬場壮太郎

P-155
南インド Perundurai及びKanja Malaiの苦鉄質グラニュライト．齋藤陽介・角替敏昭・清水恒子・M Santosh・T.R.K Chetty・堀江憲路

P-156
マダガスカル中央東部に産する変成岩類の地球化学的特徴．市來孝志・石川正弘・有馬眞・ラコトンドラザフィー レイモンド・斉藤　哲

P-157
マダガスカルZazafotsyに産するシデライトを含むグラニュライト．外圃雄一・石川正弘

P-158
グァテマラ産ローソン石エクロジャイト．遠藤俊祐・ウォリス サイモン・壷井基裕・Solari Luigi・Torres de León Rafael

P-159
チベット南部カンマードームの新生代における定置年代．白河知恵・ウォリス サイモン・北島宏輝・青矢睦月・佐野有司

P-160
山鹿はんれい岩体の構成岩類とその起源について．宮本知治・榎原　彩

P-161
出雲大東地域からスピネル＋石英＋紅柱石共生の発見．郷田翔一・志村俊昭・石原舜三

P-162
丹沢層群における熱水変質作用．久米裕之・石川正弘

P-163
HP-metamorphic rock of Chandman district. Otgonkhuu Javkhlan・A. Takasu・B. Bat-Ulzii・O. Gerel

P-164
チベット南部Kung Co地域　正断層に伴う19Ma延性東西身長．三石真祐瞳・ウォリス サイモン・青矢睦月・リー ジェフレイ・ホワイトハウス マーティン

P-165
相対地質圧力計．池田　剛

P-166
埼玉県小川町の緑色岩メランジュと木呂子変成岩．小野　晃

P-167
「大洲」地域の三波川変成コンプレックス．坂野靖行・宮崎一博・水野清秀

P-168
五良津岩体近傍に産するカルデラ型Mn累帯構造を示すザクロ石．吉田健太・平島崇男

P-169
四国東部眉山地域三波川変成帯のざくろ石藍閃石片岩の産状．中村真祐子・高須　晃・近藤裕貴

P-170
中央構造線近傍・三波川帯での熱異常検出の試み．森　　宏・ウォリスサイモン・藤本光一郎・重松紀生

P-171
流体が存在する条件での岩石の弾性波速度測定．片山郁夫・河野義生・岡崎啓史・渡辺　了

P-172
拡散クリープ−転位クリープ遷．宮崎智美・奥平敬元・小川大介・佐津川貴子・道林克禎

P-173
蛇紋岩のレオロジーが沈み込み帯ダイナミクスに与える影響．平内健一・片山郁夫

※それぞれに（S）・（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■ ランチョン ■

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月19日（日）12：00-13：00

会場④（C21）　岩石部会（世話人　片山郁夫）
会場⑤（C22）　堆積地質部会（世話人　小松原純子）堆積地質部会の定例会合
会場③（C13）　構造地質部会定例会（世話人　橋本善孝）過去の活動報告，会計報告，今後の活動計画など
会場⑥（D21）　火山部会（世話人　石塚吉浩）火山部会の報告，企画
会場①（C11）　地質学雑誌編集委員会（世話人　山路　敦）
会場②（C12）　応用地質部会の運営に関する意見交換（世話人　上野将司・小嶋　智）世話人・行事委員の交代，メーリングリストについて

9月20日（月）12：00-13：00

会場⑤（C22）　海洋地質部会（世話人　徳山英一・荒井晃作・芦　寿一郎・小原泰彦）海洋地質部会の活動に関する議論と情報交換
会場⑥（D21）　古生物部会（世話人　北村晃寿）古生物部会の定例会合
会場①（C11）　地域地質部会・層序部会合同（世話人　吉川敏之）部会活動や世話人体制についての議論と情報交換
会場②（C12）　Island Arc編集委員会（世話人　原　英俊）Island Arc誌の編集に関する打ち合わせ

■ 夜間小集会 ■

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月19日（日）18：00-20：00

会場④（C21）　南極地質研究委員会（世話人　本吉洋一・外田智千）第51次（2009/10）セールロンダーネ山地地質調査報告/第51次（2009/10）夏期オペレーションの概要/第52次（2010/11）地質調査計画について/第53次（2012-）以降の調査計画について/南極観測における公開利用研究の募集について/その他
会場⑤（C22）　炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人　中澤　努・松田博貴）炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに，最新研究動向・情報について意見交換を行う．
会場③（C13）　地学教育（世話人　中井　均）新しい学習指導要領の実施にともなう，各高校のカリキュラム改訂について状況を紹介し，今後の方向を議論する．
会場⑥（D21）　地質学会若手の集い（世話人　大坪　誠・山口直文・大橋聖和・山口飛鳥・池田昌之）若手研究者から学部生が集まり，今後の地質学研究のあり方について議論する．
会場①（C11）　【ジュラ系＋】の集い（世話人　松岡　篤（代表）・小松俊文・近藤康生・堀　利栄・石田直人・柿崎喜宏）今夏の国際ジュラ系会議での動向を中心に，最近のジュラ系研究の進展について話題提供と意見交換を行う．
会場②（C12）　環境地質部会（世話人　田村嘉之・風岡　修）富山県における環境地質に関する講演など．
会場⑦（D22）　考古学への地質学の貢献（10）（世話人　渡辺正巳・井上智博・松田順一郎・趙　哲済・小倉徹也・別所秀高）縄文時代前期の土坑墓から副葬品を伴った人骨が発見されたことで最近新聞を賑わせた小竹貝塚について，（財）富山県埋蔵文化振興財団の町田賢一さんと現在の現場担当の方にお話しいただきます．
大会本部（A21）　超深度海溝掘削（KANAME）（世話人　木村 学・金川久一・斎藤実篤）新学術領域研究『超深度海溝掘削（KANAME）』の研究計画と本年度の南海掘削に関する情報交換を行う．

9月20日（月）17：30-19：00

会場④（C21）　地質学史懇話会（世話人　会田信行・金　光男）１．相馬恒雄：飛騨帯の見方の変遷/２．東　洋一：福井県立恐竜博物館の発掘調査とジオパークの取り組み
会場③（C13）　構造地質部会若手の研究発表会（世話人　橋本善孝）構造地質部会若手の研究発表会を夜間小集会において行います．１人20で３名を予定しています．
会場⑥（D21）　学生のヒマラヤ野外実習を考える会（世話人　吉田勝・在田一則・酒井哲也）トリブバン大学地質学教室と共同で，日本の学生実習をネパールヒマラヤで毎年実施する計画を話し合う．とりわけ日本の大学における野外地質学教育の一層の振興を目指し，大学のカリキュラムとして採用する方向を模索したい．
会場①（C11）　ジオパークへの地質学会支援のあり方（世話人　天野一男・高木秀雄・渡辺真人）日本各地で進んでいるジオパーク事業への地質学会の支援について，一般会員にも参加いただき討論する．

■ 関 連 行 事 ■

堀越　叡追悼特別講演会：地殻進化と同成鉱床研究の総括と最前線

A special symposium to honor Ei Horikoshi: Recent advances in concepts concerning syngenetic deposits and their geologic setting

富山大会実行委員会　主催
資源地質学会　共催
日時：**9月19日（日）14：00〜17：00**
会場：富山大学理学部2階多目的ホール
世話人：大藤　茂（shige@sci.u-toyama.ac.jp），清水正明

昨秋亡くなられた堀越　叡会員は，黒鉱鉱床や別子型鉱床の成因を地質学的に解明された世界的に著名な資源地質学者であり，また，地殻進化の立場から地球史を考え，我が国でもっとも早く，日本列島の成因をプレートテクトニクスで説明しようと試みた地質学者でもありました．氏を追悼し，資源地質学や地殻進化学の未来を語るシンポジウムを企画いたしました．

【プログラム】

14：00　開会の辞　鎮西清高・石原舜三
14：05　E-1 堀越　叡教授の「地殻進化学」　大藤　茂・鎮西清高・島崎英彦
14：15　E-2 福井県九頭竜川上流の飛騨外縁帯　松本孝之
14：30　E-3 環日本海地域の花崗岩とメタロジェニー：環太平洋の東西のコントラストに関連して　佐藤興平
14：45　E-4 黒鉱鉱床の古海洋学的位置　小室光世・伊藤孝
15：00　E-5 黒鉱層準の再検討：微量成分による酸性岩類解析法　水田敏夫・緒方武幸・ティ・トゥラ・ジョウ・石山大三
15：15　E-6 沈殿カイネテイックスと黒鉱鉱床における鉱物ゾーニング　鹿園直建
15：30　E-7 数理的手法による黒鉱鉱床の資源解析　古宇田亮一
15：45　E-8 黒鉱類似鉱床あるいは黒鉱の末端現象に関る諸問題　山田亮一・長瀬敏郎・長谷川樹
16：00　E-9 日立藤見鉱床の高温接触変成作用と鉱石の化学組成　黒﨑清貴・加瀬克雄
16：15　E-10 Re-Os放射壊変系による別子型鉱床の生成年代決定と顕生代のグローバル海洋環境変遷　野崎達生・加藤泰浩・鈴木勝彦
16：30　E-11 現世海底熱水鉱床の現場から振り返って見た黒鉱鉱床成因論争　浦辺徹郎
16：45　総合討論　石原舜三・鎮西清高

※本特別講演会の講演要旨は，富山大会講演要旨集に同時収録されます．

地質情報展2010とやま ―海・山ありて富める大地―

日程：**9月18日（土）〜19日（日）**9：30〜16：30（19日は16：00まで）入場無料
会場：富山市民プラザ　2階アートギャラリー・アトリウム
主催：一般社団法人日本地質学会，産業技術総合研究所地質調査総合センター
後援：富山市，富山県教育委員会，富山市教育委員会，NHK富山放送局，北日本新聞社，財団法人立山カルデラ砂防博物館，国立大学法人富山大学，日本ジオパークネットワーク，富山県地質調査業協会，社団法人斜面防災対策技術協会富山県支部
展示テーマ：富山の地質，立山火山，富山深海長谷，富山の岩石と化石，シームレス地質図，ジオパークほか．
体験コーナー：化石レプリカ作り，石割体験，キッチン火山，液状化実験，岩石の顕微鏡観察，鳴り砂ほか．

■市民講演会　9月18日（土）4F　アンサンブルホール　14：00〜15：40
「**アジアの恐竜と日本の恐竜**」東　洋一（福井県立恐竜博物館特別館長）
北陸地方に分布する手取層群からは多数の恐竜の骨や足跡の化石が発見されています．これら日本の恐竜とアジア地域の恐竜との関連についてお話しします．
「**大地に刻まれた地震痕跡**」寒川　旭（産業技術総合研究所関西センター招聘研究員）
激しい揺れに襲われ続けた北陸の大地には，数多くの地震痕跡が刻まれています．地震考古学から，日本列島の激動の歴史を読み解きながら地震を引き起こした活断層についてお話します．

■ミニ講演会　9月19日（日）3F　AVスタジオ　10：30〜
「富山の恐竜化石」　藤田将人（富山市科学博物館）
「ジオパークへ行こう」　渡辺真人（産業技術総合研究所，日本地質学会ジオパーク支援委員会委員）
「立山カルデラへ行こう」　丹保俊哉（立山カルデラ砂防博物館）ほか

■地質学会関連の展示
・地学オリンピック：目指せ金メダル！
毎年開催される国際地学オリンピック．国内の一次選抜（筆記試験）や二次選抜（実技試験）の問題をポスターで展示します．また国際大会の様子を写真で紹介します．
・惑星地球フォトコンテンスト入賞作品展示
2009年に開催された第1回惑星地球フォトコンテストの入賞作品を展示します．国内外のすばらしい写真の数々をご堪能下さい．

問合せ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター
http：//www.gsj.jp/Info/event/2010/johoten_2010/index.html
TEL：029-861-3549
e-mail：johoten2010.jimu@m.aist.go.jp

小さなEarth Scientistのつどい
～第8回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．富山大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

日時　**9月19日（日）9：00～15：30**
場所　日本地質学会年会ポスター会場
参加予定校（7月20日現在）：
・静岡県立磐田南高等学校
・熊本県立第二高等学校
・明治学園高等学校
・兵庫県立加古川東高等学校
・大阪府立花園
・岡山県立林野高等学校
・香川県立三本松高等学校
・早稲田大学高等学院
問い合わせ・申し込み先：
日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

就職支援プログラム

日本地質学会第117年学術大会開催期間中の9月19日に標記「就職支援プログラム」を開催することになりました．

本プログラムは，学会に参加される学生・院生および大学教員の会員，ならびに富山大学の学生・院生・関係者らを対象に，本会賛助会員をはじめとする関連会社との相互の情報交換を行う場を提供しようというものです．つきましては，ぜひご参加いただきますようご案内をいたします．

日程：**9月19日（日）14：00～17：00**
場所：富山大学五福キャンパス　共通教育棟E棟
主催：一般社団法人日本地質学会
内容：主催者等　挨拶・紹介，参加各社による数分のプレゼンテーション，参加各社の個別説明会（パネル，配布資料等をご用意ください）
対象：富山大会に参加する学生・院生および大学教員等の会員・富山大学の学生・院生および教員等
参加費：無料
出展予定企業・団体（8月10日現在）：
・株式会社ダイヤコンサルタント
・石油資源開発株式会社
・ジーエスアイ株式会社
・産業技術総合研究所
・川崎地質株式会社
・株式会社クレアリア
・明治コンサルタント株式会社
問い合わせ先：
担当理事　向山　栄/事務局　堀内
電話　03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

海・山ありて富める大地

地質情報展 2010 とやま

入場無料

2010年 9月18日(土)19日(日)

富山市民プラザ 2Fアートギャラリー・アトリウム

9:30～16:30（19日は16:00まで。）

富山及び周辺の地質をはじめとして、最新の地質学の成果を分かりやすく体験的に展示・解説します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな体験学習コーナーを用意しており、実験や実演を通して地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展2010とやま」にご来場ください。

石割体験

飛び出す火山のペーパークラフト

自然の不思議「鳴り砂」

水槽で地層作り

顕微鏡で石の観察

化石のレプリカ作り

液状化実験「エキジョッター」

火山の噴火実験

深海底のマンガン団塊ゴロゴロ

主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

後援：富山市・富山県教育委員会・富山市教育委員会・NHK富山放送局・北日本新聞社・財団法人立山カルデラ砂防博物館・国立大学法人富山大学・日本ジオパークネットワーク・富山県地質調査業協会・社団法人斜面防災対策技術協会富山県支部

■■ お問い合わせ先 ■■

独立行政法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター地質情報展開催事務局

E-mail: johoten2010.jimu@m.aist.go.jp
TEL: 029-861-3549
URL: http://www.gsj.jp/Info/event/2010/johoten_2010/

「地質情報展2010とやま－海・山ありて富める大地－」は、平成22年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

地質情報展2010とやま―海・山ありて富める大地―

市民講演会 北陸の大地をゆるがす 地震と恐竜

平成２２年９月18日（土）
14:00～15:40
会場：富山市民プラザ
４階アンサンブルホール
（富山市大手町６番14号）
入場無料・申込不要　定員３００名（先着順）

講演１
東　洋一（福井県立恐竜博物館特別館長）
「アジアの恐竜と日本の恐竜」

講演２
寒川　旭（独立行政法人産業技術総合研究所
関西センター招聘研究員）
「大地に刻まれた地震痕跡」

日本地質学会 第１１７年学術大会 富山大会

主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
後援：富山県教育委員会・富山市教育委員会・ＮＨＫ富山放送局・北日本新聞社

「地質情報展2010とやま―海・山ありて富める大地―」は、平成22年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

土質・地質技術者の方必見！

ジオ・スクーリングネットを活用しよう

土質・地質技術者の生涯にわたる学習記録を
サポートするための支援システム

まずは登録！

・ジオ・スクーリングネットは、土質・地質技術者生涯学習協議会が運用する土質・地質技術者のための生涯学習総合サイトです。
・本サイトでは、地質学会のほか協議会加盟団体が主催する、研修会や講習会など技術者のための関連情報を提供しています。
・利用者登録（無料）を行うと、どなたでも直接本ウエブサイトから研修会や講習会などへの参加申込みをすることができます。
・CPD単位を取得し、技術者継続教育（CPDH）の自己学習の記録が管理できます。
・受講証明書やCPD記録証明が無料で発行できます。

※CPD (Continuing Professional Development:「継続教育」)

各種証明書はWEBから無料発行できます
CPD記録簿/受講証明書/CPD記録証明書

ジオ・スクーリングネットの加盟団体は、現在も拡大中です。
加盟団体：日本地質学会・日本応用地質学会・日本地下水学会・日本地すべり学会・物理探査学会・日本情報地質学会・NPO日本地質汚染審査機構・産業技術総合研究所・関西地盤環境研究センター・全国地質調査業協会連合会・全地連10地区協会

http://www.geo-schooling.jp/

日本地質学会*News*

Vol.13 No.8 August 2010

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会第117年学術大会プログラム（富山大会） …… (1) – (29)

ご案内 ……2
第19回地質汚染調査浄化シンポジウム/第60回東レ科学講演会/化学物質のリスク評価セミナー ―化学物質のこれからを知る―/世界石油会議カタール大会Call for paper：論文募集

公募 ……2
首都大学東京都市環境学部地理学教室（地理環境科学域）教員公募/東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教員公募/東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教員公募/京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教員公募

各賞・助成 ……4
第13回大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集

紹介 ……4
阿波丸の殉難者を悼む-阿波丸殉難者追悼録の紹介-（大森昌衛）

Geologist物語 ……5
思い起こすことなど（石原舜三）

CALENDAR ……7

日本の展望―学術からの提言2010のご案内 ……7

日本地質学会第117年学術大会（富山大会）……8
見学旅行：各コースの魅力と見どころ

国際交流 ……10
韓国忠南大学の九州巡検記録

支部コーナー ……11
近畿・四国・西日本支部：市民向け普及講演会『ジオ・シンポジア2010 in 北九州』開催報告/日本地質学会近畿・四国・西日本支部三支部合同例会

2009年度Island Arc編集委員会報告 ……13

院生コーナー ……14
KANAME平成21年度研究集会報告（本多　剛）

会員特別割引販売のお知らせ：
日本地方地質誌８．九州・沖縄地方 ……16

巻末　会費口座振替依頼書

表紙紹介

高度差4,000mの豊かな大地

文：**増渕佳子**（富山市科学博物館）　写真：**富山市提供**

富山平野の東には，3,000m級の立山連峰と後立山連峰がそびえています．立山連峰の中でも，特に有名なのは2009年に映画にもなった剣岳（写真中央右）でしょう．立山や剣岳登山の拠点である室堂平の最深積雪量は，毎年6～9mにもなります．ここから流れ出る豊富な雪解け水は，山岳地帯を削り，急流河川となって流れ下ります．そして，富山県南部の飛騨高地から流れ出た急流河川とともに，複合扇状地（富山平野）を形成します．さらに流れ下った河川水は，水深1,000mに達する日本海最深の富山湾へ流れ込みます．富山湾表層は日本海を北上する対馬暖流に覆われますが，中低層は冷たい日本海固有水が占めるため，豊かな漁場となっています．

このように高度差4,000mを超す起伏の大きな地形は，変化に富んだ豊かな自然を作り出しています．また，地質的にみても，中生代以前の飛騨変成岩類から白亜紀～古第三紀火成岩類，中新世～完新世の堆積物，第四紀火山岩類などが分布する富山県は，非常に多様性に富む大地といえます．

事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

8月/August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2*	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

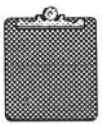
8/13-16：事務局夏期休業

9月/September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※9/18-20：学術大会のため事務局不在

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

第19回地質汚染調査浄化シンポジウム

イタイイタイ病からの土壌環境基準とは－健康環境基準？・経済環境基準？土壌汚染問題発祥地から問う－

日　時　**2010年9月16日（木）** 13：00～18：30
場　所　富山国際会議場大手町フォーラム多目的会議室203号
主　催　NPO日本地質汚染審査機構
共　催　日本地質学会環境地質部会・地質汚染-医療地質-社会地質学会・IUGS-GEM日本支部
参加費　1,500円（主催共催団体会員）・2,000円（非会員）

プログラム
挨拶　藤井昭二（NPO法人日本地質汚染審査機構名誉会員・富山大学名誉教授）
1．イタイイタイ病に係るカドミュウムの土壌汚染と経済土壌環境基準（新概念）：楡井　久　（NPO法人日本地質汚染審査機構理事長）
2．イタイイタイ病の全体像とその歴史－とくに住民運動と裁判闘争－：松波淳一（弁護士）
3．神通川流域のカドミュウムの分布と用水の問題及び汚染土壌の復元：藤井昭二（富山大学名誉教授）
4．現在も残るイタイイタイ病の医学的未解決問題－カドミュウム曝露量と関連して－：青島恵子（萩野病院院長）
5．土壌汚染対策法に係る土壌環境基準の運用の現実：上砂正一（地質汚染診断士の会会長）
6．地質学の最前線＝医療地質学の世界を覗く：古野邦雄（千葉県地質環境研究室）
総合討論　国民側からの汚染基準

申込み　日本地質汚染審査機構事務局
TEL 043-213-8507 FAX 043-213-8508
E-mail office@npo-geopol.or.jp

第60回東レ科学講演会

日　時　**2010年9月17日（金）** 17：00～20：00
場　所　有楽町朝日ホール（有楽町マリオン11階）東京都千代田区有楽町2-5-1
テーマ　進化と起源の謎
現代遺伝学とダーウインの進化論-アフリカ・ビクトリア湖の魚の進化-：東京工業大学大学院生命理工学研究科教授　岡田典弘
宇宙の起源と進化-星が作った多様な宇宙-：東京大学ビッグバン宇宙国際研究センター准教授　茂山俊和

入場無料、定員630名（当日会場先着順・開場16時30分）
予約不要
お問い合せ
財団法人　東レ科学振興会
〒279-8555 千葉県浦安市美浜1-8-1
TEL：047-350-6103
E-mail：torayzaidan@tgnts.toray.co.jp
http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_006.html

化学物質のリスク評価セミナー―化学物質のこれからを知る―

（製品評価技術基盤機構による連続セミナー・第2回）

近年の化学物質に対する関心の増大や国際動向を踏まえ，国内においても化学物質管理を巡る状況は，大きく変化しています．2010年4月から化管法では，見直し後のPRTR指定物質の排出量等の把握が開始されました．また，化審法では，これまで対象外であった良分解性を示す化学物質も対象となり，さらに，2010年4月からは既存化学物質を含むすべての化学物質が届出の対象となります．このような状況において，今や法制度に基づくもの，事業者による自主的なものも含め，リスクに基づく化学物質管理が主流となりつつあります．

本学会ではNITEのご協力により，化学物質の科学的リスク評価方法，法的措置，現場での対応など毎年の時宜にあわせた解説を提供していただきます.今回は法律の制度説明，PRTR排出量のリスク評価への活用及び化審法に基づく届出情報を用いたリスク評価手法について解説していただきます．

主　催　社団法人日本水環境学会，独立行政法人製品評価技術基盤機構
期　日　**2010年12月17日（金）** 10：30～16：40
場　所　自動車会館大会議室（東京都千代田区九段南4-8-13）
参加費　会員 3,000円，学生会員 1,000円，非会員 4,000円（先着160人で締切）

申込方法　本会HPまたはFAX，E-mail，ハガキに①参加者氏名（フリガナ），②会員・非会員の別，③会員の場合は会員番号，④連絡先（所属団体名，住所および電話・FAX番号）をご記入の上，下記宛お申し込み下さい．入金を確認後，参加証（ハガキ）をお送りいたします．

参加費振込先　三菱東京UFJ銀行 市ヶ谷支店（普通）0754950
（社）日本水環境学会セミナー口
シャ）ニホンミズカンキョウガッカイセミナーグチ

申し込み・問い合わせ先
（社）日本水環境学会 セミナー係
〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7
グリーンプラザ深川常盤201号
Tel. 03-3632-5351　Fax. 03-3632-5352
E-mail：yamamoto@jswe.or.jp

世界石油会議カタール大会 Call for paper：論文募集

世界会議(World Petroleum Council: WPC)は，2011年12月4日（日）～8日（木）ドーハ（カタール）で開催する第20回世界石油会議第における技術プログラムのフォーラム（Forum）の論文募集を開始しました．
フォーラムでは24セッションについて各4～5件の口頭発表と各最大10件のポスター発表が採択される予定です．

日本国内委員会としては，本大会に対して，積極的な協力･参加を考えておりますので，是非とも多くの応募をお願いしたいと考えております．

応募はアブストラクト(要約)（最大350ワード）により，**2011年1月31日に締め切られます**．要約提出に当たり国内委員会としても，希望される場合には無償にて提出要約の英文作成にご協力させていただきますので，詳細は国内委員会ホームページをご覧いただき応募いただきますようお願い申し上げます．
（http://www.wpcjnc.jp）

世界石油会議日本国内委員会事務局

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

首都大学東京都市環境学部地理学教室（地理環境科学域）教員公募

募集職位　教授又は准教授
募集人数　1名
所属及び勤務地　（学部）都市環境学部地理環境コース　（大学院）都市環境科学研究科地理環境科学域　南大沢キャンパス（〒192-0937　八王子市南大沢1－1）
専門分野　自然地理学，環境学
担当予定科目　学部および大学院における地理環境科学関連の科目
応募資格　1．博士の学位を有する方　2．地理環境の研究と学部・大学院の教育に

責任と熱意を持って取り組んでいただける方．3．都市環境科学研究科において，都市環境の改善，創出に資する研究に取り組む意欲のある方．

採用年月日　平成23年４月１日

処遇　（1）職位・業績・職務内容に応じた年俸制　（2）退職手当は法人退職時に別に支給

任期　「教授」：任期５年（更新あり）「准教授」：任期５年（更新あり．准教授としての更新は２回までであり．）※ただし，65歳となった年度の末日をもって退職となります．（平成24年度まで経過措置があります）

応募書類　①履歴書（様式１）②教育研究業績一覧（様式２）③論文等業績リスト（様式任意）④主要な研究論文の別刷・コピー５編以内各２部　⑤外部資金実績一覧（様式５）⑥社会貢献等業績一覧（様式６）⑦採用後の教育・研究・社会貢献活動の計画（2,000字以内で作成：様式任意）⑧応募者について意見を聞くことができる方２名の氏名，連絡先

※所定様式及び記入要領は下記ホームページからダウンロードすることが可能．
http://www.tmu.ac.jp/kikaku/employ/tmu_teacher.html

提出先　〒192-0397　東京都八王子市南大沢１－１
公立大学法人首都大学東京　総務部人事課人事制度係

提出期限　**平成22年９月21日（火）必着**

問い合わせ先

①公募全般に関すること
公立大学法人首都大学東京　総務部人事課人事制度係
TEL　042-677-1111（内）1028
E-Mail　kyoinsaiyo@jmj.tmu.ac.jp

②専門分野に関すること
都市環境科学研究科地理環境科学域長
渡邊眞紀子
TEL 042-677-1111（内）3874
E-Mail m.wata@tmu.ac.jp

東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻教員公募

１．公募人員：助教　１名
２．公募分野：地球システム変動学分野．特に，野外調査をベースに地球表層システム変動のダイナミクスを研究する分野．
３．応募資格：赴任時までに学位を取得されている方．大学院地球惑星科学専攻および地球惑星環境学科での野外調査実習，野外巡検，室内観察実習，などの担当補助をできる方．
４．着任時期：平成22年度内のなるべく早い時期
５．募集方法：自薦または他薦（他薦の場合は，ご本人が了解されていること）
６．提出書類：
（a）略歴書（学歴および職歴）
（b）これまでの研究教育業績の概要（1500字程度）
（c）研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説，著書などに分類）
（d）主要論文3編以内の別刷（コピー可）
（e）今後の研究計画および抱負（1500字程度）
（f）今後の教育への抱負とその中でのフィールド教育の位置づけ（1000字程度）
（g）自薦の場合は，応募者に関して所見を伺える方2名の氏名および連絡先（住所，電話番号，電子メールアドレス）
（h）他薦の場合は，推薦書および上記事項（a）-（d）の概要がわかる書類
７．応募・推薦締切：**平成22年９月24日（金）**
８．書類送付先
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻　事務室
電話：（封筒に「地球システム変動学教員応募書類在中」と朱書し，郵便・宅配便の場合は配達記録の残る方法で送付のこと．特に要望がない限り，応募書類は返却いたしません．）
９．問い合わせ先
東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻　多田　隆治
電話：03-5841-4523
電子メール：ryuji@eps.s.u-tokyo.ac.jp

東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻教員公募

１．公募人員：准教授　1名
２．公募分野：進化古生物学分野
３．応募資格：博士の学位を有し，化石の生物学的研究を基礎として，地球生命科学の新展開を推進できる方．大学院地球惑星科学専攻および地球惑星環境学科での地球表層科学分野の講義および実習・演習，野外調査実習，野外巡検，室内観察実習を担当できる方．
４．着任時期：平成 23年 4月 1日を予定
５．募集方法：自薦または他薦（他薦の場合は，ご本人が了解されていること）
６．提出書類：
（a）略歴書（学歴および職歴）
（b）これまでの研究教育業績の概要（1500字程度）
（c）研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説，著書などに分類）
（d）主要論文5編以内の別刷（コピー可）
（e）今後の研究計画および抱負（1500字程度）
（f）今後の教育（学部および大学院）の抱負（1000字程度）
（g）自薦の場合は，応募者に関して所見を伺える方2名の氏名および連絡先（住所，電話番号，電子メールアドレス）
（h）他薦の場合は，推薦書および上記事項（a）－（d）の概要がわかる書類
７．応募・推薦の締切：**平成22年9月30日（木）**
８．書類送付先
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻　事務室
電話：03-5841-4598
（封筒に「進化古生物学分野教員応募書類在中」と朱書し，郵便・宅配便の場合は配達記録の残る方法で送付のこと．特に要望がない限り，応募書類は返却いたしません．）
９．問い合わせ先
東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻　遠藤一佳
電話：03-5841-4553
電子メール： endo@eps.s.u-tokyo.ac.jp
http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/

京都大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻教員公募

１．採用職名：准教授１名
２．所属分科：地球生物圏史分科
３．期待する教育・研究分野：堆積物，地層，あるいはそれらに含まれる化石を対象に，地質科学的方法で地球生物圏における諸現象のメカニズムの解明を目指して研究を行っており，他の教員と共同して教育・研究を推進できる方．また，野外地質調査の指導ができ，地球科学の教育に熱意を持っている方．
４．採用予定：平成23年４月１日以降のできるだけ早い時期
５．必要書類
（１）履歴書
（２）業績目録（査読付き原著論文，紀要・報告など査読のない原著論文，総説，書籍などに分ける）
（３）主要論文5編以内の別刷り（またはコピー）各1部
各論文の内容について和文の解説（約400字）をつけること
（４）これまでの研究経過と研究成果の概要（約1000字）
（５）教育実績がある場合，その概要（1000字以内）
（６）着任後の研究計画（約1000字）と教育についての抱負（約1000字）
（７）最近10年間の競争的研究資金受領
６．適任者を推薦くださる場合は，被推薦者の氏名，所属，連絡先を9月30日(木)までに，文書にて教室主任までお知らせください．その際には，上記の必要書類は不要です．当方で被推薦者に応募の意志の確認，および必要書類の請求などをいたします．
７．応募締切：**平成22年10月21日（木）必着**

8．書類提出先および問い合わせ先：
〒606-8502　京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室
教室主任　小畑正明
注：封筒の表に「教員公募地球生物圏史」と朱書し，郵送の場合は書留便として下さい。教室段階での選考結果については，確定次第本人に通知致します．
＊教室ホームページ
http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行理事会までお申し込み下さい．

第13回大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集

趣旨：本賞は，化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして，自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し，科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として，1998年に設けられたものです．

対象：自然科学分野において，優れた研究成果をあげており，将来，科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています．

授賞件数：年２件以内
賞状及び副賞50万円を贈呈します．

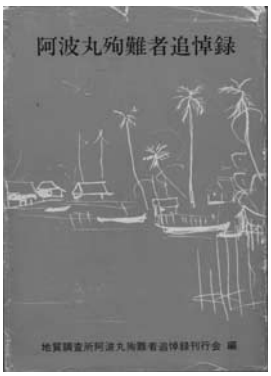
提出書類：１．推薦状，２．履歴書（写真貼付），３．研究業績リスト，４．主要な論文別刷５編以内，それぞれ３部（コピーでも可），５．研究題目とその概要及び今後の展望と抱負を記したもの（A４版２頁以内）

応募締切日：**2010年11月30日（火）**

書類送付先及び連絡先：
社団法人　大学婦人協会
〒160-0017　東京都新宿区左門町11-６-101
TEL　03-3358-2882　　FAX　03-3358-2889
http://www.jauw.org
jauw@ jauw.org

紹　介

阿波丸の殉難者を悼む
-阿波丸殉難者追悼録の紹介-



〈地質調査所阿波丸殉難者追悼録刊行会編並びに発行，昭和54年（1979）年11月，A5版245頁，（非売品・日本地質学会蔵）〉

阿波丸事件は太平洋戦争末期の昭和20（1945）年４月１日に起こっている．台湾海峡を航行中に，アメリカの潜水艦クイーン・フィッシュの魚雷攻撃を受けて沈没し，2000余名の乗船員のうち１名を除いて全員が船と運命をともにした．当時は戦争中で物資不足のため，地質学雑誌の刊行も不能で，日本地質学会としての追悼行事は行われていない．

終戦後に地質調査所が慰霊祭を行い，昭和52（1977）年４月に遺族会による合同法要が行われている．

本書の巻頭には下記の地質調査所関係の殉難者11名と，阿波丸の全容の写真が掲載されている．

千谷好之助・守尾益男・渡辺光樹・森岡富造・直井正作・竹田民英・伊藤毅・石川栄一・和田政男・青地清彦・磯崎三郎（敬称略，本書掲載順）

平成５（1993）年４月に日本地質学会100周年記念行事を催した際に，元帝国石油株式会社の山内肇名誉会員（故人）から100周年記念誌編集委員会に，本書が寄贈されたものである．記念誌には太平洋戦争中の殉難者の氏名を記したが，本書の紹介の機会を失したまま今日に至った不備をお詫びし，殉難65周年を迎えた機会に改めて紹介し，殉難者のご冥福をお祈り申し上げる．

本書の内容は，序文・阿波丸登用に至る経緯・事件の推移・当時の地質調査所々員等による殉難者の思い出・調査団の業績が図を添えて記述され，末尾に殉難者に対する叙位・叙勲と殉難者遺族会の動向，とくに日本及びアメリカ政府に対する要請・抗議と，それに対する両政府の回答や，賠償金の内容等が記述されている．

本書によって太平洋戦争における帝国陸軍の石油資源確保の手段の一端を知ることができる．当時の陸軍が占領したボルネオ・スマトラ・ジャワ島等における南方油田の復旧と管理のため，陸軍南方燃料廠（陸南廠と略称）を設け，シンガポールに本部を置き，昭和18（1943）年７月に第一次調査団を派遣している．調査団の渡航や物資輸送のため，阿波丸の登用に至る経緯が述べられている．とくに，太平洋戦争の戦局の経緯・南方油田の開発状況及び阿波丸使用経過について，８頁に亘る年表が添えられている．

阿波丸事件を記した文献には，下記のものがある：本書の紹介には日本地質学会事務局の橋辺菊恵氏の協力を得たことを記して謝意を表す．

文　献

松沢尚武（1973），仏印回想録-阿波丸の最後，海文堂，32-148頁
フクミツ・ミノル（1973），阿波丸事件の謎，読売新聞社，214頁
有馬頼寧（1976），交換船阿波丸の謎，毎日新聞，265-274頁
島津光夫（2009），新潟の石油・天然ガス10話，27-37頁，野島出版

（名誉会員　**大森昌衛**）

Geologist 物語

地質学と出会った頃/印象に残っている調査，研究/影響を受けた論文，書籍，講議，研究者/現在では観察できなくなった露頭/今だからはなせる裏話/など

思い起こすことなど

名誉会員　**石原舜三**

この度，日本地質学会から名誉会員への推挙を頂き，かつ地質家としての体験談を残すように，との依頼を受けた．そこで76年間の人生を振り返りなお心に焼きついていること，学生時代の恩師などについて記してみたい．

(1) 小学6年生ー原爆との出会い

私にとって最も衝撃的な事件は広島の原爆であった．1945年８月６日の８時15分頃，私は小学校６年生であり広島市の東方６kmにある木造校舎の２階で，空襲警報解除のサイレン後にB29の爆音を南東方向から聞き，不思議に思いながら廊下に出て，広島市の上空を横切って消えようとしている機影を窓越しに目視していた．その瞬間，目前に巨大な火の玉が現れ，数秒後に木枠の窓ガラスと天井が私の顔面に吹き付けてきた．幸いにも火災は発生せず，切り傷で血だらけになりながら，最後に校舎を出て裸足で帰宅した．

広島からの最初の避難者は11時過ぎであり軽症者であったが，午後になると続々と被災者が増加した．疎開先がなく部屋貸しをしていたある家族の次女が側面全身火傷の重症で，我が家にたどり着いたのは午後４時過ぎであった．約５kmの距離を８時間掛けて歩いている．医者も薬もなく，我々に出来ることは傷をきれいにし薬草を貼り付けることくらいであった．12時間もがき苦しみ，翌朝４時に13歳の短すぎる生涯を終えた．その生前の証言から室内に居た長女の消息を求めて，２日後にその母親と２人で焼け跡を訪ね山鍬で掘り返したが，遺骨は見付からなかった．戦後の聞き取り調査でも消息はつかめなかった．

コロンビア大学中心部の法学部前の筆者，28歳（1962年９月撮影）．

1956年，私は地質調査所に就職し，国の資源政策の下，鉱床探査に従事した．そこで基礎学力のなさを痛感し，米国の大学奨学金に応募し，５年の実務を経て1961年に渡米した．２年余りの滞米中に，書類から私の出身地を知り当時の状況を質問し，心から謝罪した人はコロラド鉱山大学大学院長の秘書の女性であった．彼女は米国籍であったが，アイルランド出身であり，ニューヨークの国連本部にも勤めた経験があった．私の指導教官を含めて多くの米国人は“広島”には触れたがらず，米国兵の命を守るためには必要悪であったと判断している様子であった．ある大学教授は日本人が造れなかっただけだと明言した．

その米国でも昨年の４月６日，チェコのプラハにおけるオバマ大統領の演説によって核兵器廃絶に向けて第１歩を踏み出しており，今年は米国政府の代表者を広島の式典に派遣するという．第二次大戦後の65年を経て我々が念願した「ノーモア広島」が実現しようとしている．核兵器を使用した唯一の国，米国の良識がこの世界を変えることに私は大きな期待を持っている．

(2) 我が恩師

広島大学時代の恩師は木野崎吉郎先生である．福島県出身であり東大卒業後は朝鮮総督府の地質調査所の技官として，朝鮮半島の資源調査に尽くされたことは，後に文献で知った．終戦後は北海道大学から広島大学に来られた．卒論には岡山県中央部の小さなスカルン鉱床である佐野鉱山を与えていただいた．坑内で現場指導を受けたはずであるが全く記憶になく，記憶に残っているのは，夕食後に話された（i）瀬戸内海はそのうち赤い海に変わるね，（ii）日本は燃料がないから小さくて輸入しやすいウランは日本に必要だね，の２点である．

当時の山陽地方は，多数の中小鉱山から磁硫鉄鉱を掘り，現地で焼却して酸化鉄に変えて紅柄（べんがら）と呼び，船底の塗料として瀬戸内海に多い造船会社に販売していた．今で言う"公害対策“はゼロと言ってよかった．また日本最大の硫化鉄鉱床である柵原鉱山も存在し，次々と新鉱体を発見して隆盛を極めていた．しかし鉱業汚染の心配は杞憂に終わり，後年の地質調査所の瀬戸内海の海底調査では泥は大変にきれいであった．ウランに関しては予側どうりで，今や原子力発電は電力供給の主力を占めている．このように先生は“マクロ”に物事を捉えておられ，私はそれに大きな影響を受けた．

西にロッキー山脈，東にテーブル山を持つGoldenの町（1961年秋撮影）．コロラド鉱山大学（写真右端矢印）のほか，その直ぐ上にCoorsビール工場があり，学生たちは午後4時から無料で飲めた．Brewed with Rocky Mountain spring waterの宣伝で有名となり，今や世界中で愛飲されている．

米国時代のコロラド鉱山大学の恩師，Robert H. Carpenter先生は典型的なスタンフォード大学紳士であって，我々が何かをして報告に行くと，常に“Excellent”を連発された．だから私は“Dr. Excellent”とあだ名をつけたが，米国人学生はBob & Gallopと呼んでいた．先生は大学時代に陸上の中距離走の選手であった為に山歩きの速度が速く，学生巡検でついて行く苦労から付けたのだと言う．毎週，22時間の鉱床学関連の授業をこなされ完全な職業教師であった．家庭では良き夫であり，外国人留学生には父親的な存在であった．

コロンビア大学のChas. Behre教授は白髪の老紳士であり，米国が発展途上国から抜け出そうとしていた時期に，ドイツに留学して博士号を取った人である．従って極めて国際的な感覚をもたれ，物事を判断された．我々学生でも紳士として扱われ，その自主性を重んじられた．門下生には，1960-1970年代に世界の鉱床学をリードしたPaul Barton，Bill Kellyなど多くの逸材がいる．ご自身の米国における研究ではMississippi Valley型鉛亜鉛鉱床で著名であった．

(3) 私が最も勉強した時期

1960年代の米国社会には，安かろう悪かろうの日本製品があふれていた．また模蔵品も多く，我々留学生を悲しい気持ちにさせた．私は日本人でも独創的でかつ社会に役立つ重要な研究，すなわちNumber One（Only Oneではなく）の仕事が出来ると密かに思っていたから，それを実行したかった．そのためには実力をつけることが必要であって，“スパルタ教育”を望み転校を指導教官に願い出て，２年目はコロンビア大学に入学した．

当時のコロラド鉱山大学では，学生は４年間の学部教育で一般の大学より30単位多い172単位を取って卒業する制度のために，他大学の修士相当と自負していた．従って大学院は自主研究が中心であった．一方コロンビア大学の修士取得には，（1）30単位を平均B

以上の成績で取得する，(2) 地球科学の全国共通試験に80点以上の成績で合格する，(3) 教室の鉱物・化石肉眼鑑定試験に合格する，(4) 独・仏・露の外国語試験の一つに合格することが義務付けられていた．従って，有無を言わさず学生を叩き上げる教育機関であり，修士課程は多くのことを教え社会に役立つ実務者を送り出す訓練機関と言ってよかった．

私の奨学金の保証は１年間であり，その間に30単位を取ろうとするわけだから午前中は授業の連続であり，午後は実習・実験の毎日であった．私は16時に実習が終わると食事をして図書室で勉強した．22時の閉館時間となると，一夜貸し出し制度で教科書を借り出し，寮の自室で朝４時頃まで勉強した．朝，返本し，９時には新たな授業が始まった．従って一日の睡眠時間は４時間程度であり，最初の食事が夕刻のことが多かった．日本の大学入試の頃は神経性胃炎に悩まされ，深夜を過ぎては勉強が出来なかった．だからこのコロンビア大学時代に私は最も良く勉強したと言える．この頑張りが後の花崗岩系列の提唱（石原，1983）で開花したと言えるかも知れない．

最近の新聞報道によると，現在の若者には留学希望者が少ないと言う．地球科学研究者を目指す以上は，国際的な視野と実力を養成するために他の先進国で“武者修行をすること”が必要であろう．その広い視野で培った実力でナンバー ワンの研究を世界に発信して欲しいものである．

文　献

石原舜三，1983，花崗岩系列が成立するまで．地質雑，**94**，1005-1011.

石原　舜三
（いしはら　しゅんそう）
1934年生まれ．
1956年　地質調査所入省
現在　産業技術総合研究所地質調査総合センター特別顧問．日本地質学会名誉会員．

★原稿を募集しています★

長年の「地質や」としての貴重なお話を，ニュース誌でご紹介させて頂きたく，原稿を募集しています．学生時代の思い出，印象残っている調査・研究，影響を受けた論文・書籍・授業，現在では観察出来なくなった露頭，など話題は何でも結構です．ご投稿をお待ちしています．

原稿概要

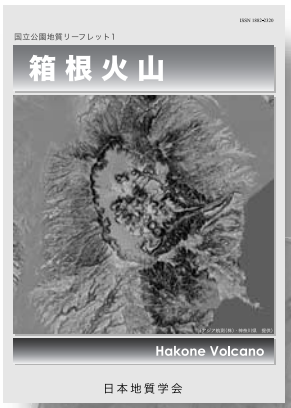
分量上限：（上限ですので，短い文章でも結構です）
１）本文：5000字以内
２）図表又は写真3-4点
３）本人の顔写真

送付方法：
メール添付<journal@geosociety.jp>もしくは，学会事務局宛に郵送

締切：月末締切・翌月号掲載

（ニュース誌編集委員会）

国立公園地質リーフレット1．箱根火山　好評発売中!!



B２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．

紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

購入希望の場合は，氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上，メールもしくはFAXで学会事務局までお申し込み下さい．会社名等での請求書が必要な方はその旨明記して下さい．
e-mail：main@geosociety.jp　　FAX 03-5823-1156

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています．

会員頒価　1,000円/部
（20部以上の場合は割引あり）

CALENDAR

2010.8〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2010年

8月　August

◯第12回国際熱年代学会議（Thermo 2010）
8月16日（月）〜20日（金）
会場：スコットランド・グラスゴー大学
http://www.ges.gla.ac.uk/Thermo2010

◯日本ジオパーク糸魚川大会
8月22日（日）〜23日（月）
会場：糸魚川市民会館（新潟県糸魚川市）
日本地質学会　後援
http://geo-itoigawa.com/taikai/index.html

★韓日地質学会室戸合同大会
8月23日（月）〜25日（水）
会場：国立室戸青少年自然の家
主催：日本地質学会
http://struct.geosociety.jp/koreajapangs2010/

◯第19回日本水環境学会市民セミナー
「食糧と水―私たちが生きていくために―」
8月27日（金）
場所　東京会場：地球環境カレッジホール
http://www.jswe.or.jp/

9月　September

★北海道支部企画野外巡検
夕張市・白金川流域の地質―砂金・化石の産状と白亜紀海洋無酸素事変層準の観察―
9月4日（土）・5日（日）
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

◯第54回 粘土科学討論会
9月6日（月）〜8日（水）
会場：名古屋大学 IB 電子情報館
日本地質学会　共催
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

◯2010年度日本地球化学会年会
9月7日（火）〜9日（木）
会場：立正大学熊谷校舎（埼玉県熊谷市）
日本地質学会　共催
http://www.geochem.jp/index.html

◯朝日地球環境フォーラム2010
9月13日（月）〜14日（火）
場所：ホテルオークラ（東京都港区虎ノ門）
http://www.asahi.com/eco/sympo2010/

◯第19回地質汚染調査浄化シンポジウム
イタイイタイ病からの土壌環境基準とは－健康環境基準？・経済環境基準？土壌汚染問題発祥地から問う－
共催：日本地質学会環境地質部会ほか
9月16日（木）
場所：富山国際会議場大手町フォーラム
E-mail office@npo-geopol.or.jp

◯日本温泉科学会第63回大会
9月13日（月）〜16日（木）
会場：野沢温泉アリーナ国際会議場
問い合わせ：info@nozawa.jp

◯第60回東レ科学講演会
9月17日（金）
場所：有楽町朝日ホール
テーマ：進化と起源の謎
http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_006.html

★日本地質学会第117年学術大会
9月18日（土）〜20日（月・祝）
会場：富山大学ほか
http://www.geosociety.jp

◯日本鉱物科学会2010年年会・総会
9月23日（木・祝）〜25日（土）
会場：島根大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/

10月　October

◯地球システム・地球進化 秋の学校 in 関西
10月9日（土）
場所：大阪大学豊中キャンパス理学部
http://quartz.ess.sci.osaka-u.ac.jp/~earth21/school/gakkou/gakkou.html

◯2010 土壌・地下水環境展
10月13日（水）〜15日（金）
会場：東京ビッグサイト（東京国際展示場）
日本地質学会　協賛
http://www.nikkan.co.jp/eve/dojyo/index.html

◯Techno-Ocean 2010
10月14日（木）〜16日（土）
会場：神戸国際展示場（神戸・ポートアイランド）
日本地質学会　協賛
http://www.tecno-ocean2010.com

◯日本応用地質学会平成22年度研究発表会
10月21日（木）〜22日（金）
会場：島根県民会館松江市
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

11月　November

◯東海地震防災セミナー2010のお知らせ
主催：東海地震防災研究会
11月11日（木）
会場：静岡商工会議所静岡事務所5階ホール
連絡先：Tel:054-238-3240 Fax:054-238-3241

★第4回関東支部研究発表会：日本地質学会関東支部2010年秋季シンポジウム
11月20日（土）〜21日（日）
テーマ：関東平野の地下地質構造 と形成史
場所：日本大学文理学部3号館5階
http://kanto.geosociety.jp/

12月　December

◯第26回ゼオライト研究発表会
日本地質学会　協賛
12月2日（木）〜3日（金）
会場：タワーホール船堀
http://www.jaz-online.org/index.html

◯化学物質のリスク評価セミナー
－化学物質のこれからを知る－
12月17日（金）
場所：自動車会館大会議室（東京都千代田区）
http://www.jswe.or.jp/

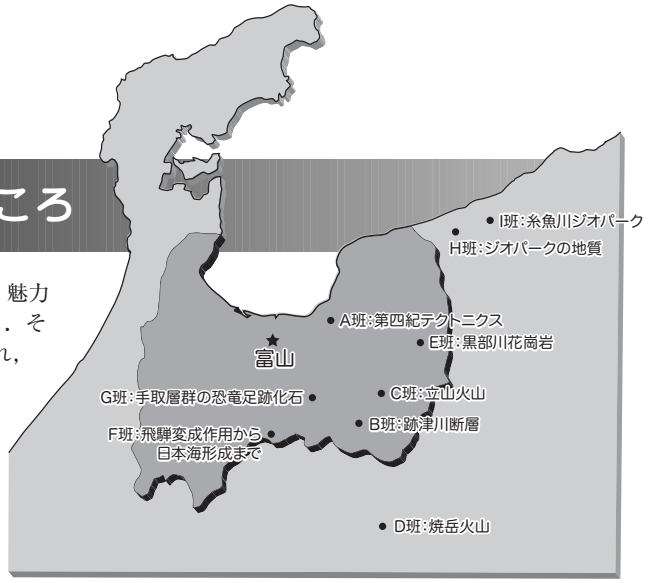
日本の展望
ー学術からの提言2010ー

日本学術会議では10〜20年先の学術のあり方及びその推進政策に対する長期的な考察を「日本の展望－学術からの提言2010」としてとりまとめ，これが平成22年4月5日の第157回総会において採択されました．併せて，「日本の展望－学術からの提言2010」の内容を基礎づけるものとして，13のテーマ別・分野別作業分科会提言及び31の分野別委員会報告をとりまとめ，公表されました．是非ご覧下さい．

本提言・報告については，学術会議ホームページより全文ダウンロードできます．http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/tenbou/

日本地質学会第117年学術大会（富山大会）

見学旅行：各コースの魅力と見どころ



富山大会では中部支部を中心に多くの会員・非会員の協力を得て，魅力的な見学コース（9コース）を用意いたしました（右：一覧地図参照）．その多くがシンポジウムや一般発表終了後の9月21-22日の期間に行われ，続く23日は秋分の日（祝日）ですので,参加しやすい日程かと思います．見学旅行の詳細はニュース誌の5月号p.19-20を参照して頂くこととして，ここでは各コースの魅力と見どころを紹介したいと思います．この機会でないと見学できない対象が多数ありますので，多くの皆様の参加をお待ちしております（**参加申し込み〆切：FAX・郵送8/31,WEB9/3**）．

（見学旅行担当：**原山　智・竹内　誠**）

Ⓐ班
富山積成盆地，北陸層群の広域テフラと第四紀テクトニクス

(9/21日帰り)

案内者：田村糸子・山崎晴雄（首都大）・中村洋介（立正大）

魅力

富山積成盆地を形成したテクトニクス（富山湾側が沈降し，山地が上昇する）を富山平野周縁の丘陵地で確認できること，積成盆地内の鮮新-更新統中のテフラ対比がテクトニクスの時間軸の精密化に大きく貢献していることを実感できると思います．

見どころ

①大田-PMテフラ（3.9 Ma）や谷口テフラ（2.3 Ma），恵比須峠-福田テフラ（1.75 Ma）など，鮮新-更新世の鍵テフラ7層．

②呉羽山断層の最近の動きを示す沖積面の変形や，魚津断層の幅数100mに及ぶ段丘面の長波長の撓曲．

Ⓑ班
跡津川断層系の活断層露頭と飛越地震

(9/21-22)

案内者：竹内　章（富山大）・道家涼介（地層科研）・ハスバートル（土木研）

魅力

跡津川断層は，1858（安政五）年に発生した安政飛越地震の震源断層で，顕著な微小地震活動が観測されています．跡津川断層系は1970年代から内陸活断層のテストフィールドとなっており，GPS測地をはじめ観測データが総合的に集積した結果，日本海側のひずみ集中帯における地殻地震の発生メカニズムの解明が進んでいます．（断層東部の現場は，近年アクセスに様々な規制が強化されていることから，このような機会でないと見学は困難です．）

見どころ

①跡津川断層の中央部～東端部に至る区間で，断層破砕帯や活断層の露頭，段丘の横ずれ変位，河道閉塞，流系のオフセット，飛越地震の傷跡を見学．

②飛越地震における地表地震断層では，上下変位のほか横ずれ変位も確認できます．

③断層岩に興味がある参加者は，健岩と破砕帯，地震断層のガウジなど，各種サンプリングが可能です．

Ⓒ班
立山火山

(9/21-22)

案内者：中野　俊（産総研）・奥野　充（福岡大）・菊川　茂（立山カルデラ砂防博物館）

魅力

活火山である立山火山は中部山岳国立公園内にあり，立入や試料採取の規制が厳しかったり，アプローチが困難だったりして，こうした機会でないと観察や見学は困難な状態にあります．今回は立山黒部アルペンルート沿いの千寿ヶ原から室堂までのコースを見学します．

見どころ

①主な見学対象は，第2期の火砕流堆積物，第3期の溶岩，最新期のテフラ，地獄谷の噴気地帯などで，立入許可を得たうえで歩道を外れて露頭観察をします．

②立山カルデラと五色ヶ原をカルデラ縁から遠望します．

Ⓓ班
焼岳火山の大規模ラハールと火砕流堆積物

(9/21-22)

案内者：及川輝樹（産総研）・石崎泰男（富山大）・片岡香子（新潟大・災害復興科学センター）

魅力

100km以上も流下し富山平野に達した大規模ラハール堆積物が，神通川とその上流の高原川流域に分布します．山岳地域で発生したラハールは火山から遠く離れた平野まで達する

（左から）A班：大桑層中の恵比須峠-福田テフラ．B班：跡津川断層，真川露頭．C班：称名の滝．第2期・第3期火山噴出物からなる．

（左から）E班：黒部川花崗岩中の苦鉄質包有岩濃集相）撮影：谷　健一郎（JAMSTEC）．F班：飛騨片麻岩の露頭．G班：恐竜足跡露頭

ことが多いため，それは火山発達史のみならず河川システムや防災学上重要なテーマとなります．火山地質学のみならず，堆積学，防災関係者の参加も歓迎します．

見どころ

①焼岳起源の大規模ラハールのつくる地形と堆積物
②ラハールの母材，焼岳火山噴出物
③焼岳の観測を行なっている京都大学付属の上宝観測所や穂高砂防観測所の見学．

E班
黒部川沿いの高温泉と第四紀黒部川花崗岩

(9/21-22)

案内者：原山　智（信州大学）

魅力

黒部川峡谷鉄道に乗って，最新の地質成果にふれる見学コースです．この機会を逃すと，個人での見学は困難でしょう．第四紀黒部川花崗岩，大規模マイロナイト帯，高温泉はいずれも飛騨山脈の隆起テクトニクスとの関連でとらえることができます．祖母谷温泉（宿泊地）では，黒部川花崗岩中でのマグマ混合・混交も見学します．なお登山道には入りません．解散時間が早いので，23日に島根大で始まる日本鉱物科学会にも間に合います．

見どころ

①黒部川沿いの高温泉（黒薙・鐘釣・祖母谷温泉）
②第四紀黒部川花崗岩（苦鉄質包有岩・マグマ混合・混交）
③飛騨山脈の隆起テクトニクスに関与したマイロナイト
④花崗岩中の捕獲岩と地帯区分

F班
年代学から見た飛騨変成作用から日本海誕生後までの構造発達史

(9/21日帰り)

案内者：椚座圭太郎・清水正明（富山大）

魅力

飛騨変成作用の時代から白亜紀のテクトニクスを経て，日本海形成前後まで，富山県と周辺地域の構造発達史の早巡り日帰りツアーです．

見どころ

①飛騨変成作用による花崗岩ミロナイトと単斜輝石ミグマタイト
②神岡鉱山杢地鉱と横山衝上断層（白亜紀前期テクトニクス）
③手取層群中の中朝・揚子衝突帯起源の花崗岩礫
④日本海形成前・後の新第三紀層

G班
富山県に分布する上部ジュラ系～下部白亜系手取層群の海成層と恐竜足印化石

(9/21-22)

案内者：平澤　聡（京都大）・柏木健司（富山大）・藤田将人（富山市科学博物館）

魅力

国内初のよろい竜の足跡化石を産出した恐竜足跡化石露頭面のほか，手取層群海成層の岩相や，放散虫化石等の様々な微化石を含む生痕化石を見学します．

見どころ

①手取層群，有峰層・桐谷層の岩相と微化石・生痕化石
②手取層群，和佐府層の恐竜足印化石

H班
糸魚川ジオパークの地質巡り

(9/21-22)

案内者：竹内誠（名古屋大）・竹之内耕（フォッサマグナミュージアム）・中澤　努（産総研）

魅力

新潟県糸魚川市周辺は日本有数のヒスイ産地であり，また代表的な構造線である糸魚川－静岡構造線が分布します．糸魚川市はこれらの多種多様な地質をもとに一般市民への普及活動とジオパークの整備を続け，2009年８月には，糸魚川地域は日本で初めての世界ジオパークに認定されました．一方，2010年春には産総研地質調査総合センターより５万分の１地質図幅「小滝」が発行され，ジオパーク内の地質に多くの新知見が得られています．

見どころ

①フォッサマグナミュージアム展示見学
②糸魚川－静岡構造線露頭
③日本海拡大に伴う中新世枕状溶岩
④青海橋立のヒスイ産地
⑤300 Ma蓮華変成岩の岩相と地質構造
⑥秋吉帯青海石灰岩，舞鶴帯虫川コンプレックス，舞鶴帯と秋吉帯の境界断層

I班
糸魚川ジオパーク　ヒスイ探訪ジオツアー　謎多きヒスイを多角的に楽しもう

(9/17日帰り)

案内者：宮島　宏（フォッサマグナミュージアム）

魅力

ヒスイにまつわる自然科学的な謎，人文科学的謎を多角的にとりあげます．さまざまな色のヒスイ，宝石質ヒスイ，日本最大のヒスイ，生成の科学，ヒスイ中のSr新鉱物，加工と利用，歴史的再発見などなど，ヒスイの魅力をたっぷり堪能していただく探訪の旅です．なお９/20（月）にも，「第９回理科教員対象見学旅行」を同内容で実施予定です．

見どころ

①フォッサマグナミュージアム・青海自然史博物館のヒスイ関連展示見学
②長者原・寺地遺跡のヒスイ
③小滝ヒスイ峡
④青海川ヒスイ峡

見学旅行のお申し込みは・・・・

富山大会ホームページまたは，ニュース誌５月号掲載の「FAX・郵送専用申込書」よりお申し込み下さい．なお，見学旅行だけに参加する場合も大会参加登録ならびに参加登録費は必要です．見学旅行と大会参加登録の申込を合わせて行って下さい．

H班：糸魚川地域全景

国際交流　海外の学術団体との協力・交流活動をご紹介します

韓国忠南大学の九州巡検記録

高木秀雄（日韓交流小委員会／同ジオパーク支援委員会 委員）

韓国忠南大学の地球環境科学教室の一行が，下関～太宰府～長崎～島原半島ジオパーク～阿蘇ジオパーク～別府の５泊６日の巡検を行った．引率者は前大韓地質学会会長で資源地質ご専門のLee, Hyun Koo教授（写真１　前列右端）と，古生物学がご専門のYun, Hyesu教授（同後列左から２人目）である．来日前にLee教授から巡検の話を伺い，学生さんの感想などをぜひ送って欲しい，と依頼していたところ，このたびそれを送っていただいたので，本誌を借りて紹介する．韓国には活火山がないので，韓国から近い九州でぜひ学生にそれを体感させたいということ，また日本のジオパークの活動にも深い関心を持たれていることが，このコースを設定した動機ということである．Lee教授は早稲田大学理工学研究科で学位をとられており，日本語が堪能であることから，すべて旅の手配は旅行会社と連絡して独自になさっていた．日本国内での旅行でも，ホテルより民宿を好む庶民的な方である．巡検の１週間程前に，島原では大野希一さんに案内をお願いすることができたが，阿蘇にも移動して半日だけでも見学したいので，可能であれば案内いただける方を紹介いただきたい，という電話が入った．そこで，阿蘇火山博物館館長の池辺伸一郎さんに連絡したところ，ちょうどランカウイのユネスコ世界ジオパーク会議に参加されており，帰国早々に案内を快く引き受けていただいた．韓国や中国の学生巡検にジオパークを利用していただくことは，国内のジオパークの今後の発展にもつながる．特に韓国と九州は至近距離にあり，Lee教授は毎年でも学生を連れて来たい，また中国の仲間にも，宣伝しておく，と電話で話しておられた．この巡検では，関釜フェリーを利用し，学問の神様の太宰府や長崎の平和公園・原爆資料館などもまわってから島原に入ったそうである．長崎では永井隆記念館に展示されている被爆した緑夫人がつけていた融けたロザリオが，学生に強い印象となって残ったようである．最終日は別府で本物の温泉を堪能したとのことであった（忠南大学が存在する太田市郊外の儒城（ユソン）も韓国では大変有名な温泉地であるが，火山性のものではない）．

写真1　太宰府天満宮にて

今年は韓国で初めて済州島が，また国内からは山陰海岸とともに阿蘇が世界ジオパークを目ざしており，今後アジアの中でのジオパークの交流を深める意味で，地質を学ぶ学生の巡検も重要な要素となることが期待される．今年８月23日から室戸ジオパークで開催される韓日地質学会合同大会（構造地質部会主催）では，韓国の学生が26名ほど集まる予定であり，若者どうしの交流も進むことが大いに期待される．

Field Trip to Kyushu, Japan

（18. - 23. April 2010）

Students of Department of Geology and Enviromental Sciences, Chungnam National University,
summarized by Prof. Lee, Hyun Koo and Prof. Yun, Hyesu

On 18. April we started our field trip from the university campus to study volcanic geology in Kyushu, one of the most representative volcanic area in the world. Waiting the bus in campus we were all slightly excited and exhilarated, since we will be soon facing inexperienced geological objectives as well as Japanese historical remains during our journey scheduled for five nights and six days.

Busan-Shimonoseki-Nagasaki

On board of the ferry to Shimonoseki, we all felt, as if we were on cruise ship enjoying fresh ocean wind and flickering light of harbor Busan that was slowly fading away in the darkness with rising ship engine noise. After arriving in Shimonoseki in next morning, we were heading to Fukuoka to visit 太宰府 天滿宮 (Dazaifu Tenmangu). It is said this palace was dedicated to the god of study. Although we first had a sightseeing on the palace before geological outcrop, first day program in Japan was not so bad, because it is not a usual palace but was once a residence of a great scholar, we all geologist also adore. After delicious lunch of Japanese style at Tenmangu, we moved to Nagasaki, and looked around Atomic Bomb Museum, and Peace Park. Among the uncountable victims, tragedy of Dr. Takashi Nagai's family is relatively well known by his later writings. Remains of his wife's skull with her Rosario displayed in a corner of the museum was long inscribed in our mind. In rainy afternoon we left Nagasaki remembering again terrible result of war and praying everlasting peace in Japan.

Unzen, Shimabara

In late evening 19. April, we arrived in a nice hotel of Japan-traditional style in Unzen volcanic area Geopark. The relatively small town welcomed us with smell of sulfur and volcanic gases. Next morning (20. April) we were picked up by Dr. Marekazu Ohno (Promotion office, Unzen volcanic area Geopark), and finally ready to explore hellishness of this Geopark together. The volcanic rock of this area is composed of dacite. So-called Unzen Hell showed us

写真2　島原半島原城址にて

Unzen volcano is still alive by various volcanological phenomena such as vigorous gas fume, heat, hot mineral water, bubbling mud mounds and precipitated sulfur blocks or layers. According to Dr. Ohno's explanation this "hell-spa" area is not actually formed by a single crater but built by subsided ground of numerous small craters. In this morning the weather was cloudy, and the air in the park was filled with sulfur smell and water vapor, so that foggy scenery of the park really looked like a hell. Affection of the active volcanoes were amazing from various aspects, since they changed soils, local vegetation and agricultural product, as well as life style of the human being in this area.

Next stop was the Onokoba elementary school buried and burned out in 1991 by hot pyroclastic flow heat. Many village houses are also damaged by such natural disaster. Some of them were conserved in buried state and open to public in the "Memorial Park of houses destroyed by debris flow". The Unzen volcanoes are characterized by dacitic lava that were known to be erupted frequently since 300 ka. The eruption and pyroclastic flow from Fugendake in 1991 seems to be one of the youngest eruption in Shimabara peninsula. The third outcrop was well developed along the coast near Hara castle.

We studied basement sediments belonging to Kushinosu Formation and pyroclastic layers with pumice originated from Aso volcano. It was real surprising to see volcanic ashes and pumice transported long way across the Ariake Sea from Aso 90,000 years ago. We had opportunity to visit old castle, where many Catholic people were killed under Tokugawa Ieyasu regime. The ruin situated on 30 m high coastal cliff appeared very desolately. However, this castle ruin may become very meaningful touristic place, since it hided tragic stories. On the way back to hotel we had foot bath in village Obama, west coast of Shimabara. We all were surprised by huge amount of hot water flew out from the ground. We saw today two different faces of volcanoes that influenced inhabitation of the human being. Finally, one question we bewared the whole day was solved, why they have lived near dangerous volcanoes.

写真3　阿蘇中岳にて

Aso caldera − Beppu　Nakadake central cone

On 21. April we crossed the Ariake Sea for Kumamoto by ferry to see Aso Mountain, one of the world's largest composite active volcano crater. Dr. Shinichiro Ikebe (Director, Aso volcano museum) guided us enabling detailed observation on different layers of volcanic ashes and other pyroclastic flows.

Luckily, the weather was not so bad and windy allowing us climbing up to the top of crater to see crater lake filled by very acidic jade-blue water. Nakadake, the only active central cone in Aso caldera, is a stratovolcano of basaltic andesite to basalt and has the longest documented volcanic history since AD 553. A hot water pool occupies the crater bottom during dormant periods, whereas the vent ejects ash, scoria and bombs during active periods. After taking a look on basaltic outcrop near caldera wall encircling the Aso volcano we moved to Beppu.

In the city Beppu, very famous hot spring area in Japan, we enjoyed the last night of our field trip having bath and walking around in the beautiful downtown. The time during the field trip passed away very fast, because we had multiple amusement in this visit through study of "live geology", exotic nature, and historical ruins with awful stories. We think, Unzen, Aso, and Beppu are really amazing places by its geology and touristic attraction we want visit over and over.

Our field trip was made possible by the generous support of Dr. Marekazu Ohno and Dr. Shinichiro Ikebe, and Prof. Hideo Takagi (Waseda Univ.). All participants appreciate very much for their help.

支部コーナー

☆近畿・四国・西日本支部報告

市民向け普及講演会 『ジオ・シンポジア2010 in 北九州』開催報告 日本地質学会近畿・四国・西日本支部三支部合同例会

去る7月18日，日本地質学会近畿・四国・西日本支部の合同例会として，市民向け普及講演会『ジオ・シンポジア2010 in 北九州　～環境を考える新しいキーワードGEO～　ジオの視点を取り入れた地域振興とジオパーク活動』が開催された．三支部による合同例会は隔年で開催されており，本年度は西日本支部が担当であった．今回は，島原半島ジオパークが，昨年，日本で最初の世界ジオパークに認定され，さらに多くの日本ジオパークが位置している三支部の合同例会であるので，多くの市民の方々に，ジオ（地質・地理・地域）の視点での地域活動，その代表としてのジオパーク活動を通して，地域の再評価と活性化・地域振興を身近なものとして感じ，理解して欲しいと考え，市民向け普及講演会を企画した．講演会は，現在，循環型社会の構築とエコタウン構想を展開し，また多くの地質遺産を

持つ北九州市の北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）を会場として催された．開催にあたっては，大木公彦前西日本支部長（鹿児島大学教授）を委員長として『ジオ・シンポジア2010 in 北九州実行委員会』を設立し，日本地質学会近畿・四国・西日本支部の共催で実施された．

まず初めに，特別講演として矢田俊文北九州市立大学学長に「GEOの世界　―地質・地理そして地域―」の講演をいただいた（写真１）．講演では，矢田学長の地質学と経済学の研究をなされたご経歴を基に，日本の石炭産業の盛衰について，社会背景の中で働いた経済の論理と地質の論理についての分析と，地質遺産として炭坑遺跡の価値についてお話をいただいた．

写真１　矢田俊文北九州市立大学学長による特別講演

写真２　会場風景．支部会員に加え，地元大学生を含めて多数の一般参加者によって埋め尽くされた会場．

写真３　ジオパーク関係者によるパネル討論会．左より，司会の大木公彦実行委員長，ならびに岩松　暉（前地質情報整備・活用機構会長），吉倉紳一（室戸ジオパーク），三田村宗樹（山陰海岸ジオパーク），長谷義隆（天草御所浦ジオパーク），池辺伸一郎（阿蘇ジオパーク），井村隆介（霧島ジオパーク）の各パネリスト（敬称略）．

続いて，杉本伸一島原ジオパーク事務局（雲仙災害記念館副館長）より「世界ジオパーク日本第1号　島原半島ジオパーク」として，雲仙普賢岳の噴火から世界ジオパーク認定に至るまでの市民を含めた地域全体での取り組み，島原半島ジオパークの見どころ，そしてこれからに向けての方策についての話題提供をいただいた．今後，島原半島ジオパークでは，火山災害という負の側面だけでなく，豊富な温泉や地下水，火山性土壌による特産物などの火山の恵みの紹介にも力を注ぎ，ジオパークとして何を訴え，何を理解してもらうのか，そしてどのようなジオパークを目指すのか，また地域活性化に向けより多くの市民との連携について考えていくことが重要であろう，とのお話があり，これらは後に続くジオパーク関係者にとって，きわめて有益な助言となった．

お二方からのご講演を受けて，日本におけるジオパーク普及に尽力されてこられた岩松　暉前地質情報整備・活用機構会長，ならびに，現在，ジオパークの設立・運営に携わっておられる吉倉紳一高知大学教授（室戸ジオパーク），三田村宗樹大阪市立大学教授（山陰海岸ジオパーク），長谷義隆天草市立御所浦白亜紀資料館長（天草御所浦ジオパーク），池辺伸一郎阿蘇火山博物館長（阿蘇ジオパーク），井村隆介鹿児島大学准教授（霧島ジオパーク）をパネリストとしてお迎えして，現在，展開されている各ジオパークの特徴や特筆すべき点，また問題点や苦慮されている点などの紹介がなされた（写真３）．いずれのジオパークにおいても，行政・NPO法人・市民・学識関係者・教育関係者などが一体となって様々な工夫がなされており，案内板の整備や市民ガイドの養成などが進んでいることが紹介され，地質遺産はもとより，地質学的背景に起因する生物地理学的・民族歴史学的価値の発掘（霧島ジオパーク）や特産物の紹介（例えば，「コウノトリの育むお米」山陰海岸ジオパーク）などが行われていることが報告された．また既存団体との連携についても，民泊を活用した体験学習（天草御所浦ジオパーク）や既存山岳ガイドへのガイド養成講座（霧島ジオパーク）などの取り組みが紹介され，さらに地域への教育普及面では，地域高校での授業科目としてのジオパーク学の開講（室戸ジオパーク），学習用副読本の作成（霧島ジオパーク）などが紹介された．一方，多様化する価値観や幅広い訪問者への判りやすい説明板，あるいはマスツーリズムからの脱却（阿蘇ジオパーク）など，検討すべき問題点についても報告された．各パネリストの発表後，太田泰弘北九州市立自然史・歴史博物館学芸員から，多様な時代の様々な地質により構成される北九州の地質学的特徴や，平尾台，恐竜，大珪化木，あるいは曽根干潟のカブトガニなど，開催地北九州市の豊富な地質遺産・資源についての紹介がなされ，今後の北九州のジオパークの可能性について紹介された．各パネリストのジオパークへの熱意のあまり大幅に時間は超過したものの，各ジオパークにとっては多くの情報を共有することができ，きわめて有益な時間となった．また多くの一般参加者の方々には，ジオパーク，ひいてはジオ（地質・地理・地域）の視点での地域活動の重要性を認識していただけたものと思われる．

当日は梅雨明け直後の好天に恵まれ，また会場がJRスペースワールド駅近くの交通利便な場所に位置することから，214名（うち支部会員27名）という多数の来場者を得た．多くの市民の方に加え，地元大学生も講義の一環として参加し，ジオの視点での地域活性化のあり方に耳を傾けていた．またシンポジウム翌日には，間島ならびに曽根干潟でのカブトガニ観察を中心とする巡検も開催され，こちらにも講師を含め24名の参加者があり，北九州のジオを体験していただけたものと思われる．

シンポジア開催にあたり，矢田俊文北九州市立大学学長には特別講演を快くお引き受けいただいた．また企画・準備・運営にあたっては，実行委員をはじめとして，太田泰弘西日本支部幹事を中心として北九州市立自然史・歴史博物館の方々，ならびに北九州市立大学・九州大学の学生諸氏に献身的に動いていただき，大きなトラブルもなく開催することができた．巡検では，高橋俊吾・野井英明・平野國臣・矢野正孝・梅崎恵司諸氏には，講師を快くお引き受けいただいた．なお開催にあたって，北九州市立自然史・歴史博物館，北九州市環境局，北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会にご後援を，西日本産業貿易コンベンション協会にご協賛を，また福岡県環境教育学会にはご協力をいただいた．この場を借りて，深謝いたします．

（文責：ジオ・シンポジア2010 in 北九州実行委員会　**松田博貴**）

Islands Arcは，年4回発行されます．最新号のVol. 19 Issue 2が2010年6月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://www. blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

2009年度Island Arc編集委員会報告

日本地質学会Island Arc編集委員会

日本地質学会の公式英文誌であるIsland Arc（IAR）の発行から19年目を迎えました．来年，20年という節目を迎えるIARですが，発行開始以来，皆様の御助力を得て，着実に発展して参りました．ここでは出版社であるW-B社から送られてきた出版報告をもとに，IARの現状を地質学会の会員の皆様に御紹介します．

なお，すでに機会があるごとに周知しておりますので，皆様，御存知と思いますが，IAR編集事務局は，長らく産業技術総合研究所（つくば）内にありましたが，本年4月より，日本地質学会事務局（神田）に移動いたしました．また，2005年9月より編集事務局長を担当された竹内圭史会員と角替敏昭会員が退任され，本年4月からは原　英俊会員が同任務を担当されております．さらに，編集事務が佐藤美子さんから阿南晶子さんにバトンタッチされました．

第18巻に40編の論文を掲載

2009年発行の第18巻には40編（Pictorialの1編およびPrefaceの3編を含む）の論文が掲載され，全ページ数は672ページでした．IARの論文数と総ページ数は，2005年の49編（716ページ）という例外を除けば，2004年が35編（552ページ），2006年が44編（548ページ），2007年が47編（606ページ），2008年が37編（594ページ）と，35～45編（550～600ページ）程度で推移してきました．しかし，W-B社と2009年以降のページ数増の契約により，第18巻は672ページとなり，2010年発行の第19巻は約750ページ，2011年の第20巻は約825ページとさらにページ数が増加する予定です．第18巻には「東および西アジアの地質構造　東テチスの古地理と古環境」の後半（Prefaceを含め，論文11編），「微小領域年代学と微小領域化学：その問題点，展望，地質学への応用」（Prefaceを含め，論文5編），第22回ヒマラヤ・カラコルム・チベット　ワークショップの成果」（Prefaceを含め，論文6編）という3つの特集が掲載されました．近年，特集号の掲載が増えたため，一般論文の受理から掲載までの時間が長くなっておりましたが，この事態は，本年になり，やや改善されました．

第18巻掲載論文の第一著者の所属は，日本が19編で最も多く，続いて中国（4），インド（4），韓国（2），アメリカ（2），オーストラリア（1），ドイツ（1），ハンガリー（1），イラン（1），イラク（1），フィリピン（1），台湾（1），タイ（1），イギリス（1）となっています．投稿原稿および掲載論文の半数以上が，海外の研究者を第一著者とするものであり，これはIARが名実ともに国際的な学術誌であることを示しています．

ダウンロード数がやや増加

2009年にはIARの講読状況は，オンライン講読と機関講読の合計が105機関となり，前年の99機関から6％増加しました．一方で地質学会の会員講読は2009年の172名から2010年は165名とやや減少しました．コンソーシア図書館のオンライン購読は3,220から2.5%減り3,141機関になりました．Wiley InterScienceサイトからの論文のダウンロード数は，2007年には22,357件でしたが，2008年には17,990回と約20%減少しました．しかし，2009年には18,757と約4％増加しました．なお，参考までに，ダウンロード数の多い論文の上位10編を表1に示します．10編中9編が2005年（第14巻）以降の論文であり，7編は2008年（第18巻）掲載論文です．しかし，10年以上前の論文であるにもかかわらず，2009年もMaruyama et al.（1997）論文が最もダウンロードされた点が注目されます．

表1　2008年にWiley InterScienceサイトからからダウンロードされたIAR論文のうち，上位10編．

ダウンロード数（件）	［巻-号，ページ］，著者（年）
199	［6-1，121］Maruyama et al.（1997）
197	［18-1，3］Barber abd Crow（2008）
169	［18-1，184］Chakraborty & Khan（2008）
155	［18-1，155］Ahmad et al.（2008）
152	［18-1，1］Hisada & Yumul（2008）
150	［14-4，442］Bortolotti & Principi（2005）
143	［17-4，458］Lee（2007）
136	［18-2，266］Choi et al.（2008）
128	［18-1，32］Srichan et al.（2008）
128	［18-1，21］Kamata et al.（2008）

2009年インパクトファクターは1.182に上昇

過去5年間に発表されたIARのインパクトファクター（IF）は，2004年0.843，2005年の1.167，2006年0.762，2007年0.837，2008年1.038でした．2009年のIFは1.182で，2008年に引き続き1.0を超えました．また，2007年以降，3年連続で向上しています．なお，昨年新設された5年IFも1.214から1.396とやや上昇しました．しかし，IARのGeosciences（Multidisciplinary）分野での位置は，昨年の80位（143誌中）から82位（153誌中）とほぼ横ばいの状態であり，まだまだ雑誌の地位向上のために努力が必要です．

Island Arc賞

2009年度の「Island Arc賞」受賞論文は，Bortolotti, V. and Principi, G.（2005）Tethyan ophiolites and Pangea break-up. Island Arc, 14, 442-470に決定されました．授賞式は日本地質学会年会（岡山）において行われ，宮下会長から賞状と賞金が贈呈されました．2010年受賞論文は，Wu, F.-Y., Yang, J.-H., Lo, C.-H., Wilde, S. A., Sun, D.-Y. and Jahn, B.-M.（2007）The Heilongjiang Group: a Jurassic accretionary complex in the Jiamusi Massif at the western Pacific margin of northeastern China. Island Arc, 16, 156-172です．

今後のIARの展望

前年までと同様，編集委員会では，積極的に特集を組む方針です．これは，一般論文の受理数に変動があり，IARの安定した発行のためには特集号に頼らざるをえないためです．しかし，関心度の高い特集の掲載は、IARが国際的に注目され，結果と

してIFが向上すると期待されます．現在，2件の特集が企画されています．国際学会やシンポジウムを企画なさる場合，優れた研究成果を特集として出版することを計画していただけますよう，お願いいたします．

IAR編集委員会では、引き続きIARを優れた学術雑誌とすべく，掲載論文の質の向上に務めていきます．投稿のモチベーションを高めるため，W-B社の御厚意により，今年度から最多ダウンロード賞*が設けられました．しかしながら，IARを優れた学術雑誌にするためには，何よりも会員の皆様方からの積極的な投稿が肝要です．今後も，IARの発展のために，会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします．

*最多ダウンロード賞（Most Downloaded Award）は，授賞年の前年に最もダウンロード数の多かった論文となります．ただし，対象となる論文は，受賞年の前々年から遡って過去5年間に発表された論文とします（例　2010年の受賞論文の場合，2004年～2008年に出版された論文のうち，2009年に最もダウンロードされた論文となります）．なお，2010年の最多ダウンロード賞は，Bortolotti, V. and Principi, G.（2005）Tethyan ophiolites and Pangea break-up. Island Arc, 14, 442-470との連絡を受けております．最多ダウンロード賞の受賞者には，W-B社より賞状が与えられます．

院生コーナー

KANAME平成21年度研究集会報告

本多　剛
大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻
博士前期課程1年

KANAMEと研究集会について

KANAME（超深度海溝掘削）は，南海トラフにおける海溝型巨大地震を引き起こす断層を直接掘削し，試料の採取・分析を行い，さらに掘削孔内で計測・観測を行うことで，海溝型巨大地震準備・発生過程の解明に迫ることを目的とする研究組織です．この組織は，南海トラフ地震発生帯の大局面構造の把握と海底面変動の理解を目的とするグループ，断層の物質と力学的・水理学的性質の理解を目的とするグループ，そして，地震準備発生過程のモデル構築と検証を目的とするグループの，主に3つのグループから構成されています．これらの3つのグループを総括，統合することによって海溝型巨大地震の新しい描像を得るため平成21年に文部科学省科学研究補助金を受け，新学術領域研究としてKANAMEが発足されました．

その第1回KANAME年度末研究集会が2010年3月8日（月）-9日（火），休暇村南阿蘇において行われ，また翌10日には同KANAME研究グループのメンバーで延岡衝上断層の巡検が行われました．院生，学生を含め，約60名以上の方々が本研究集会に参加しました．本研究集会は前年度（平成21年度）の研究内容の報告，今年度の研究計画を報告し，各研究グループにおける来年度の意向，方針を定めることによって結束を深め，他の研究グループとの連携を深めることを目的としました．

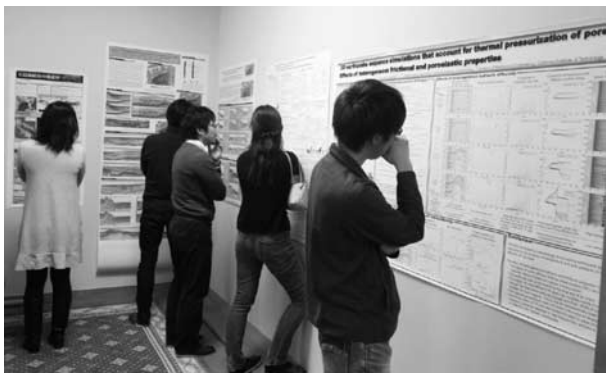


写真2　ポスター発表風景

写真1　木村教授による講演

私の体験記

参加した当時は，私はまだ学部4年生であり，地球科学に関する知識が浅いため各研究者の話についていけるか不安でしたが，他の研究者たちがどのような研究を行っているか興味があり，また多くの人と交流ができるという期待も込めて現地に向かいました．

研究集会は講演とポスターセッションで構成されました．主に研究者が前年度の研究進歩状況を講演し，PD，院生，学生は各自の研究内容をポスター発表しました．講演はKANAME代表者である東京大学・木村学教授から始まり，その後，各研究者による講演が続きました．私が行っている研究分野と共通した内容の話はなんとか理解することができましたが，私にとって少し身近でない分野の話になると，聞きなれない単語が多く，日頃の勉強不足を後悔してしまいました．それでも，私の研究領域とは異なる地震波を用いた南海トラフの地下構造探査，シミュレーションによる地震モデルの話は私にとって新鮮で，新しい知識を与えてくれました．南海トラフにおける巨大地震の解明を探るにあたり，多岐にわたる分野の研究者が活躍していること，また質問の時間において，お互いの研究の領域を超えて活発な議論も飛び交ったことに大変驚かされました．

私は，卒業研究の内容をポスターで発表させて頂きました．私の内容は他の学生と比べ研究手法，分析手法が異なっていましたが，多くの先生に興味も持って頂き，有益なアドバイスも頂きました．今回，他の先輩方のポスターをも見させていただきました．先輩方の内容は十分に考察されものであり，また見栄えもよく，説明もわかりやすかったため，今後のポスター構成，発表の参考になりました．

集会の最後には，グループ毎の話合いも行いました．話合い

写真 3　集合写真 at 休暇村南阿蘇

写真 4　集合写真 at 延岡衝上断層

の中では，各グループ独立して個別に研究を進めるのではなく他のグループと協力し，総合的に研究を進めていくことが重要だという意見が出ました．私は研究を始めてまだ月日が浅いため，物事を包括的に見て理解することは難しく，未熟だとは思いますが，この意見に強く共感しました．将来，研究を進めていく上で広い視野を持って，他分野と連携を取りながら，未知の領域を開拓していく気持ちを常に持ちながら，研究に取り組みたいと思うようになりました．

集会が終わった翌日には同メンバーで延岡衝上断層の巡険を行いました．

目的地の露頭に辿りつくには，急な崖を降りなければならず，一人ずつロープを使って足を滑らせないよう慎重に降りて行きました．難所の先には九州の海を見渡せるきれいな露頭が広がっていました．そこで，先生方は地質に対する意見を交わしており，その中身が細部まで注目しているものであったため，私は自分も議論しあえるよう努力しなければと思いました．

その後，目的の断層までは楽に辿りつくことができ，断層の前で集合写真をとりました．私は，九州の地質を見ることが初めてで，普段見慣れないものを多く見ることができ，感動しました．場所によって地質は様々な形態を見せてくれ，それを形成する地球の活動には本当に驚かされます．

今回の集会，巡険に参加したことにより，地球科学の面白さを再確認することができました．まだまだ研究者としては未熟ではありますが，ひとりの研究者として責任をもってこのプロジェクトに貢献していきたいと思います．今回の研究集会による経験は，私にとって今後の自分が行うべき研究のあり方を考えさせてくれた有意義なものでありました．

KANAME事務局には，本感想文への写真の提供をしていただきました．ここに深く感謝いたします．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の 3 名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）
k1799462@kadai.jp　中谷大輔（鹿児島大）
miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）

学会オリジナルフィールドノート 好評発売中です！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

日本地質学会編集 日本地方地質誌 <全8巻，函入上製本>

『日本地方地質誌』刊行委員会　刊行委員長：加藤碵一　副刊行委員長：高橋正樹

第5回配本　8．九州・沖縄地方　650頁，口絵8頁

（7月下旬刊行）

編集委員長：佐野弘好　　副編集委員長：西山忠男・長谷義隆

定価27,300円（税込）を会員特別割引価格 24,000円（税・送料込）

日本地質学会会員の皆様に日本地方地質誌を特別割引価格で販売をいたします．
お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会「日本地方地質誌」刊行委員会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店

［問い合せ先］〒162-8707　東京都新宿区新小川町6-29
株式会社 朝倉書店　　編集部：千葉　　Tel. 03-3260-1967
［お申し込み］本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

会　員　特　価　申　込　み　書

Fax No.03-3268-1376　朝倉書店編集部　千葉 行

日本地方地質誌	8．九州・沖縄地方	会員特価24,000円（定価27,300円）	冊
日本地方地質誌	3．関東地方	会員特価24,000円（定価27,300円）	冊
日本地方地質誌	4．中部地方	会員特価22,500円（定価26,250円）	冊
日本地方地質誌	5．近畿地方	会員特価20,500円（定価23,100円）	冊
日本地方地質誌	6．中国地方	会員特価22,500円（定価26,250円）	冊

［第6回配本］　1．北海道地方　（2010年11月刊行予定）
以下続刊：続刊も刊行次第順次ご案内いたします．　2．東北地方　7．四国地方

お 名 前：

ご送付先：〒　　-

ご 所 属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	

（フリガナ） 口座名義人		金融機関お届け印
	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人		ゆうちょ銀行お届け印
	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 ［　　］ 0 の	

払込先口座番号	００１１０－５－５８８３０	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード：１８４７６０００	顧客コード：００００００	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄	（不備返却事由） 1.預金（貯金）取引なし　3.印鑑相違 2.記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義 4.その他（　　） 備考			
	検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日付印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円切手貼付

〒101-0032

東京都千代田区岩本町二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

裏面のりしろ②

キリトリ線

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

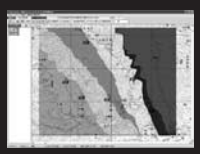
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

・**GeoClino-G**（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

GSI ジーエスアイ株式会社
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格(白黒)	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10%割引
6回掲載一括注文：15%割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

日本地質学会 第117年学術大会

開催期間：2010年9月18（土）～20日（月・祝）

富山大学五福キャンパス（黒田講堂・共通教育棟）

高度差4000mの地質学

小さな Earth Scientists のつどい

第８回 小・中・高校生「地学研究」発表会

日時：9月19日（日）09：00～15：30

場所：日本地質学会学術大会ポスター会場
（富山大学五福キャンパス　共通教育棟）

＊市民プラザでの関連行事

地質情報展 2010 とやま

『海・山ありて富める大地』

日時：9月18日（土）～ 9月19日（日）

場所：富山市民プラザ アトリウムほか

市民講演会

東　洋一「アジアの恐竜と日本の恐竜」

寒川　旭「大地に刻まれた地震痕跡」

日時：9月18日（土）14：00～15：40

場所：富山市民プラザ アンサンブルホール

Toyama Japan

主 会 場　富山大学五福キャンパス
第２会場　富山市民プラザ

アクセスマップ

お問い合せ　日本地質学会
東京都 千代田区 岩本町2-8-15 井桁ビル6F
TEL 03-5823-1150　URL http://www.geosociety.jp/

後 援：NHK 富山放送局　チューリップテレビ
北日本放送　富山テレビ放送　北日本新聞社
富山新聞社　富山県　富山県教育委員会
富山市　富山市教育委員会　富山大学

©Kishimoto, K.

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp